

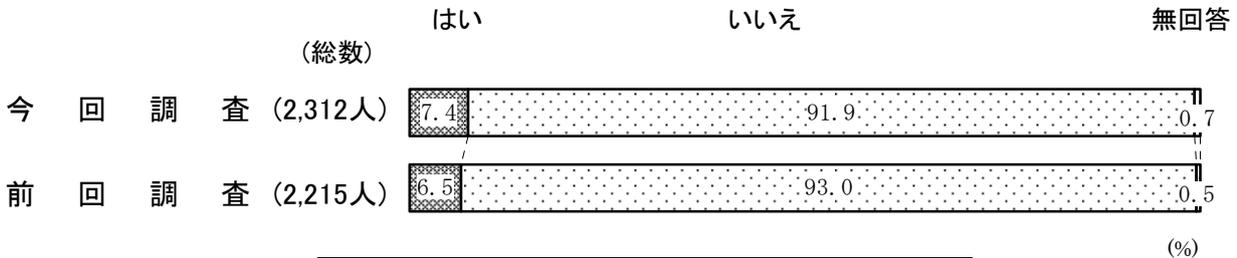
Ⅱ 調査結果の概要

II 調査結果の概要

1 あなたご自身のことについて

(1) 自分自身のがんの経験の有無

問1-4 あなたは、がんを経験されたことはありますか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	7.4	91.9	0.7
前回調査	2215	6.5	93.0	0.5

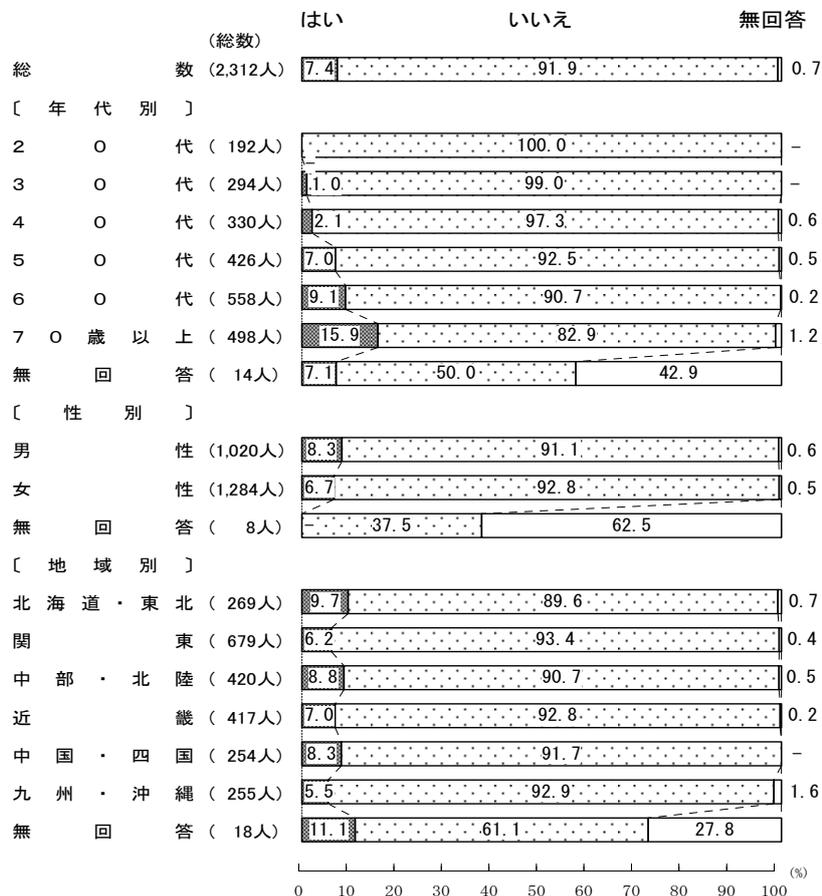
がんの経験があるかをきいたところ、「はい」が7.4%となっている。
 前回調査では、「はい」が6.5%であり、今回とは有意差はみられない。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなる傾向がみられ、70歳以上では15.9%と高くなっている。

性別、地域別での差はみられない。

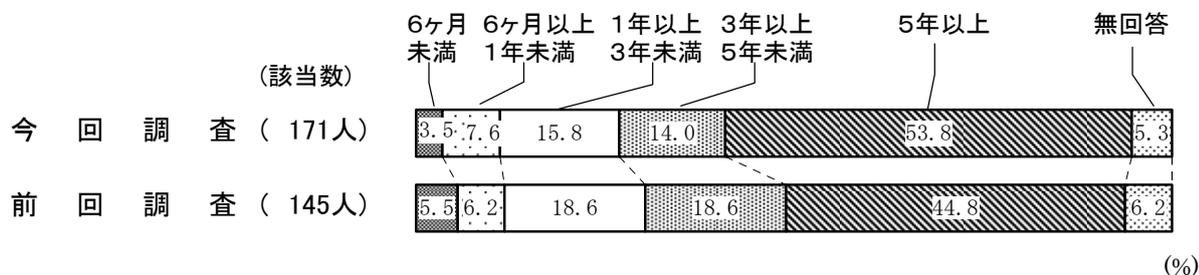
<図1-4>

図1-4 自分自身のがんの経験の有無



(1) - 1 一番最初にがんと診断された時期

問1-4 補問1 (問1-4で1「はい」をお選びの方に)
 一番最初に、がんと診断されたのは今からどの位前になりますか。(〇は1つ)



	該当数	6ヶ月未満	6ヶ月以上1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上	無回答
今回調査	171	3.5	7.6	15.8	14.0	53.8	5.3
前回調査	145	5.5	6.2	18.6	18.6	44.8	6.2

がんの経験があると答えた者(171人)に、一番最初にがんと診断されたのは今からどの位前になるかをきいたところ、「6ヶ月未満」(3.5%)と「6ヶ月以上1年未満」(7.6%)を合わせた“1年未満”(11.1%)が1割強となっている。「1年以上3年未満」が15.8%、「3年以上5年未満」が14.0%、「5年以上」が53.8%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「5年以上」が9ポイント高くなっているものの、該当数が少ないために有意差はみられない。

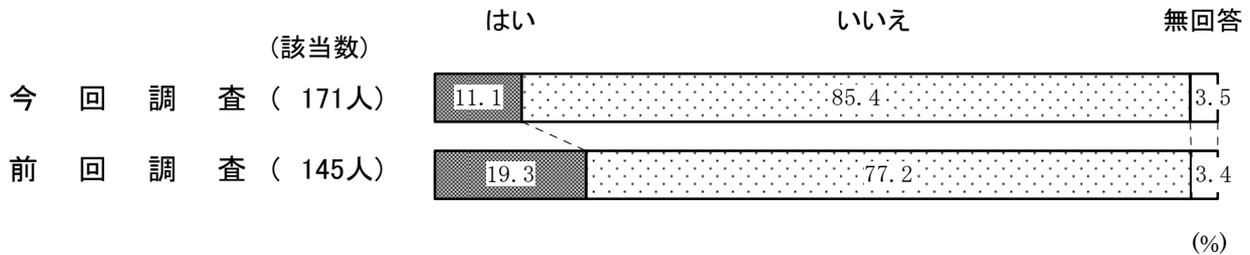
※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

(1) - 2 がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問1-4 補問2 (問1-4で1「はい」をお選びの方に)

あなたは、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがありますか。

(○は1つ)



	該当数	はい	いいえ	無回答
今回調査	171	11.1	85.4	3.5
前回調査	145	19.3	77.2	3.4

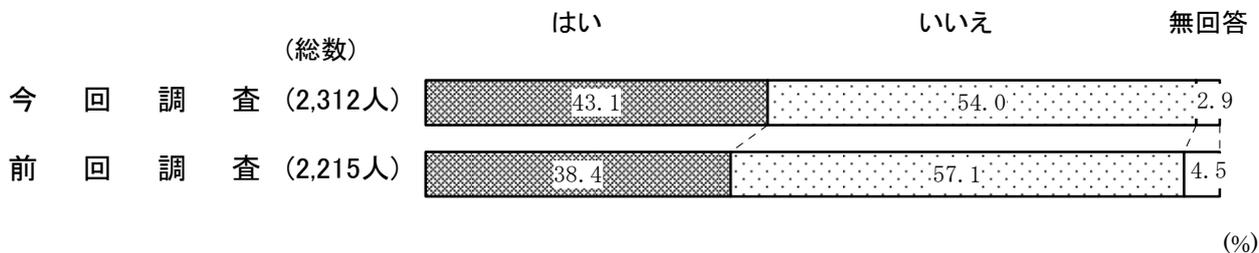
がんの経験があると答えた者(171人)に、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が11.1%、「いいえ」が85.4%となっている。

前回調査と比較すると、「はい」は19.3%から11.1%に減少し、有意差がみられる。

※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。

(2) 現在の通院状況

問1-5 あなたは、現在、がん以外の何らかの病気で病院や診療所に通院していますか。
(○は1つ)



(%)

	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	43.1++	54.0-	2.9--
前回調査	2215	38.4	57.1	4.5

現在、がん以外の何らかの病気で通院しているかをきいたところ、「はい」が 43.1%、「いいえ」が 54.0%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「はい」が5ポイント高くなっており、有意差がみられる。

年代別にみると、年代が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、60代(54.8%)、70歳以上(71.7%)では過半数を占めている。

性別にみると、「はい」は男性(47.5%)が女性(39.7%)を8ポイント上回っている。

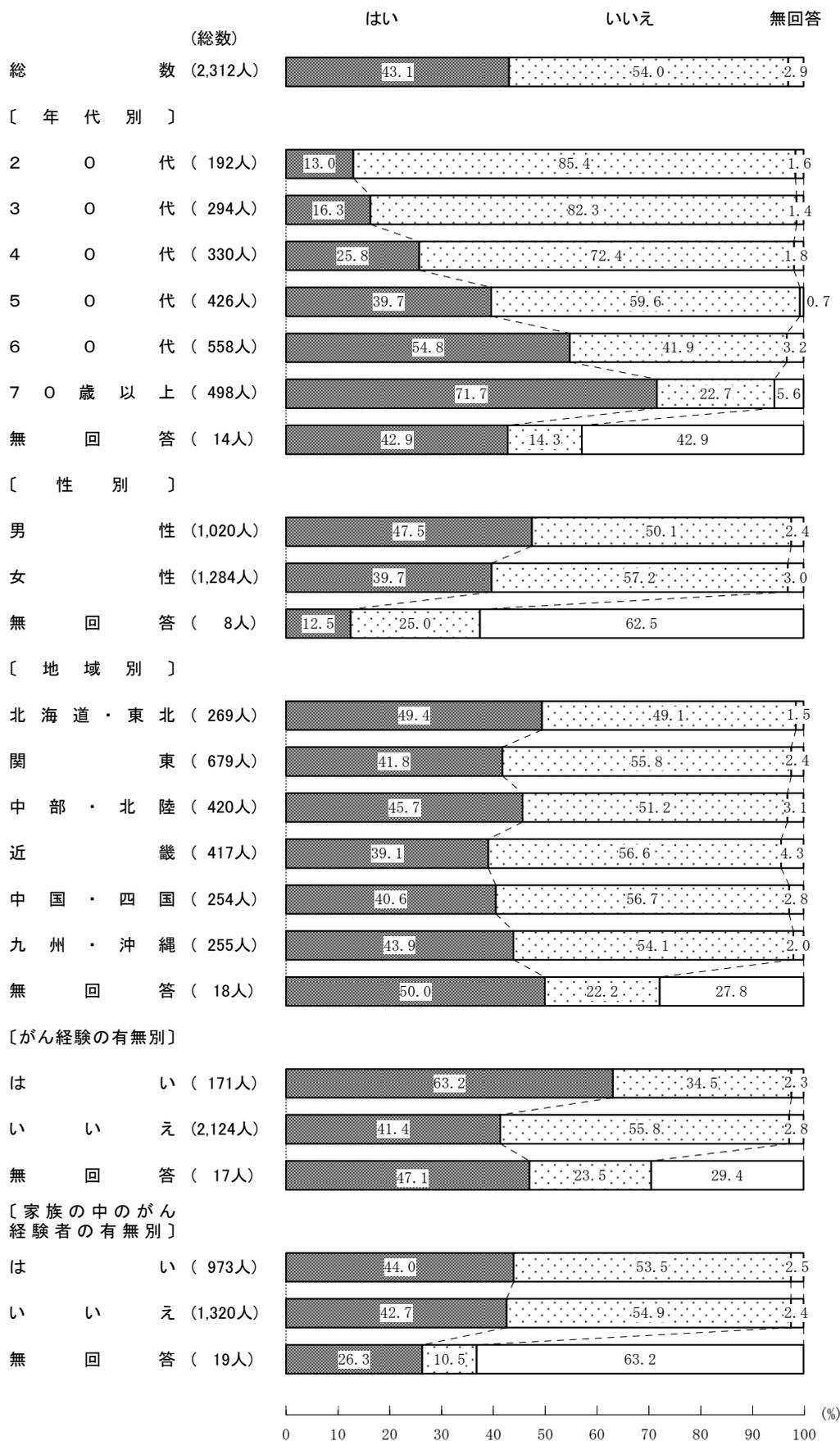
地域別にみると、「はい」が北海道・東北(49.4%)でやや高く、近畿(39.1%)と中国・四国(40.6%)でやや低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」は63.2%となっている。

家族の中のがん経験者の有無別では差はみられない。

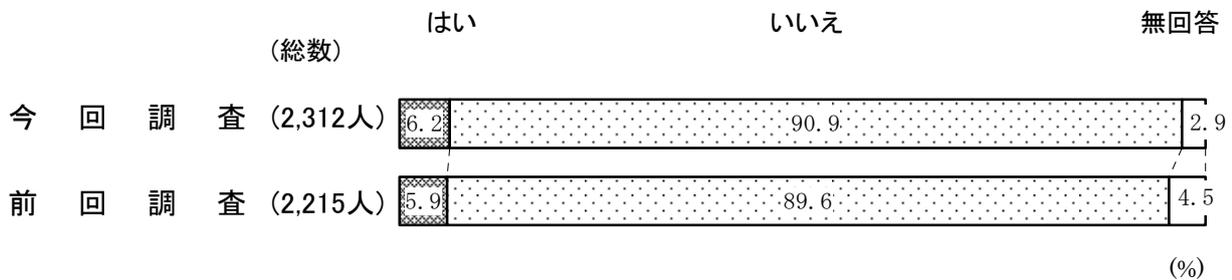
<図1-5>

図 1-5 現在の通院状況



(3) 医療職・非医療職別

問1-6 あなたは、現在、医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師などの医療職に就いておられますか。(〇は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	6.2	90.9	2.9
前回調査	2215	5.9	89.6	4.5

現在、医療職（医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など）に就いているかをきいたところ、「はい」が6.2%となっている。

前回調査では、「はい」が5.9%で、今回とは有意差はみられない。

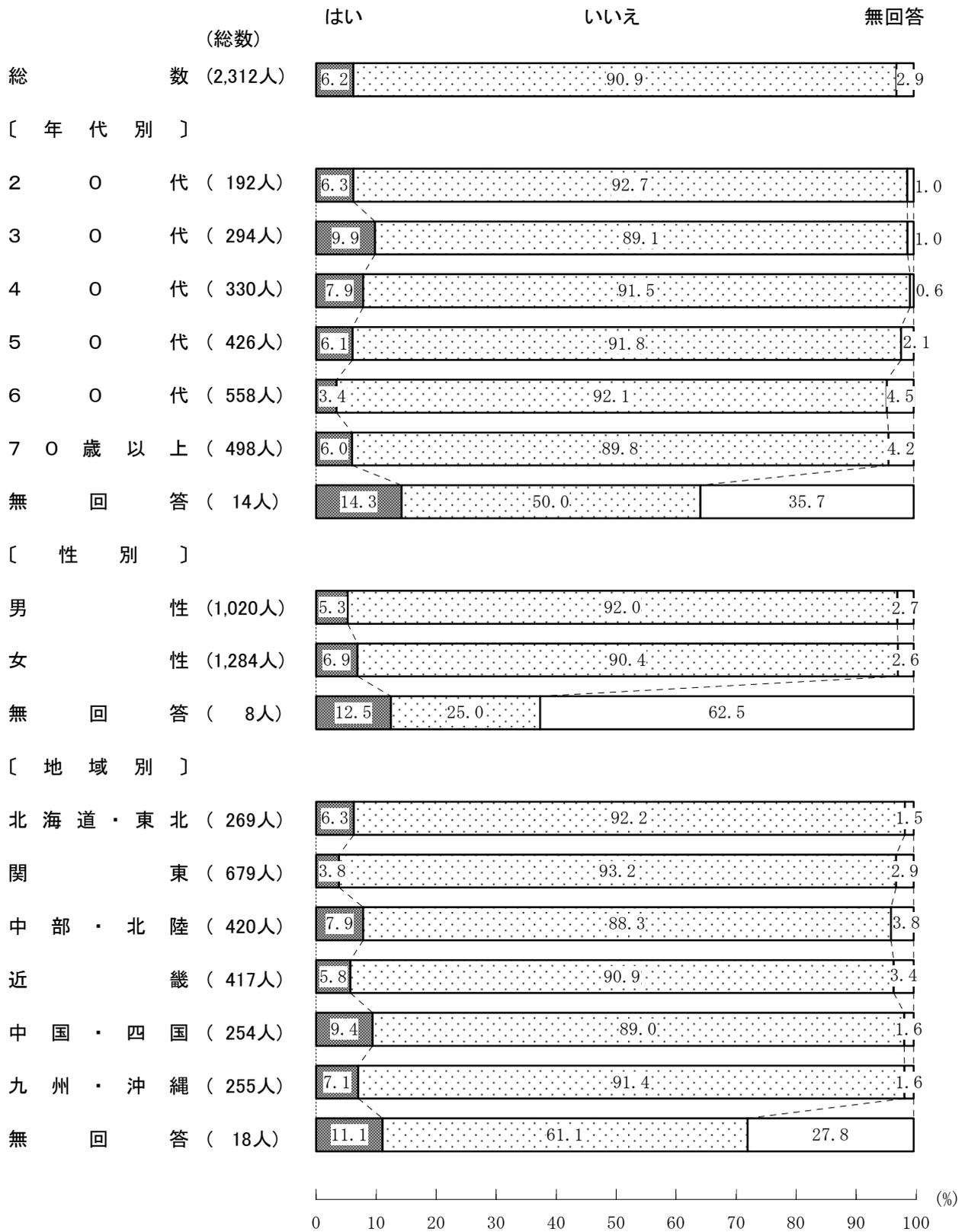
年代別にみると、「はい」は30代(9.9%)でやや高く、60代(3.4%)でやや低くなっている。

性別では大きな差はみられない。

地域別にみると、「はい」は関東(3.8%)でやや低くなっている。

<図1-6>

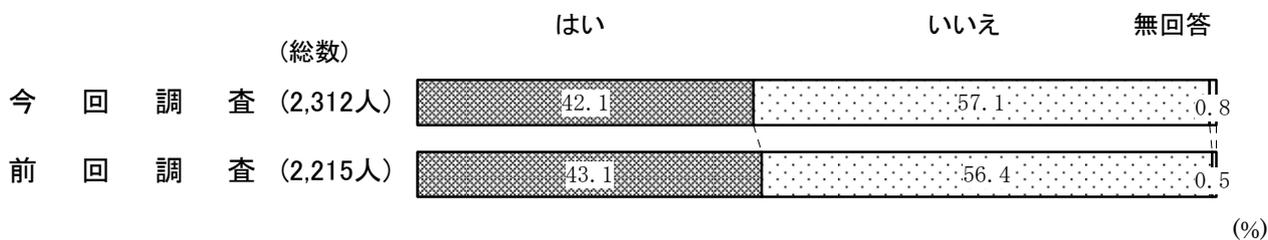
図 1-6 医療職・非医療職別



2 あなたのご家族について

(1) 家族の中のがん経験者の有無

問2-1 あなたのご家族の中で、がんと診断された方はいらっしゃいますか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	42.1	57.1	0.8
前回調査	2215	43.1	56.4	0.5

家族の中のがんの経験者がいるかをきいたところ、「はい」が42.1%、「いいえ」が57.1%となっている。

前回調査では、「はい」が43.1%で、今回とは有意差はみられない。

年代別にみると、「はい」が40代(48.2%)と50代(47.9%)でやや高くなっている。

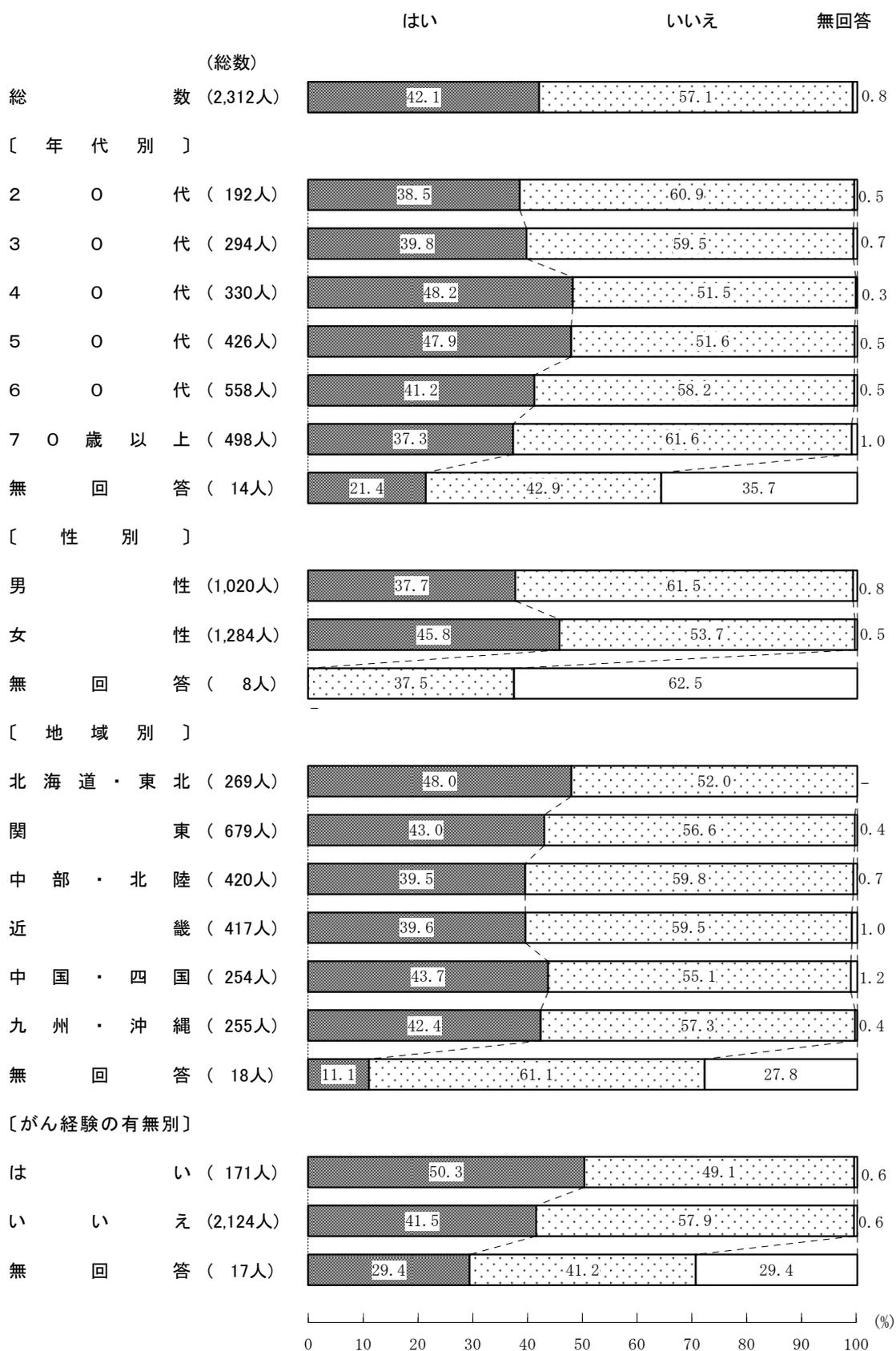
性別にみると、「はい」は女性(45.8%)が男性(37.7%)を8ポイント上回っている。

地域別にみると、「はい」は北海道・東北(48.0%)でやや高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」が50.3%とほぼ半数を占めている。

<図2-1>

図 2 - 1 家族の中のがん経験者の有無

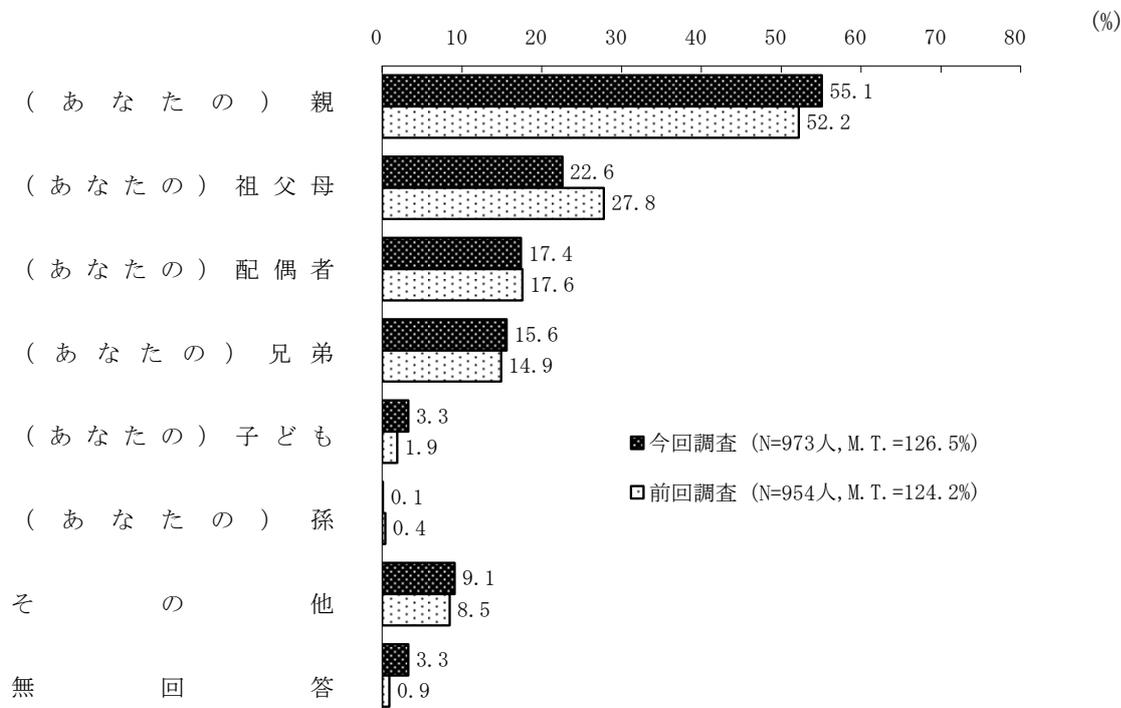


(1) - 1 家族の中のがん経験者との関係

問2-1 補問1 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

あなたと、がんになられた方とのご関係について、当てはまるものをお選びください。

(○はいくつでも)



	該当数	(あなたの) 配偶者	(あなたの) 子ども	(あなたの) 親	(あなたの) 兄弟	(あなたの) 孫	(あなたの) 祖父母	その他	無回答	回答計
今回調査	973	17.4	3.3	55.1	15.6	0.1	22.6	9.1	3.3	126.5
前回調査	954	17.6	1.9	52.2	14.9	0.4	27.8	8.5	0.9	124.2

家族の中のがんの経験者がいると答えた者(973人)に、その人との関係をきいたところ、「(あなたの)親」が55.1%で最も高く、以下、「(あなたの)祖父母」(22.6%)、「(あなたの)配偶者」(17.4%)、「(あなたの)兄弟」(15.6%)、「(あなたの)子ども」(3.3%)、「(あなたの)孫」(0.1%)の順となっている。

前回調査と比較すると、順位、割合ともに大きな差はみられないものの、「祖父母」の比率が減少しており、有意差がみられる。

年代別にみると、「親」が40代(69.2%)、50代(76.5%)で、「祖父母」が20代(75.7%)、30代(48.7%)で、「配偶者」が70歳以上(42.5%)で、それぞれ高くなっている。

性別にみると、「親」は男性(61.6%)でやや高い。

地域別での差はみられない。

<表2-1-1>

表 2-1-1 家族の中のがん経験者との関係

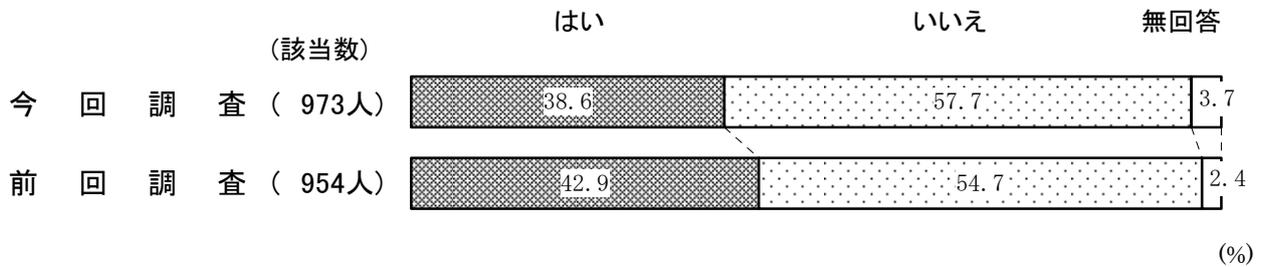
(%)

	該当数	(あなた の) 親	(あなた の) 祖父母	(あなた の) 配偶者	(あなた の) 兄弟	(あなた の) 子ども	(あなた の) 孫	その他	無回答	回答計
総 数	973	55.1	22.6	17.4	15.6	3.3	0.1	9.1	3.3	126.5
問 1-1〔年代別〕										
20代	74	21.6	75.7	1.4	-	-	-	10.8	2.7	112.2
30代	117	47.9	48.7	0.9	1.7	-	-	11.1	6.0	116.2
40代	159	69.2	34.0	3.1	3.1	1.9	-	11.9	3.8	127.0
50代	204	76.5	14.7	11.8	13.7	1.5	-	11.8	2.0	131.9
60代	230	53.9	6.5	25.7	24.8	3.9	-	8.3	2.6	125.7
70歳以上	186	38.2	4.3	42.5	31.7	9.1	0.5	3.2	3.8	133.3
無回答	3	100.0	-	-	33.3	-	-	-	-	133.3
問 1-2〔性別〕										
男性	385	61.6	20.3	15.6	15.1	3.6	-	3.4	3.6	123.1
女性	588	50.9	24.1	18.5	16.0	3.1	0.2	12.9	3.1	128.7
無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
問 1-3〔地域別〕										
北海道・東北	129	51.2	26.4	17.8	19.4	2.3	-	12.4	1.6	131.0
関東	292	56.8	22.3	17.1	14.4	2.1	-	8.2	2.7	123.6
中部・北陸	166	54.2	22.9	16.9	16.9	3.6	-	10.2	4.8	129.5
近畿	165	57.6	16.4	18.8	15.2	4.2	-	9.7	4.2	126.1
中国・四国	111	51.4	27.9	19.8	11.7	4.5	0.9	9.9	1.8	127.9
九州・沖縄	108	57.4	23.1	13.9	15.7	4.6	-	4.6	4.6	124.1
外国	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	100.0

(1) - 2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無

問2-1 補問2 (問2-1で1「はい」をお選びの方に)

ご家族の方で、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けた方はいらっしゃいますか。(〇は1つ)



	該当数	はい	いいえ	無回答
今回調査	973	38.6	57.7	3.7
前回調査	954	42.9	54.7	2.4

家族の中のがんの経験者がいると答えた者(973人)に、その家族の人が、がんによる痛みなどの症状を和らげる治療を受けたことがあるかをきいたところ、「はい」が38.6%、「いいえ」が57.7%となっている。

自分自身ががんの経験があると答えた者(171人)では、「はい(自分は受けたことがある)」の割合が11.1%であるので、それに比べると、家族の中のがん経験者は「はい(家族は受けたことがある)」の割合がかなり高くなっている。

前回調査と比較すると、今回は「はい」が4ポイント低くなっているが、有意差はみられない。

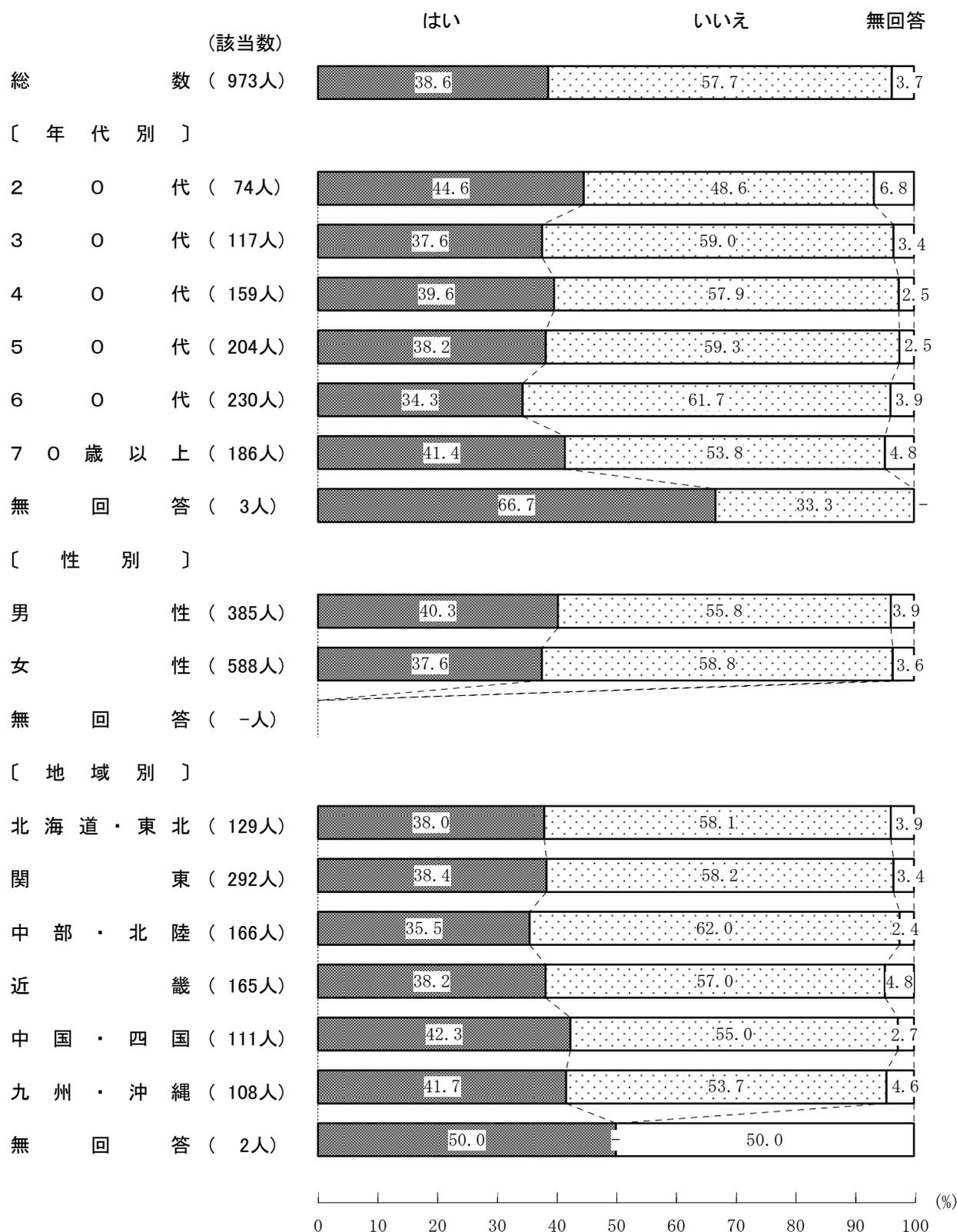
年代別にみると、「はい」は20代(44.6%)と70歳以上(41.4%)でやや高い。

性別では差はみられない。

地域別では大きな差はみられない。

<図2-1-2>

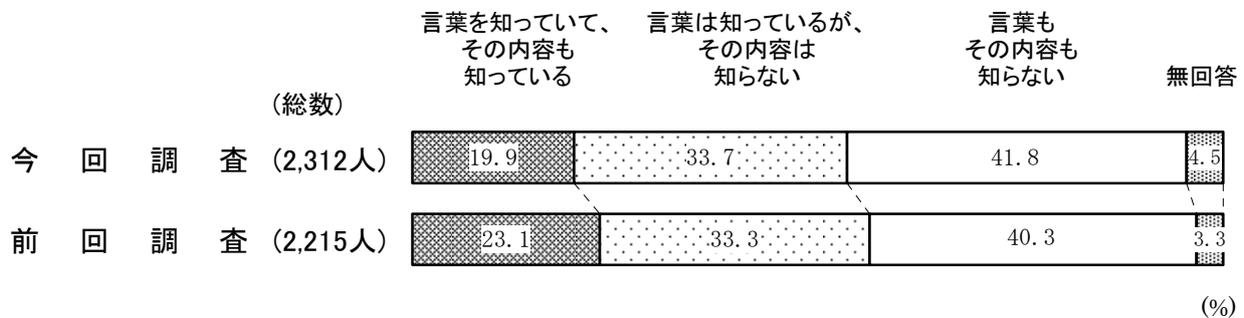
図 2-1-2 家族の中のがん経験者／がんによる痛みなどの症状の緩和治療の有無



3 緩和ケアについて

(1) 「緩和ケア」という言葉の認知

問3-1 「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(〇は1つ)



	総数	言葉も内容も知っている	言葉は知っている、内容は知らない	言葉もその内容も知らない	無回答
今回調査	2312	19.9	33.7	41.8	4.5+
前回調査	2215	23.1	33.3	40.3	3.3

緩和ケアという言葉を知っているかをきいたところ、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が19.9%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が33.7%、「言葉もその内容も知らない」が41.8%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「言葉を知っていて、その内容も知っている」が3ポイント低くなっており、有意差がみられる。

年代別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」は40代(28.5%)で高く、一方、「言葉もその内容も知らない」は20代(58.9%)で高くなっている。

性別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が女性(23.8%)で高く、「言葉もその内容も知らない」が男性(50.6%)で高くなっている。

地域別にみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」は中国・四国(26.0%)でやや高くなっている。

がん経験の有無別では、「言葉を知っていて、その内容も知っている」に差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が25.2%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が37.6%、「言葉もその内容も知らない」が33.6%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が25.5%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が37.1%、「言葉もその内容も知らない」が33.2%で、「言葉を知っている」人の割合が高くなっている。

「オレンジバレープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「言葉を知っていて、その内容も知っている」が78.8%、「言葉は知っているが、その内容は知らない」が13.5%、「言葉もその内容も知らない」はわずかに1.9%で、「言葉を知っている」人の割合がかなり高くなっている。

<図3-1(1)、図3-1(2)>

図 3-1 (1) 「緩和ケア」という言葉の認知

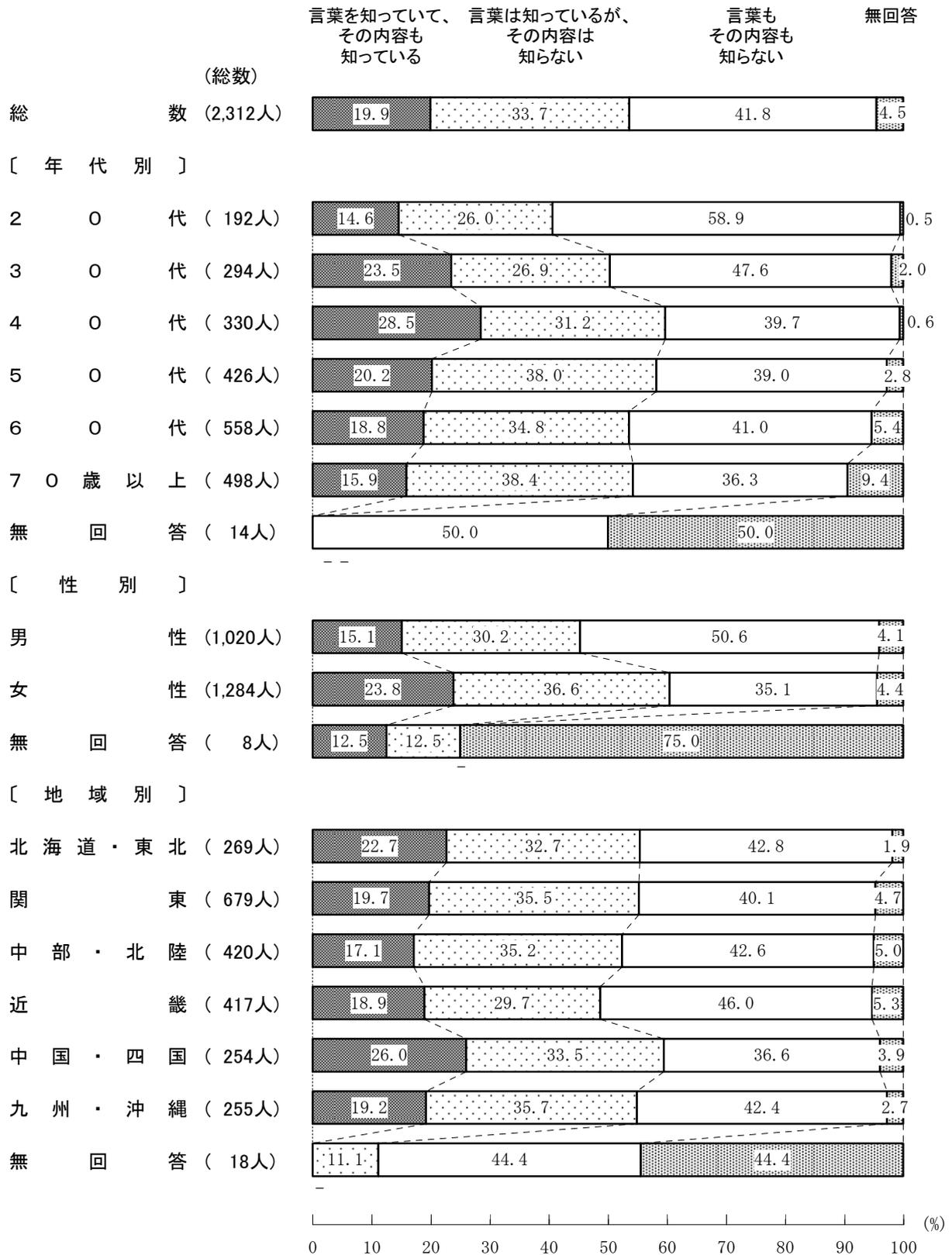
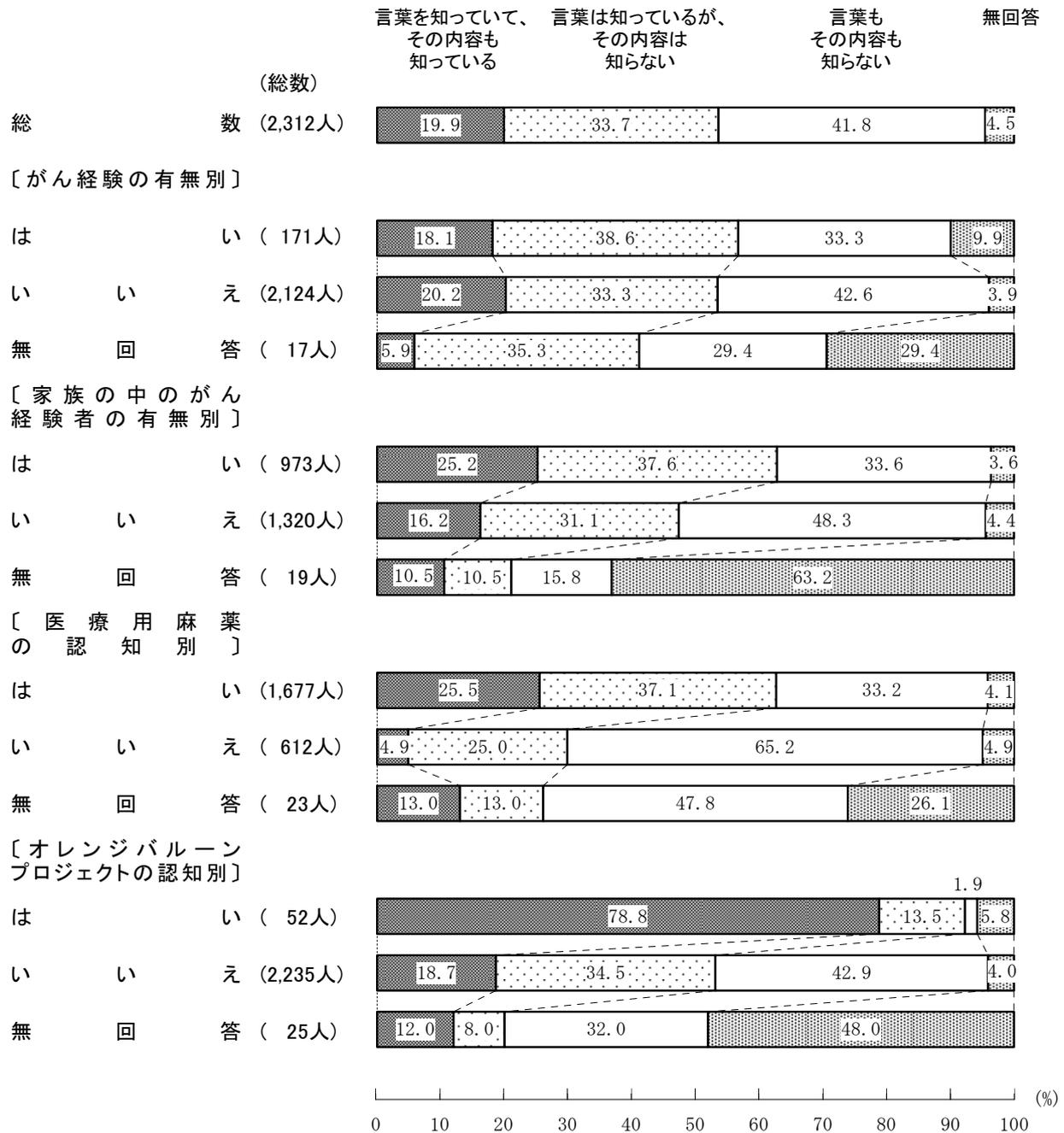
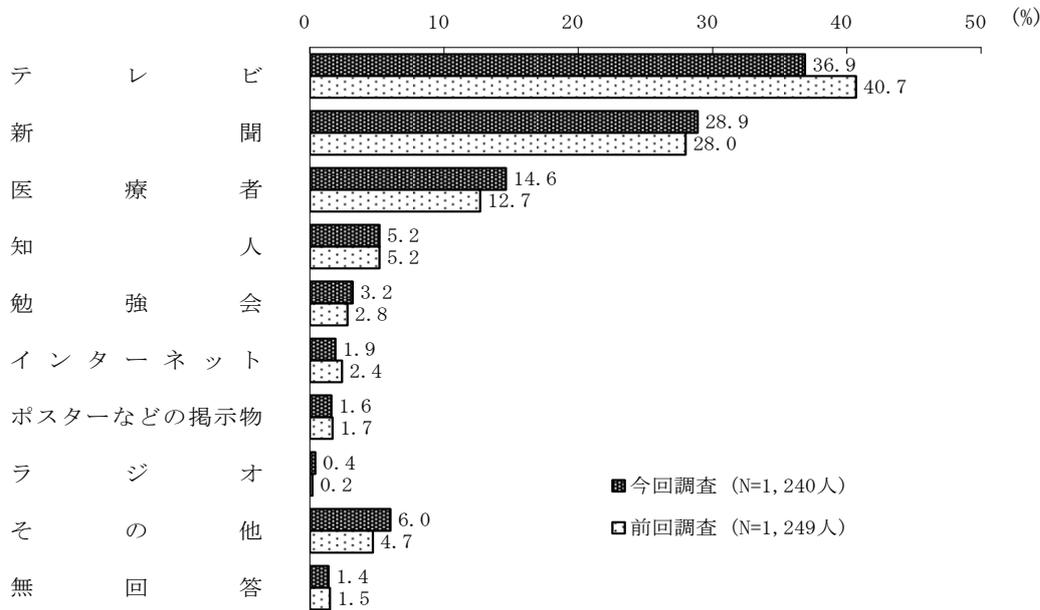


図 3-1 (2) 「緩和ケア」という言葉の認知



(1) - 1 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

問3-1 補問1 (問3-1で1「言葉を知っていて、その内容も知っている」、2「言葉は知っているが、その内容は知らない」をお選びの方に)
 「緩和ケア」という言葉は、最初に何でお知りになりましたか。(〇は1つ)



	該当数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
今回調査	1240	1.9	28.9	36.9	0.4	1.6	3.2	14.6	5.2	6.0	1.4
前回調査	1249	2.4	28.0	40.7	0.2	1.7	2.8	12.7	5.2	4.7	1.5

緩和ケアという言葉を知っていると答えた者(1240人)に、最初に何で知ったかをきいたところ、「テレビ」が36.9%で最も高く、次いで「新聞」が28.9%であげられている。以下は、「医療者(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」(14.6%)、「知人」(5.2%)、「勉強会(シンポジウム、セミナーなど)」(3.2%)などの順となっている。

前回調査と比較すると、順位、割合ともに、大きな差はなく、有意差はみられない。

年代別にみると、50代までは「テレビ」が最も高い割合を占めているが、60代では「新聞」と「テレビ」の割合が拮抗し、70歳以上では「新聞」(45.2%)が最も高くなっている。

性別にみると、男性は「新聞」と「テレビ」の割合が拮抗し、女性は「テレビ」(38.3%)が最も高くなっている。

地域別にみると、すべての地域で「テレビ」が最も高い割合を占めている。「新聞」は関東(33.1%)での割合が最も高い。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「医療者」の割合が比較的高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人は医療者(28.4%)の割合が高く、“その内容は知らない”人は「テレビ」(42.5%)の割合が高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「医療者」(35.4%)が最も高い割合を占めている。

<図3-1-1(1)、図3-1-1(2)>

図3-1-1 (1) 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路

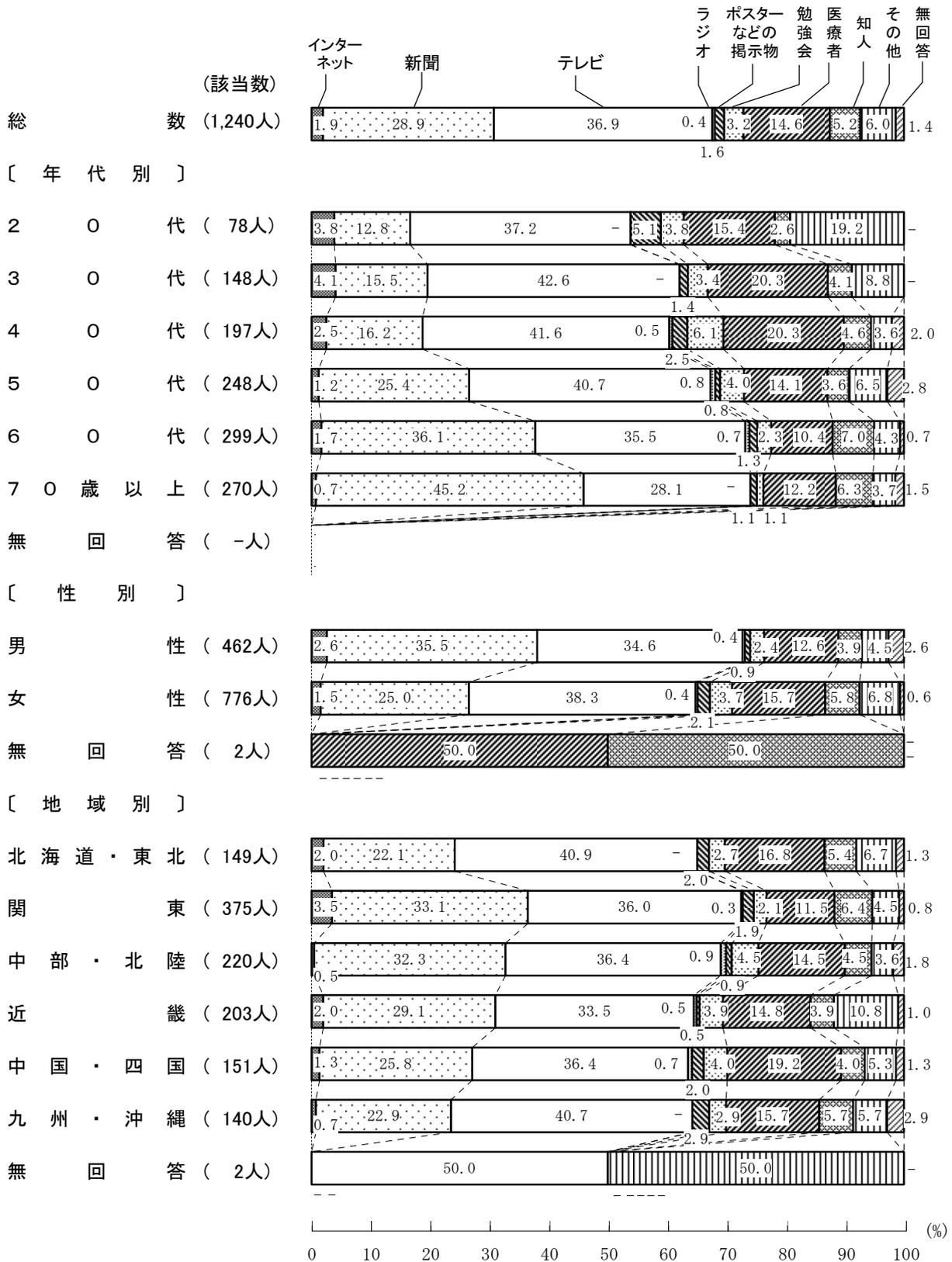
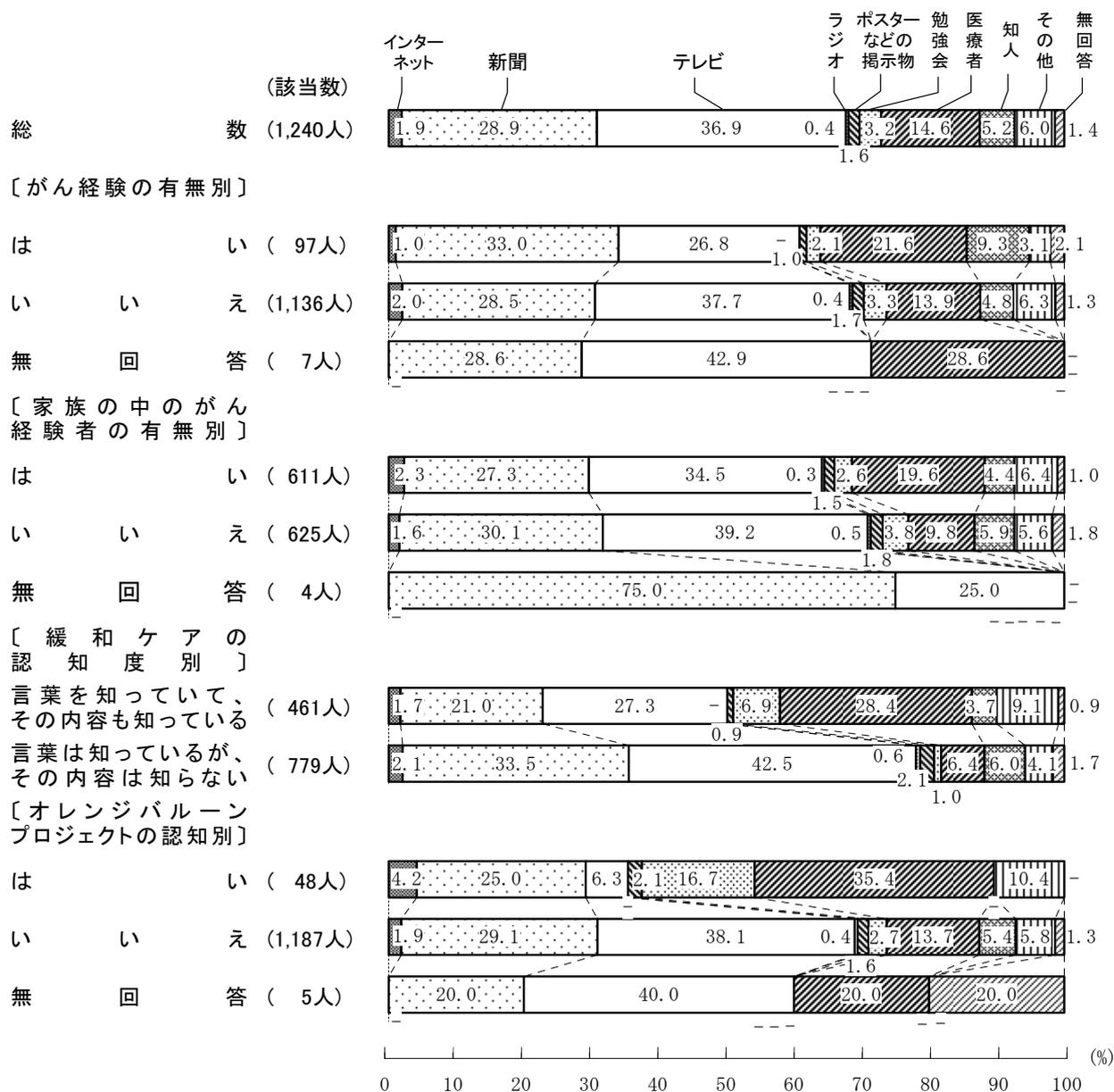
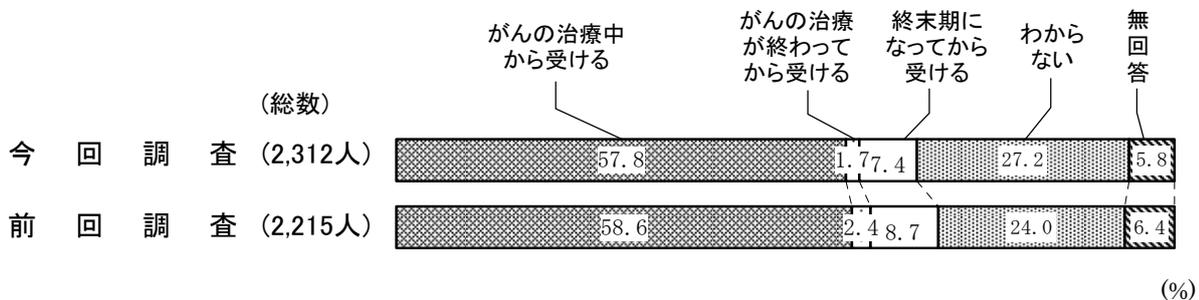


図3-1-1(2) 「緩和ケア」という言葉の最初の認知経路



(2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識

問3-2 「緩和ケア」は症状（こころの痛みも含む）に対するケアです。
 「緩和ケア」を受ける時期についてどのようにお考えですか。（○は1つ）



	総数	がんの治療中から受ける	がんの治療が終わってから受ける	終末期になってから受ける	わからない	無回答
今回調査	2312	57.8	1.7	7.4	27.2+	5.8
前回調査	2215	58.6	2.4	8.7	24.0	6.4

緩和ケアを受ける時期についてどのように考えるかをきいたところ、「がんの治療中から受ける」（57.8%）が最も高く、ほぼ6割を占めている。「がんの治療が終わってから受ける」が1.7%、「終末期になってから受ける」が7.4%である。また、「わからない」が27.2%で、「無回答」（5.8%）と合わせると3人に1人の割合となっている。

前回調査と比較すると、ほとんど差がなく、有意差はみられない。

年代別にみると、「がんの治療中から受ける」は30代から50代では7割前後と高くなっている。

性別にみると、「がんの治療中から受ける」は女性（63.8%）が男性（50.2%）を14ポイント上回っている。

地域別にみると、いずれの地域でも「がんの治療中から受ける」が過半数を占めており、特に関東（62.9%）で高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が全体平均より約9ポイント低くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が61.7%を占めて高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「がんの治療中から受ける」と「終末期になってから受ける」の割合がともに高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「がんの治療中から受ける」が62.3%を占めて高くなっている。

「オレンジバレープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「がんの治療中から受ける」（73.1%）が7割以上を占めている。

<図3-2 (1)、図3-2 (2)>

図3-2(1) 「緩和ケア」を受ける時期の認識

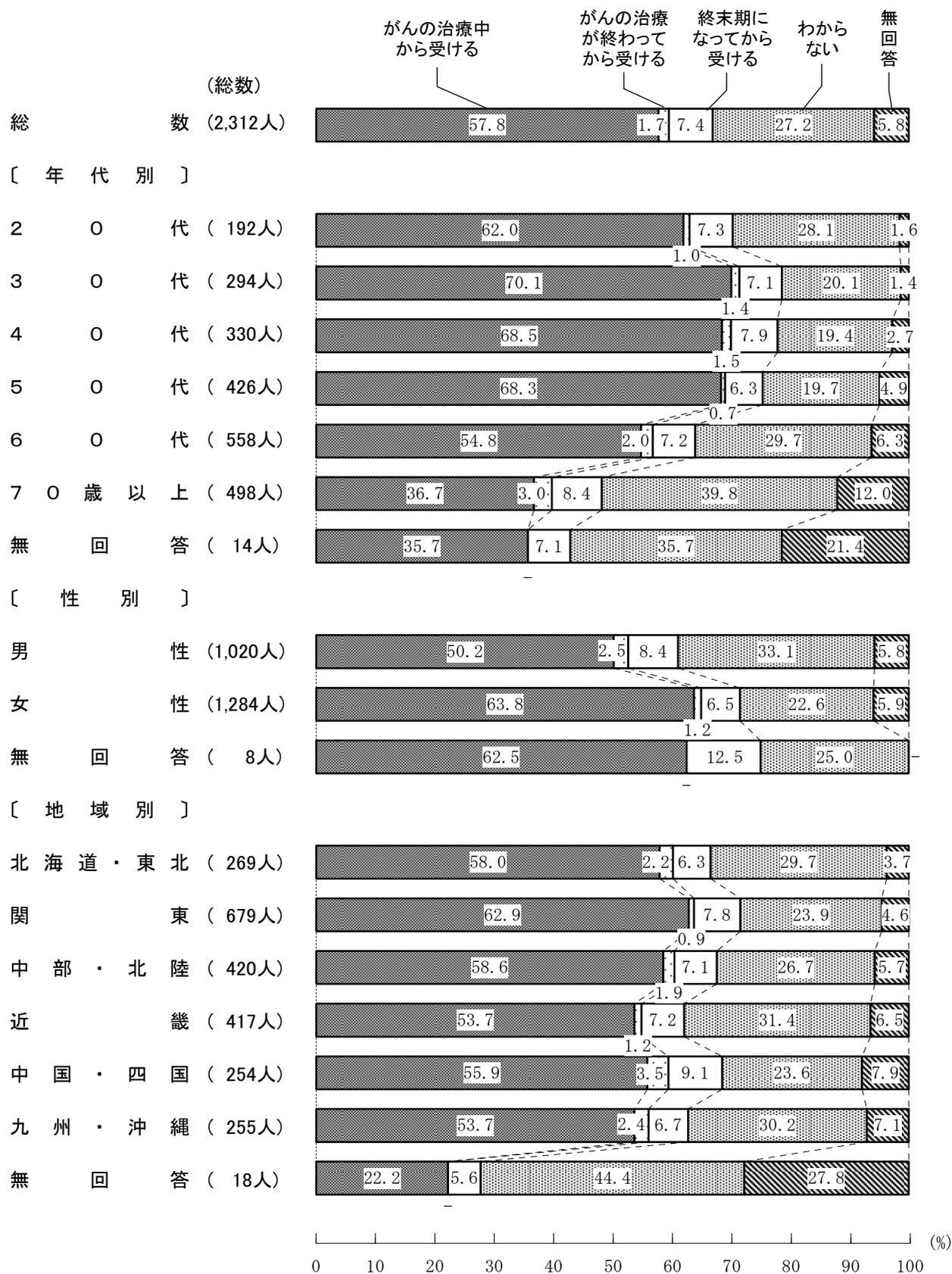
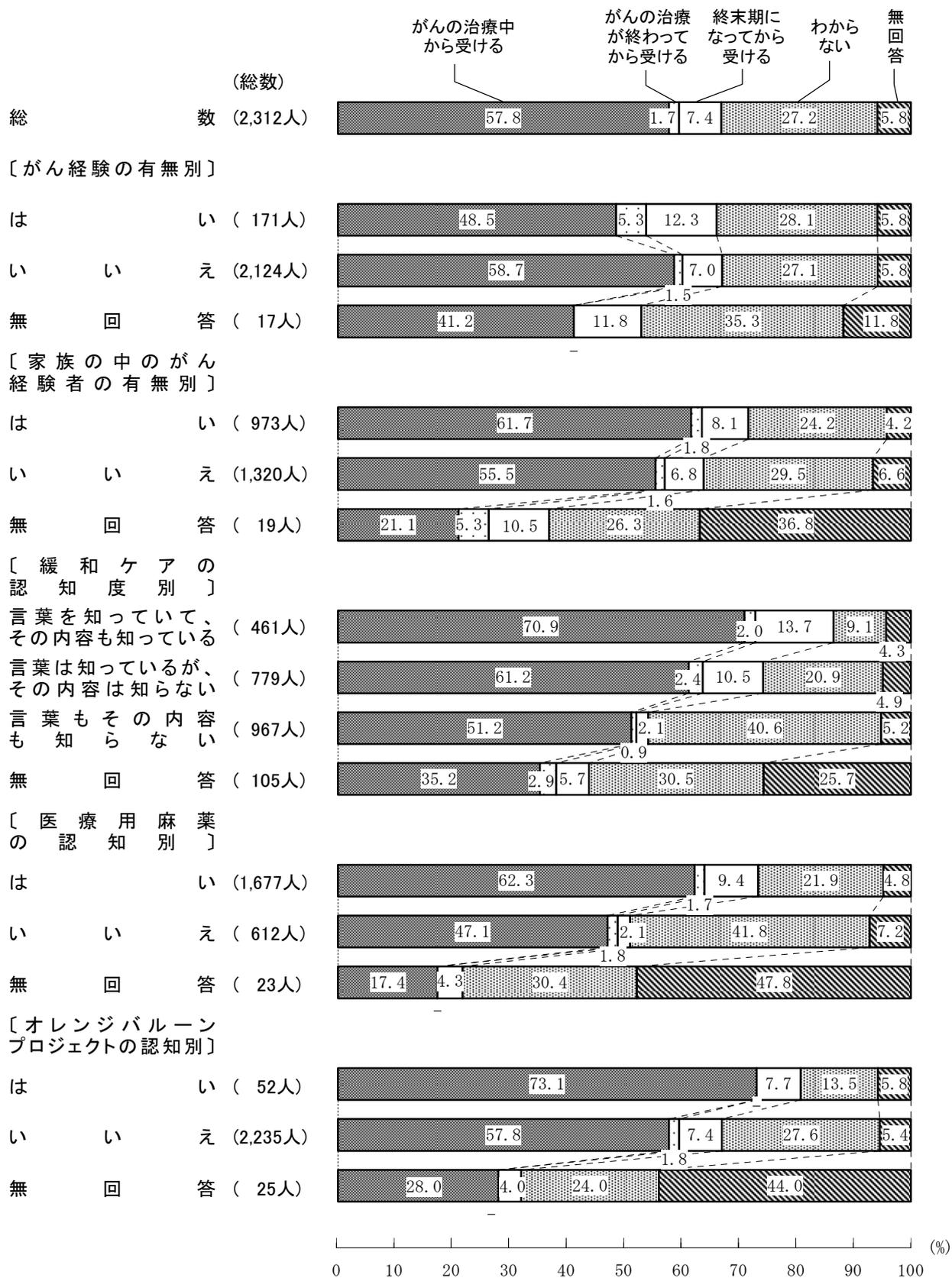
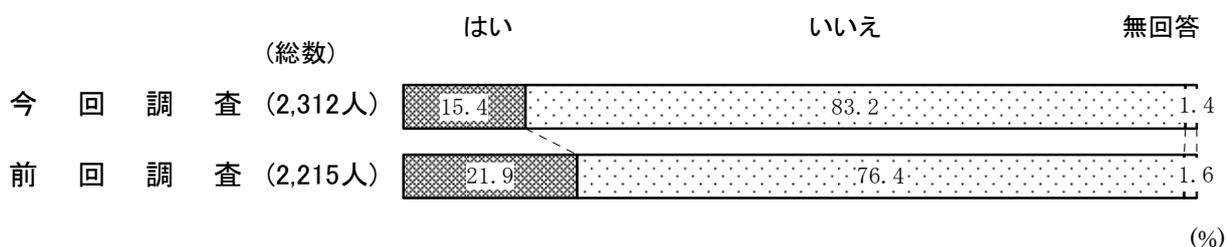


図3-2 (2) 「緩和ケア」を受ける時期の認識



(3) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

問3-3 お住まいの地域にある「緩和ケア」が受けられる場所をご存じですか。(〇は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	15.4	83.2	1.4
前回調査	2215	21.9	76.4	1.6

居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っているかをきいたところ、「はい」が 15.4%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「はい」が7ポイント低くなっており、有意差がみられる。

年代別にみると、「はい」は40代(18.8%)で最も高く、20代(9.4%)で最も低い。

性別にみると、「はい」は女性(17.4%)が男性(12.6%)を5ポイント上回っている。

地域別にみると、「はい」は中国・四国(22.0%)でやや高く、関東(11.9%)でやや低くなっている。

がん経験者に限定してみると、「はい」は19.9%である。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」は21.1%である。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、“その内容も知っている”人では46.9%と5割近くを占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が19.5%と全体平均よりやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が53.8%と高くなっている。

<図3-3(1)、図3-3(2)>

図 3-3 (1) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知

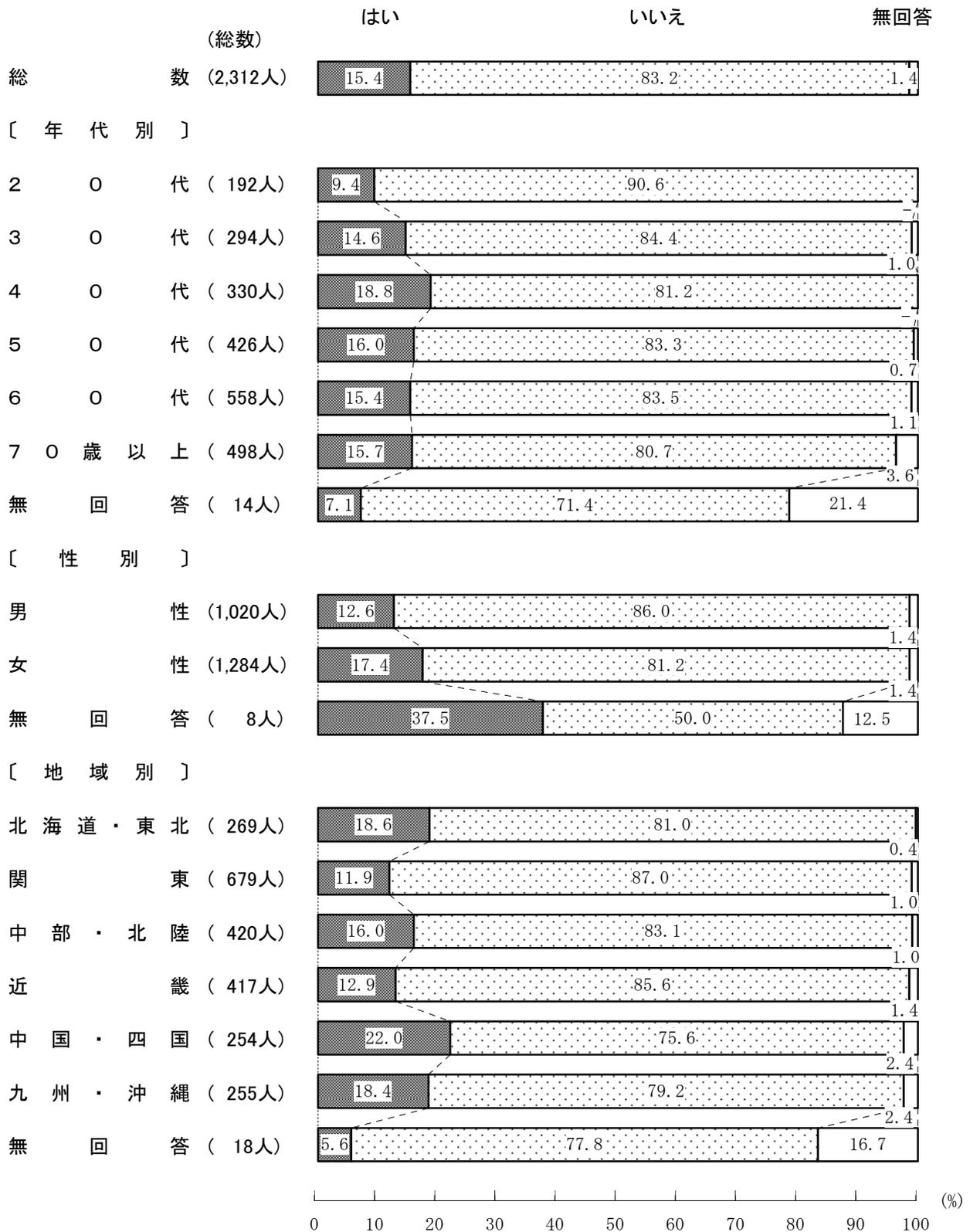
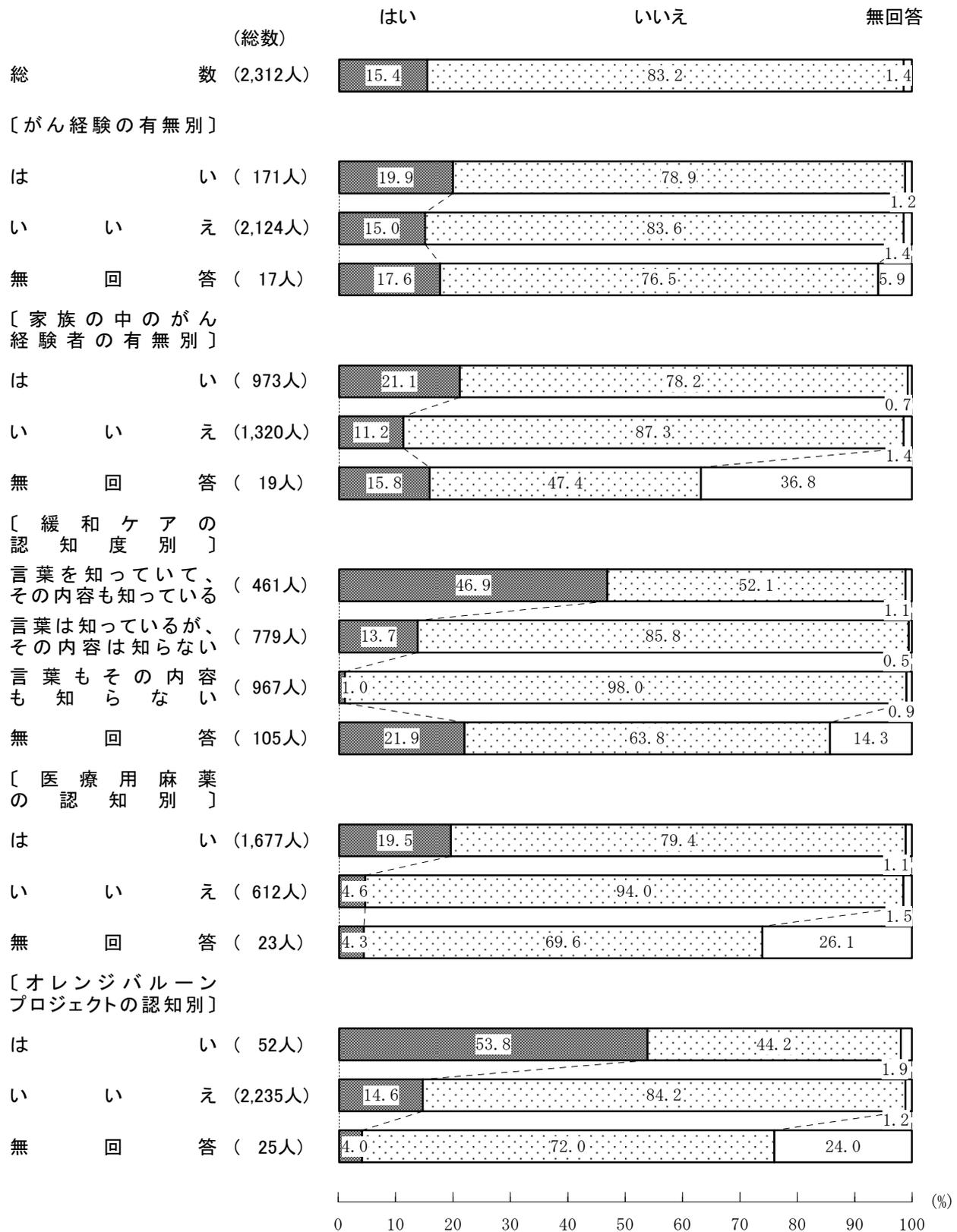


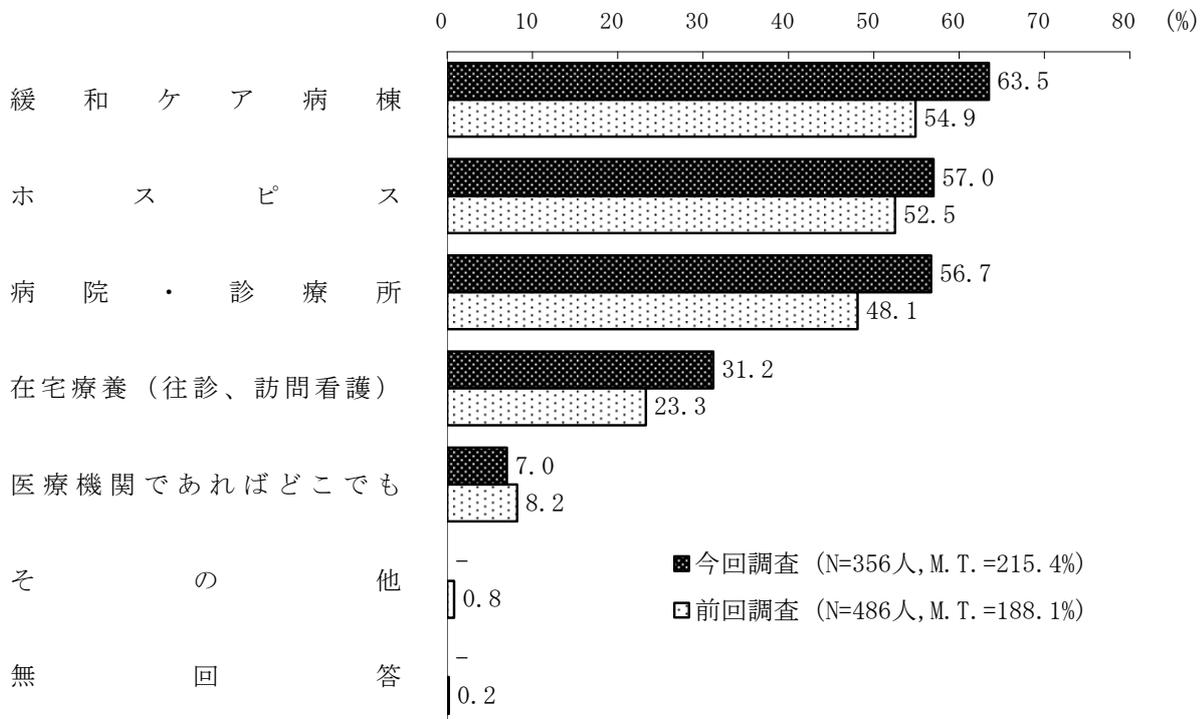
図 3-3 (2) 居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所の認知



(3) - 1 「緩和ケア」が受けられると思う場所

問3-3 補問1 (問3-3で1「はい」をお選びの方に)

「緩和ケア」が受けられると思う場所はどこですか。(〇はいくつでも)



	該当数	病院・診療所	緩和ケア病棟	ホスピス	在宅療養 (往診、訪問看護)	医療機関であればどこでも	その他	無回答	回答計
今回調査	356	56.7+	63.5+	57.0	31.2+	7.0	-	-	215.4
前回調査	486	48.1	54.9	52.5	23.3	8.2	0.8	0.2	188.1

居住地域にある「緩和ケア」が受けられる場所を知っていると答えた者(356人)に、「緩和ケア」が受けられると思う場所をきいたところ、「緩和ケア病棟」が63.5%で最も高く、次いで「ホスピス」(57.0%)、「病院・診療所」(56.7%)、「在宅療養(往診、訪問看護)」(31.2%)の順であり、「医療機関であればどこでも」は7.0%となっている。

前回調査と比較すると、「緩和ケア病棟」が9ポイント、「病院・診療所」が9ポイント、「在宅療養(往診、訪問看護)」が8ポイント、それぞれ今回の割合が高くなっており、有意差がみられる。

性別にみると、男性が「病院・診療所」(62.8%)、「緩和ケア病棟」(58.9%)、「ホスピス」(47.3%)の順であるのに対し、女性では「緩和ケア病棟」(66.5%)、「ホスピス」(62.9%)、「病院・診療所」(53.6%)と上位3項目の順位に違いがみられる。

<表3-3-1>

※ 年代別は、各年代ともサンプル数が少ないため、クロス集計表のみ記載。分析記述はなし。

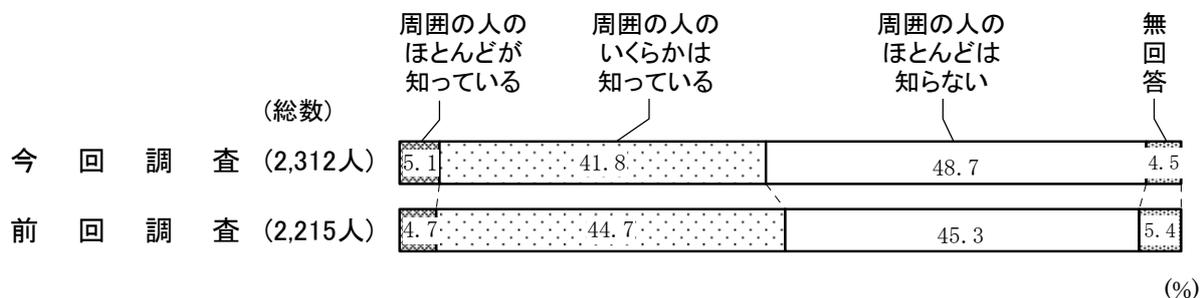
表 3-3-1 「緩和ケア」が受けられると思う場所

(%)

	該当数	緩和ケア 病棟	ホスピス	病院・ 診療所	在宅療養 (往診、 訪問 看護)	医療機関 であれば どこでも	その他	無回答	回答計
総 数	356	63.5	57.0	56.7	31.2	7.0	-	-	215.4
問 1-1 [年代別]									
20代	18	77.8	50.0	83.3	44.4	5.6	-	-	261.1
30代	43	65.1	72.1	62.8	51.2	7.0	-	-	258.1
40代	62	74.2	71.0	56.5	38.7	8.1	-	-	248.4
50代	68	63.2	67.6	52.9	30.9	1.5	-	-	216.2
60代	86	66.3	53.5	50.0	24.4	7.0	-	-	201.2
70歳以上	78	48.7	33.3	59.0	19.2	11.5	-	-	171.8
無回答	1	-	100.0	-	-	-	-	-	100.0
問 1-2 [性別]									
男性	129	58.9	47.3	62.8	24.0	8.5	-	-	201.6
女性	224	66.5	62.9	53.6	35.7	6.3	-	-	225.0
無回答	3	33.3	33.3	33.3	-	-	-	-	100.0

(4) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

問3-4 あなたの周囲の人は「緩和ケア」という言葉をご存じですか。(〇は1つ)



	総数	周囲の人のほとんどが知っている	周囲の人のいくらかは知っている	周囲の人のほとんどは知らない	無回答
今回調査	2312	5.1	41.8	48.7+	4.5
前回調査	2215	4.7	44.7	45.3	5.4

自分の周囲の人は「緩和ケア」という言葉を知っているかをきいたところ、「周囲の人のほとんどが知っている」が5.1%、「周囲の人のいくらかは知っている」が41.8%、「周囲の人のほとんどは知らない」が48.7%となっている。

前回調査と比較すると、今回は「周囲の人のほとんどが知っている」がほぼ同率で、「周囲の人のいくらかは知っている」が3ポイント低く、有意差はみられないが、「周囲の人のほとんどは知らない」は3ポイント高く、有意差がみられる。

年代別にみると、「周囲の人のほとんどは知らない」が20代(56.8%)と30代(57.1%)で高くなっている。

性別にみると、「周囲の人のほとんどが知っている」では男女差はみられないが、「周囲の人のいくらかは知っている」が女性(45.0%)で、「周囲の人のほとんどは知らない」が男性(52.5%)で、それぞれ高くなっている。

地域別にみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が中国・四国(50.4%)で高くなっている。

本人のがん経験者及び家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」が半数近くを占めやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲の人のほとんどが知っている」、「周囲の人のいくらかは知っている」の割合が高くなっている。“その内容も知っている”人では、「周囲の人のほとんどが知っている」が15.4%、「周囲の人のいくらかは知っている」が68.3%を占めている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲の人のいくらかは知っている」(48.9%)がほぼ5割に達している。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲の人のほとんどが知っている」が21.2%、「周囲の人のいくらかは知っている」が55.8%を占め、高くなっている。

<図3-4(1)、図3-4(2)>

図3-4 (1) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知

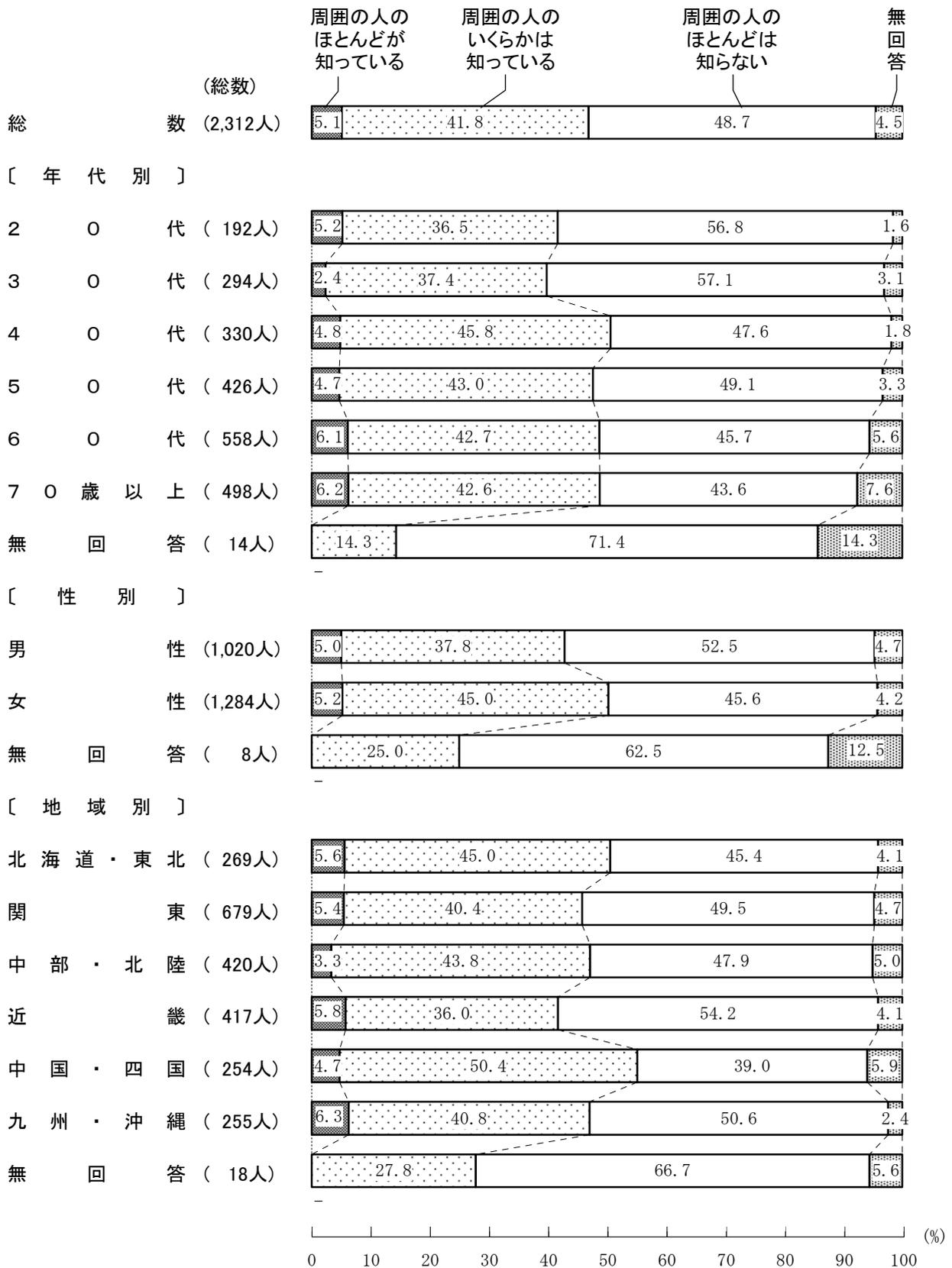
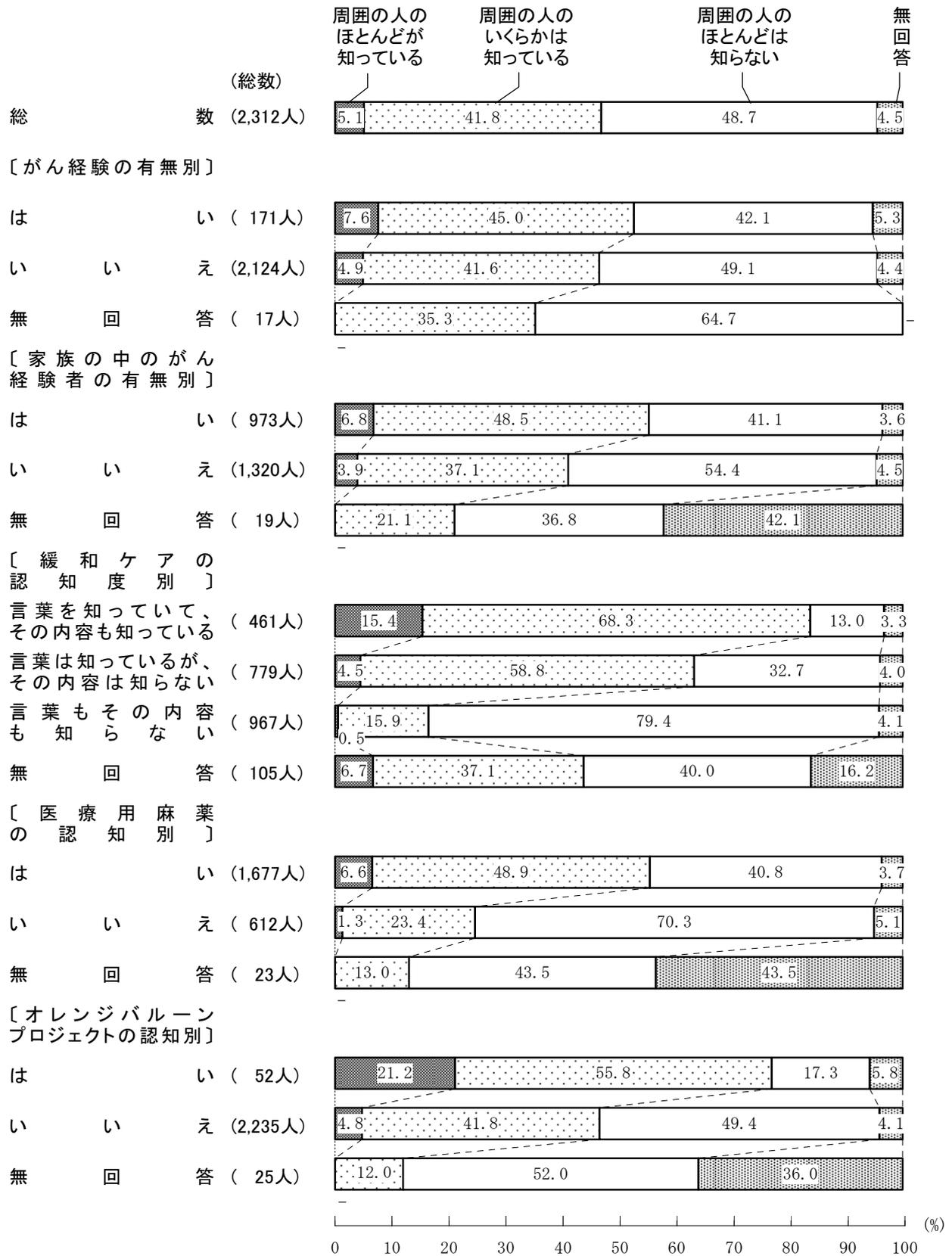
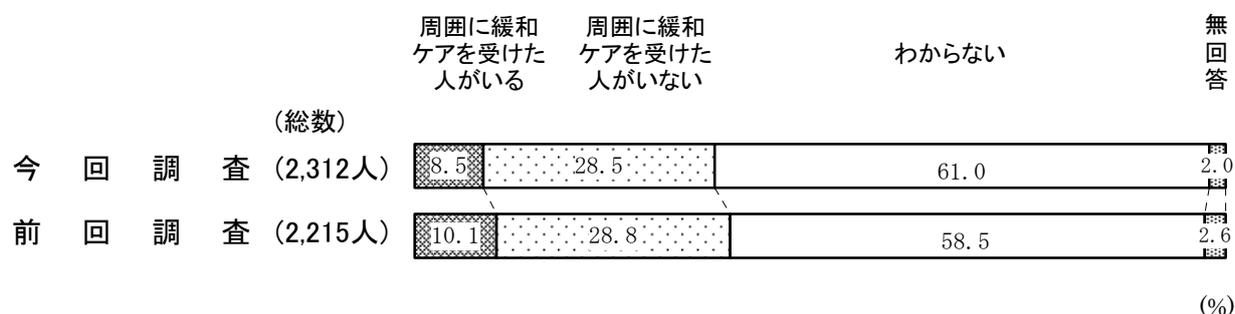


図3-4 (2) 周囲の人の「緩和ケア」という言葉の認知



(5) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

問3-5 あなたの周囲に「緩和ケア」を実際に受けられた方はおられますか。(○は1つ)



(%)

	総数	周囲に緩和ケアを受けた人がある	周囲に緩和ケアを受けた人がいない	わからない	無回答
今回調査	2312	8.5	28.5	61.0	2.0
前回調査	2215	10.1	28.8	58.5	2.6

自分の周囲で「緩和ケア」を実際に受けた人がいるかをきいたところ、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が8.5%、「周囲に緩和ケアを受けた人がいない」が28.5%である。また、「わからない」(61.0%)が6割を占めている。

前回調査と比較すると、いずれの項目もほとんど差はなく、有意差はみられない。

年代別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合は40代(10.0%)、50代(10.3%)、60代(9.9%)でやや高くなっている。

性別にみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合は、女性(10.0%)が男性(6.5%)よりやや高くなっている。

地域別では大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が13.6%で、やや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」の割合が高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」は11.2%で全体平均よりやや高くなっている。

「オレンジブループロジェクト」を知っている人に限定してみると、「周囲に緩和ケアを受けた人がいる」が23.1%と高くなっている。

<図3-5 (1)、図3-5 (2)>

図3-5 (1) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無

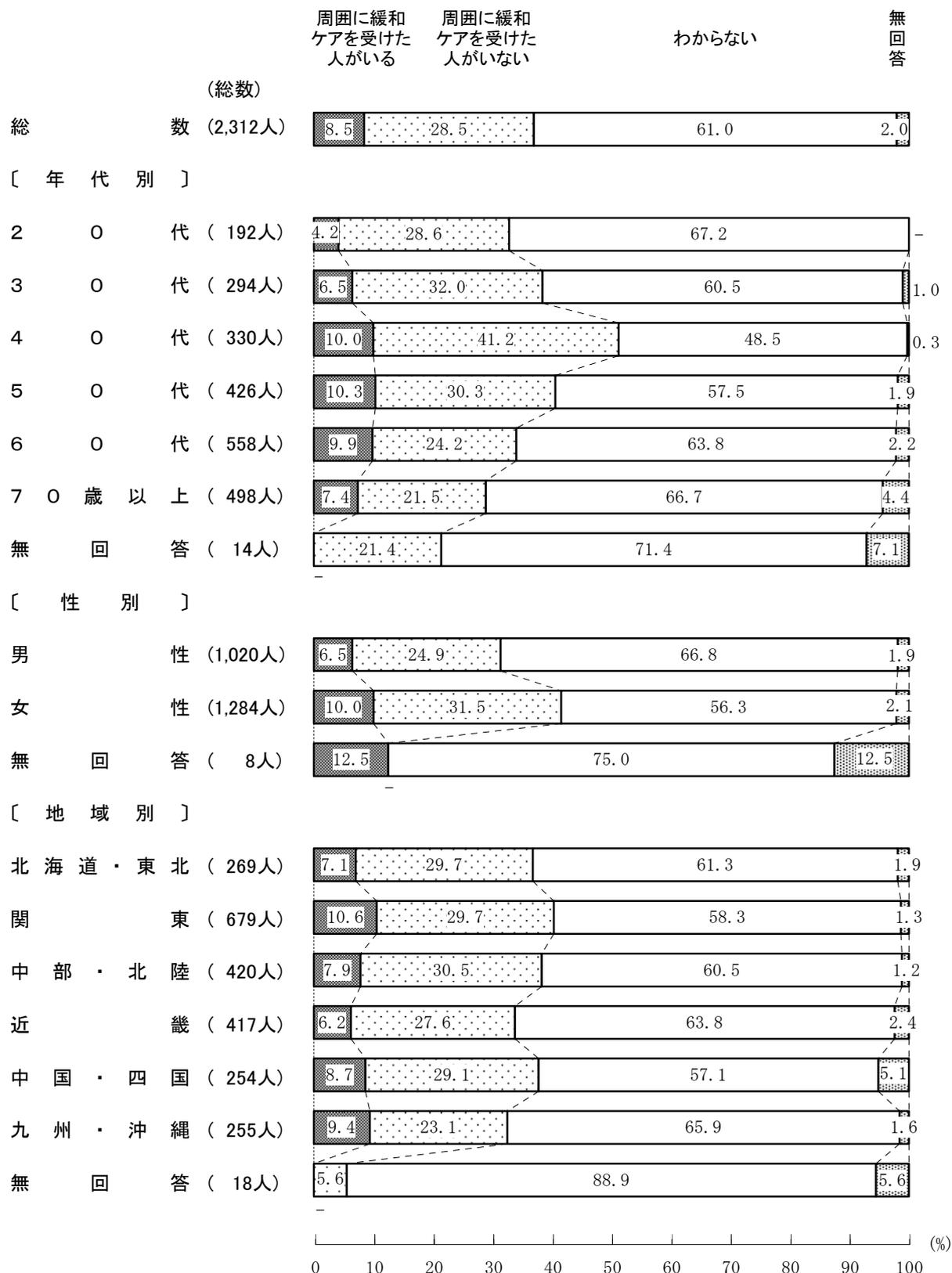
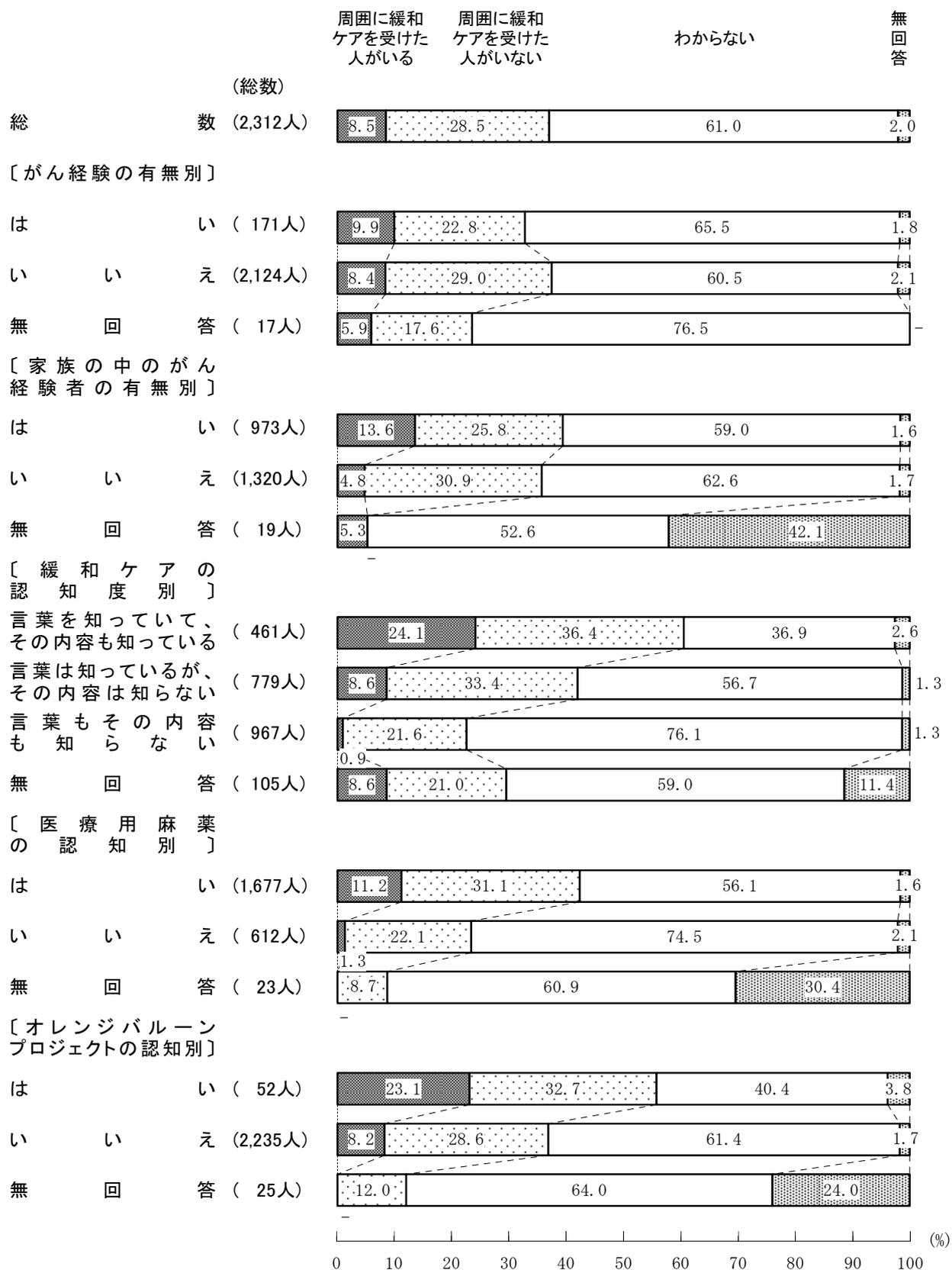


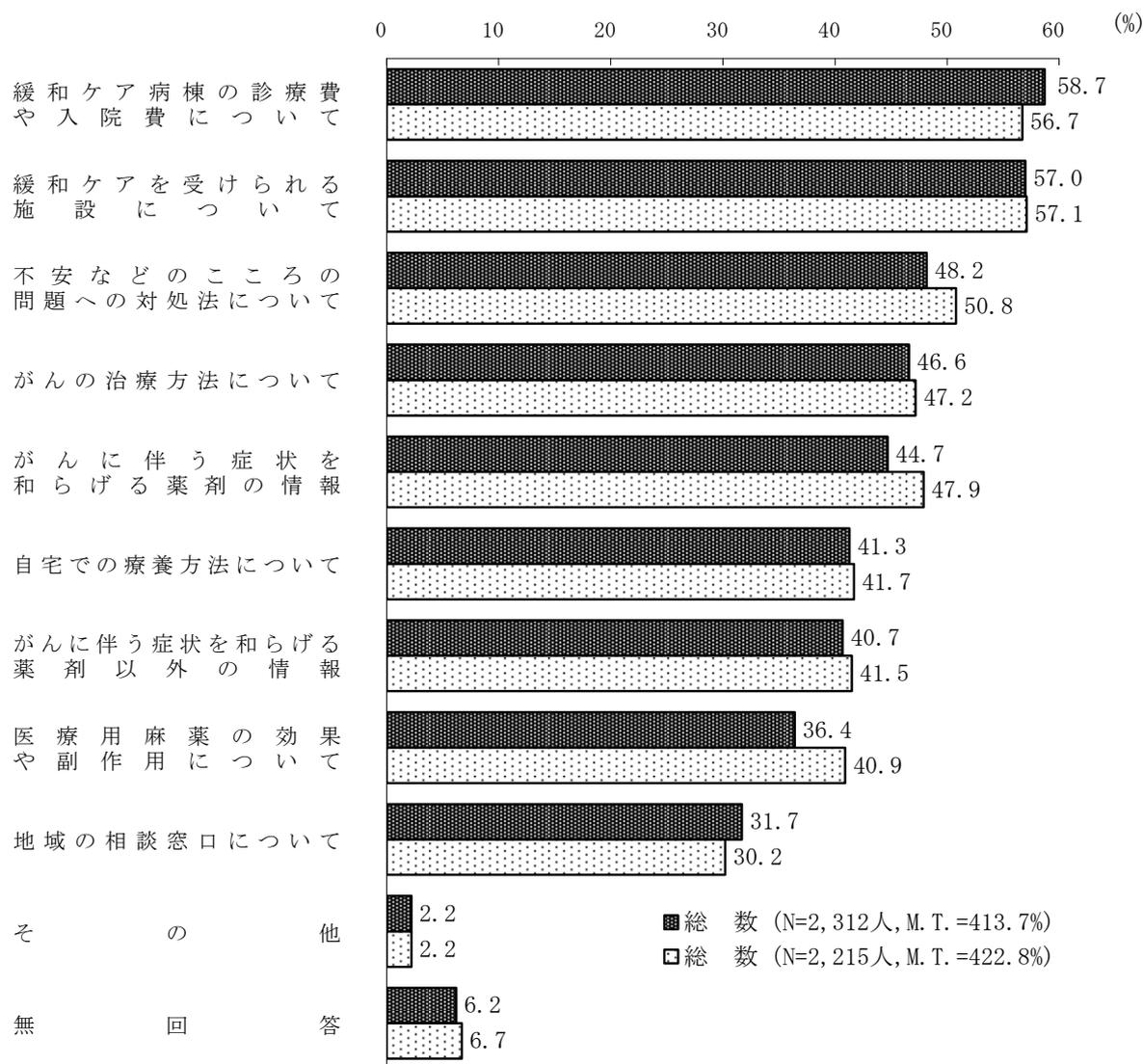
図3-5 (2) 周囲の人の「緩和ケア」の治療経験の有無



4 「緩和ケア」情報について

(1) 「緩和ケア」について知りたい情報

問4-1 あなたが「緩和ケア」について知りたい情報は何か。(〇はいくつでも)



	総数	がんの治療方法について	がんの症状を和らげる薬剤の情報	がんの症状を和らげる薬剤以外の情報	不安などのこころの問題への対処法	医療用麻薬の効果や副作用について	緩和ケアを受けられる施設について	緩和ケア病棟の診療費や入院費	自宅での療養方法について	地域の相談窓口について	その他	無回答	回答計
今回調査	2312	46.6	44.7	40.7	48.2	36.4	57.0	58.7	41.3	31.7	2.2	6.2	413.7
前回調査	2215	47.2	47.9	41.5	50.8	40.9	57.1	56.7	41.7	30.2	2.2	6.7	422.8

「緩和ケア」について知りたい情報をきいたところ、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」が58.7%で最も高く、以下、「緩和ケアを受けられる施設について」(57.0%)、「不安などのこころの問題への対処法について」(48.2%)、「がんの治療方法について」(46.6%)、「がんに伴う症状(痛み、吐き気、体のだるさなど)を和らげる薬剤の情報」(44.7%)などの順となっている。回答数の総合計(M.T.)は413.7%である。これは、回答者が一人当たりほぼ4項目に〇をつけたことをあらわしている。

前回調査と比較すると、項目の順位にやや変動がある。割合には大きな変動はみられないものの、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」は3ポイント減少し、「医療用麻薬の効果や副作用について」は5ポイント減少しており、この2項目には有意差がみられる。

年代別にみると、割合が5割を超えているのは「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」と「緩和ケアを受けられる施設について」が20代から60代までで、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんの治療方法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」では20代から50代までとなっている。

性別にみると、知りたい情報への関心度は女性で高くなる傾向が見られ、「緩和ケア病棟の診療費や入院費について」、「緩和ケアを受けられる施設について」、「不安などのこころの問題への対処法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤の情報」、「自宅での療養方法について」、「がんに伴う症状（痛み、吐き気、体のだるさなど）を和らげる薬剤以外の情報」、「医療用麻薬の効果や副作用について」はすべて、男性より女性で高くなっている。

地域別にみると、「緩和ケアを受けられる施設について」が関東で高くなっている。

がん経験者に限定してみると、全ての項目で、全体平均よりも低い割合となっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、全ての項目で、全体平均よりも高い割合となっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「がんの治療方法について」を除く8項目すべてで、“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、全ての項目で、全体平均よりも高い割合となっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「緩和ケアを受けられる施設について」と「がんの治療方法について」がいずれも全体平均より20ポイント低くなっている。

<表4-1(1)>

表4-1(1) 「緩和ケア」について知りたい情報

(%)

	総数	緩和ケア 病棟の診 療費や入 院費	緩和ケア を受けら れる施設 について	不安など のこころ の問題へ の対処法	がんの治 療方法に ついて	がんの症 状を和ら げる薬剤 の情報	自宅での 療養方法 について	がんの症 状和らげ る薬剤以 外の情報
【総数】	2312	58.7	57.0	48.2	46.6	44.7	41.3	40.7
問1-1〔年代別〕								
20代	192	59.9	53.6	54.7	56.8	51.0	45.8	43.2
30代	294	68.4	63.6	59.2	56.5	55.8	48.6	51.4
40代	330	68.2	64.2	60.3	50.6	54.2	42.7	49.7
50代	426	62.2	61.5	52.1	52.8	51.9	43.4	47.4
60代	558	57.2	57.0	43.9	43.4	38.5	40.1	37.5
70歳以上	498	45.8	45.8	33.5	33.1	30.7	33.7	26.3
無回答	14	21.4	50.0	21.4	28.6	21.4	42.9	14.3
問1-2〔性別〕								
男性	1020	52.9	51.4	41.1	47.8	40.0	37.0	33.7
女性	1284	63.3	61.4	53.9	45.7	48.4	44.6	46.4
無回答	8	37.5	50.0	50.0	37.5	37.5	62.5	25.0
問1-3〔地域別〕								
北海道・東北	269	59.5	54.6	49.4	49.1	40.1	39.0	42.4
関東	679	61.4	61.1	49.9	46.7	48.2	43.7	42.6
中部・北陸	420	60.2	55.0	50.0	45.7	42.9	44.0	37.1
近畿	417	55.2	57.6	44.1	50.1	47.0	41.5	41.7
中国・四国	254	58.3	54.3	46.5	39.4	43.3	35.8	40.2
九州・沖縄	255	55.7	55.3	49.8	48.2	41.6	38.8	40.8
外国	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	33.3	27.8	22.2	27.8	33.3	27.8	16.7
問1-4〔がん経験の有無別〕								
はい	171	53.2	50.9	36.3	39.8	40.4	37.4	33.3
いいえ	2124	59.2	57.5	49.2	47.3	45.1	41.5	41.3
無回答	17	41.2	52.9	52.9	35.3	41.2	58.8	41.2
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	973	63.4	61.6	53.0	47.2	50.2	46.7	47.5
いいえ	1320	55.8	53.9	44.9	46.5	40.9	37.4	36.0
無回答	19	15.8	31.6	31.6	26.3	26.3	36.8	26.3
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	461	65.3	59.9	60.1	39.5	52.9	46.6	48.8
言葉は知っている、内容は知らない	779	62.0	62.6	51.0	49.3	47.5	44.2	43.5
言葉もその内容も知らない	967	54.3	52.6	42.2	48.9	40.4	37.3	36.2
無回答	105	44.8	41.9	31.4	37.1	26.7	33.3	26.7
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1677	62.6	59.9	51.9	47.0	47.3	43.3	43.5
いいえ	612	49.7	50.7	39.5	47.1	38.7	36.9	34.3
無回答	23	13.0	13.0	13.0	8.7	8.7	13.0	13.0
問6-1〔オレンジパルーンプロジェクトの認知別〕								
はい	52	65.4	36.5	53.8	26.9	30.8	30.8	32.7
いいえ	2235	58.8	57.7	48.3	47.2	45.3	41.7	41.2
無回答	25	28.0	32.0	32.0	32.0	20.0	24.0	20.0

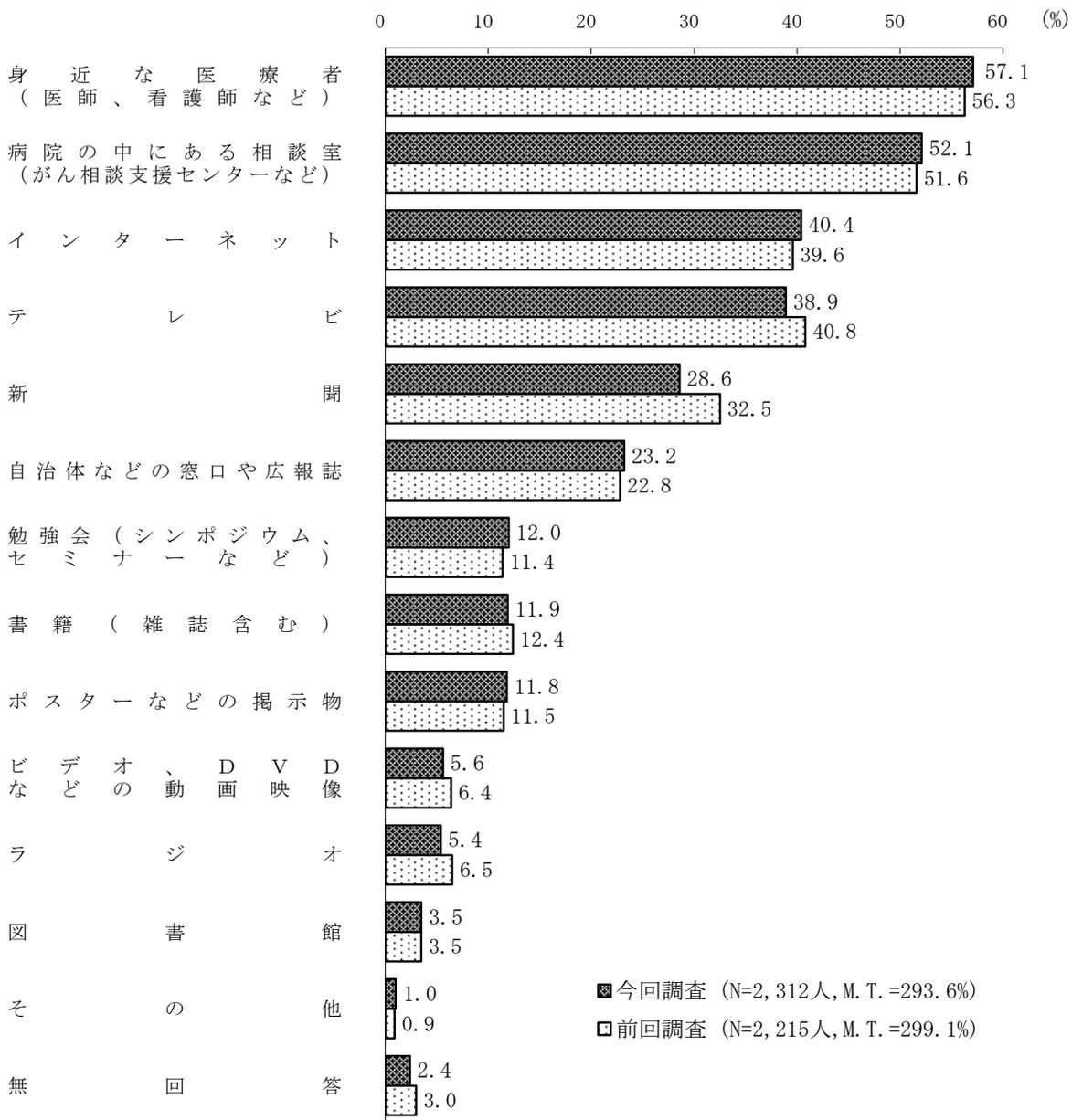
表4-1 (1) つづき 「緩和ケア」について知りたい情報

(%)

	総数	医療用麻薬の効果や副作用について	地域の相談窓口について	その他	無回答	回答計
【総数】	2312	36.4	31.7	2.2	6.2	413.7
問1-1〔年代別〕						
20代	192	44.8	24.0	3.6	4.2	441.7
30代	294	46.3	32.3	2.4	3.7	488.1
40代	330	40.0	36.1	2.4	1.2	469.7
50代	426	40.4	32.6	1.9	5.2	451.4
60代	558	33.7	33.7	2.7	4.3	391.9
70歳以上	498	24.7	28.1	1.4	14.3	317.5
無回答	14	28.6	35.7	-	28.6	292.9
問1-2〔性別〕						
男性	1020	31.9	31.3	2.9	7.2	377.2
女性	1284	40.0	32.0	1.7	5.5	443.0
無回答	8	37.5	25.0	-	12.5	375.0
問1-3〔地域別〕						
北海道・東北	269	36.1	27.1	2.6	6.3	406.3
関東	679	39.3	34.0	2.1	5.6	434.6
中部・北陸	420	36.4	30.7	1.7	7.1	411.0
近畿	417	33.3	34.8	2.6	5.3	413.2
中国・四国	254	35.4	26.8	2.8	7.5	390.2
九州・沖縄	255	34.9	32.9	2.0	5.1	405.1
外国	-	-	-	-	-	-
無回答	18	33.3	11.1	5.6	27.8	266.7
問1-4〔がん経験の有無別〕						
はい	171	32.2	26.9	2.3	9.9	362.6
いいえ	2124	36.7	32.0	2.2	5.9	417.8
無回答	17	41.2	35.3	5.9	5.9	411.8
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕						
はい	973	42.7	32.0	2.5	3.5	450.1
いいえ	1320	31.8	31.4	2.1	7.7	388.6
無回答	19	31.6	31.6	-	42.1	300.0
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕						
言葉知っている、内容も知っている	461	38.2	32.8	2.4	2.4	448.8
言葉は知っている、内容は知らない	779	40.1	33.9	1.9	2.3	438.3
言葉もその内容も知らない	967	33.7	29.7	2.3	9.8	387.5
無回答	105	25.7	28.6	3.8	19.0	319.0
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕						
はい	1677	39.1	33.2	2.0	3.8	433.4
いいえ	612	29.9	28.6	3.1	10.6	369.1
無回答	23	8.7	4.3	-	69.6	165.2
問6-1〔オレンジパルーンプロジェクトの認知別〕						
はい	52	26.9	28.8	9.6	7.7	350.0
いいえ	2235	36.7	31.9	2.1	5.7	416.6
無回答	25	24.0	20.0	4.0	48.0	284.0

(2)「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

問4-2 「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものは何ですか。
(〇はいくつでも)



	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ビデオ、DVDなどの動画映像
今回調査	2312	57.1	52.1	40.4	28.6	38.9	5.4	5.6
前回調査	2215	56.3	51.6	39.6	32.5	40.8	6.5	6.4

図書館	書籍 (雑誌含む)	ポスターなどの掲示物	自治体などの窓口や広報誌	勉強会	その他	無回答	回答計
3.5	11.9	11.8	23.2	12.0	1.0	2.4	293.6
3.5	12.4	11.5	22.8	11.4	0.9	3.0	299.1

「緩和ケア」についての情報を得る手段として、利用しやすいと思うものをきいたところ、「身近な医療者（医師、看護師など）」が57.1%で最も高く、以下、「病院の中にある相談室（がん相談支援センターなど）」（52.1%）、「インターネット」（40.4%）、「テレビ」（38.9%）、「新聞」（28.6%）、「自治体などの窓口や広報誌」（23.2%）などの順となっている。

前回調査と比較すると、今回は「インターネット」と「テレビ」の順位が前回から入れ替わったものの、全体の項目の割合は、大きな変動がみられない。但し、「新聞」が前回調査から4ポイント減少し、有意差がみられる。

年代別にみると、「身近な医療者」はすべての年代で5割を上回っている。「病院の中にある相談室」は40代から60代で5割台と高くなっている。「インターネット」と「テレビ」は年代が若くなるほど割合が高くなり、特に「インターネット」では20代（72.9%）と30代（71.8%）で7割台に達している。

性別にみると、「身近な医療者」、「病院の中にある相談室」、「勉強会（シンポジウム、セミナーなど）」で女性の割合がやや高くなっている。

地域別にみると、「インターネット」が関東（46.2%）でやや高くなっている。

がん経験者に限定してみると、「身近な医療者」（65.5%）が高くなっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「身近な医療者」（61.8%）、「病院の中にある相談室」（55.8%）、「インターネット」（42.8%）が高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「身近な医療者」、「病院の中にある相談室」、「インターネット」、「勉強会」の項目は“その内容も知っている”人の割合が、“言葉もその内容も知らない”人の割合を上回っている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「身近な医療者」（59.3%）、「病院の中にある相談室」（55.3%）、「インターネット」（43.4%）が高くなっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「勉強会」（28.8%）や「ポスターなどの掲示物」（23.1%）が全体平均より高くなっている。

<表4-2（1）>

表4-2(1) 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

(%)

	総数	身近な医療者	病院の中にある相談室	インターネット	テレビ	新聞	自治体などの窓口や広報誌	勉強会	書籍(雑誌含む)
【総数】	2312	57.1	52.1	40.4	38.9	28.6	23.2	12.0	11.9
問1-1〔年代別〕									
20代	192	51.0	35.4	72.9	53.6	25.5	15.1	8.9	15.1
30代	294	50.0	47.6	71.8	48.6	31.0	24.1	10.9	16.7
40代	330	56.4	55.5	63.0	44.5	25.5	23.3	14.5	14.8
50代	426	58.2	58.7	48.4	41.1	32.6	25.8	14.1	14.1
60代	558	58.2	56.5	22.8	33.3	30.1	25.8	15.6	9.7
70歳以上	498	62.2	48.0	7.8	28.7	25.7	20.3	6.6	7.0
無回答	14	35.7	64.3	14.3	21.4	14.3	28.6	-	-
問1-2〔性別〕									
男性	1020	54.0	47.2	40.4	37.1	29.7	22.5	7.9	10.4
女性	1284	59.4	56.0	40.5	40.6	27.9	23.7	15.3	13.2
無回答	8	62.5	50.0	12.5	12.5	-	25.0	-	-
問1-3〔地域別〕									
北海道・東北	269	56.5	52.4	37.2	42.8	32.0	20.8	11.9	10.4
関東	679	57.3	53.8	46.2	37.8	29.6	27.5	11.6	13.4
中部・北陸	420	56.4	56.2	38.8	39.8	26.9	22.6	14.0	12.1
近畿	417	58.3	47.0	40.0	36.7	27.1	21.3	9.6	10.3
中国・四国	254	56.3	50.8	39.0	38.6	29.5	19.3	14.2	13.8
九州・沖縄	255	58.4	49.8	34.5	40.8	28.6	22.0	12.2	11.0
外国	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無回答	18	33.3	55.6	11.1	33.3	-	22.2	-	-
問1-4〔がん経験の有無別〕									
はい	171	65.5	56.7	22.2	26.9	21.1	19.3	8.8	9.9
いいえ	2124	56.5	51.6	41.9	40.0	29.2	23.5	12.3	12.1
無回答	17	47.1	64.7	23.5	29.4	23.5	17.6	-	5.9
問2-1〔家族の中のがん経験者の有無別〕									
はい	973	61.8	55.8	42.8	37.6	26.1	23.2	12.8	14.3
いいえ	1320	53.8	49.6	38.9	40.2	30.5	23.2	11.5	10.1
無回答	19	42.1	31.6	15.8	21.1	21.1	21.1	-	21.1
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕									
言葉知っている、内容も知っている	461	66.2	62.7	50.3	32.8	23.9	23.9	21.0	16.9
言葉は知っている、内容は知らない	779	56.1	55.8	38.3	39.5	34.1	23.6	14.5	13.7
言葉もその内容も知らない	967	54.2	43.7	39.8	42.7	27.4	22.6	6.3	8.8
無回答	105	50.5	54.3	17.1	26.7	19.0	21.9	5.7	5.7
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕									
はい	1677	59.3	55.3	43.4	38.0	28.9	24.1	13.5	13.0
いいえ	612	52.3	44.4	33.3	42.2	28.6	21.6	8.2	9.5
無回答	23	21.7	21.7	4.3	21.7	8.7	-	-	-
問6-1〔オレンジパルーンプロジェクトの認知別〕									
はい	52	63.5	63.5	38.5	23.1	17.3	25.0	28.8	9.6
いいえ	2235	57.1	52.0	40.7	39.5	28.9	23.3	11.6	12.0
無回答	25	40.0	32.0	12.0	20.0	28.0	12.0	12.0	8.0

表4-2(1) つづき 「緩和ケア」情報を得るために利用しやすい手段

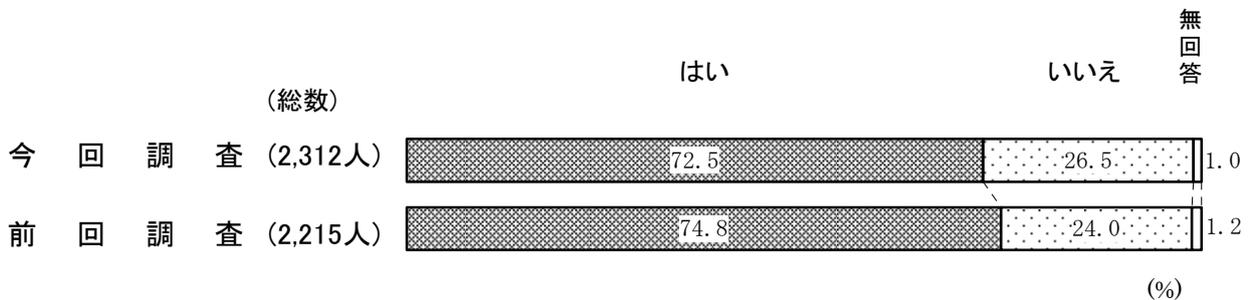
(%)

	総数	ポスター などの掲 示物	ラジオ	ビデオ、 DVDな どの動画 映像	図書館	その他	無回答	回答計
【総数】	2312	11.8	5.4	5.6	3.5	1.0	2.4	293.6
問1-1〔年代別〕								
20代	192	24.0	6.8	4.7	5.7	1.6	1.6	321.9
30代	294	19.0	7.8	2.4	5.8	-	1.0	336.7
40代	330	14.2	5.5	6.1	2.1	0.6	-	326.1
50代	426	12.4	7.0	8.5	3.8	1.4	2.1	328.2
60代	558	9.9	3.9	6.8	3.8	1.3	1.1	278.7
70歳以上	498	3.0	3.6	3.4	1.4	0.8	6.6	225.3
無回答	14	-	-	14.3	7.1	-	14.3	214.3
問1-2〔性別〕								
男性	1020	10.8	5.6	6.0	2.9	1.3	2.5	278.3
女性	1284	12.6	5.2	5.1	3.8	0.7	2.3	306.2
無回答	8	-	-	37.5	12.5	-	12.5	225.0
問1-3〔地域別〕								
北海道・東北	269	17.1	7.4	5.6	4.1	1.5	1.5	301.1
関東	679	13.4	6.5	6.3	3.7	0.7	1.6	309.6
中部・北陸	420	11.0	5.0	4.3	3.6	0.7	2.1	293.6
近畿	417	8.2	3.8	5.5	2.9	1.7	2.4	274.8
中国・四国	254	9.4	3.1	6.3	4.3	0.8	3.9	289.4
九州・沖縄	255	11.0	5.9	4.7	2.0	0.4	3.5	284.7
外国	-	-	-	-	-	-	-	0.0
無回答	18	16.7	-	11.1	5.6	-	16.7	205.6
問1-4〔がん経験の有無別〕								
はい	171	4.7	3.5	4.1	-	0.6	3.5	246.8
いいえ	2124	12.4	5.5	5.6	3.7	0.9	2.4	297.8
無回答	17	-	5.9	17.6	5.9	5.9	-	247.1
問2-1 〔家族の中のがん経験者の有無別〕								
はい	973	11.9	4.5	6.2	3.3	1.0	1.4	302.8
いいえ	1320	11.8	6.0	5.1	3.5	0.9	2.7	287.7
無回答	19	-	5.3	10.5	10.5	-	36.8	236.8
問3-1〔緩和ケアの認知度別〕								
言葉知っている、内容も知っている	461	8.9	5.2	5.2	4.1	0.4	1.3	322.8
言葉は知っている、内容は知らない	779	10.0	4.5	5.5	3.9	0.6	1.0	301.3
言葉もその内容も知らない	967	15.3	6.2	6.0	2.8	1.6	2.9	280.4
無回答	105	4.8	4.8	3.8	3.8	-	13.3	231.4
問5-1〔医療用麻薬の認知別〕								
はい	1677	10.8	5.2	5.9	3.8	0.9	1.3	303.2
いいえ	612	14.9	5.9	4.9	2.8	1.1	3.9	273.5
無回答	23	-	4.3	-	-	-	47.8	130.4
問6-1〔オレンジパルーン プロジェクトの認知別〕								
はい	52	23.1	7.7	7.7	5.8	1.9	5.8	321.2
いいえ	2235	11.6	5.3	5.5	3.4	0.9	1.9	293.8
無回答	25	4.0	4.0	4.0	4.0	-	40.0	220.0

5 医療用麻薬について

(1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

問5-1 がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることをご存じですか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	72.5	26.5	1.0
前回調査	2215	74.8	24.0	1.2

がんの痛みを和らげるために医療用麻薬があることを知っているかをきいたところ、「はい」が 72.5% となっている。

前回調査では、「はい」が 74.8%で、今回とほとんど差がなく、有意差はみられない。

年代別にみると、「はい」は 40代 (77.0%)、50代 (80.3%)、60代 (77.6%) で高くなっている。

性別では差はみられない。

地域別では差はみられない。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」は 77.8%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、認知度が高くなるほど、「はい」の割合が高くなっており、“その内容も知っている” 人では、92.8%に達している。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が 98.1%に達している。

<図5-1 (1)、図5-1 (2)>

図5-1(1) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知

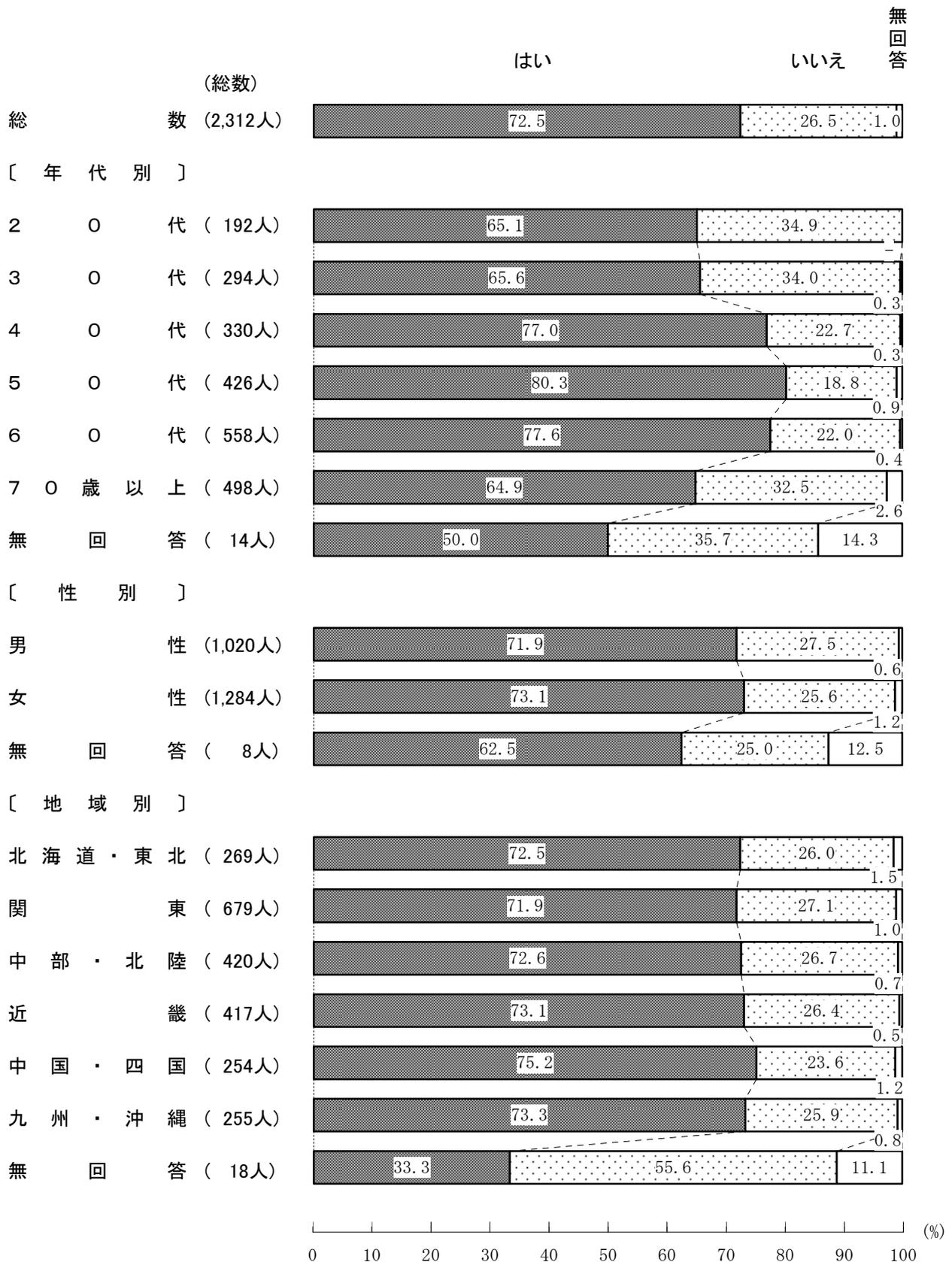
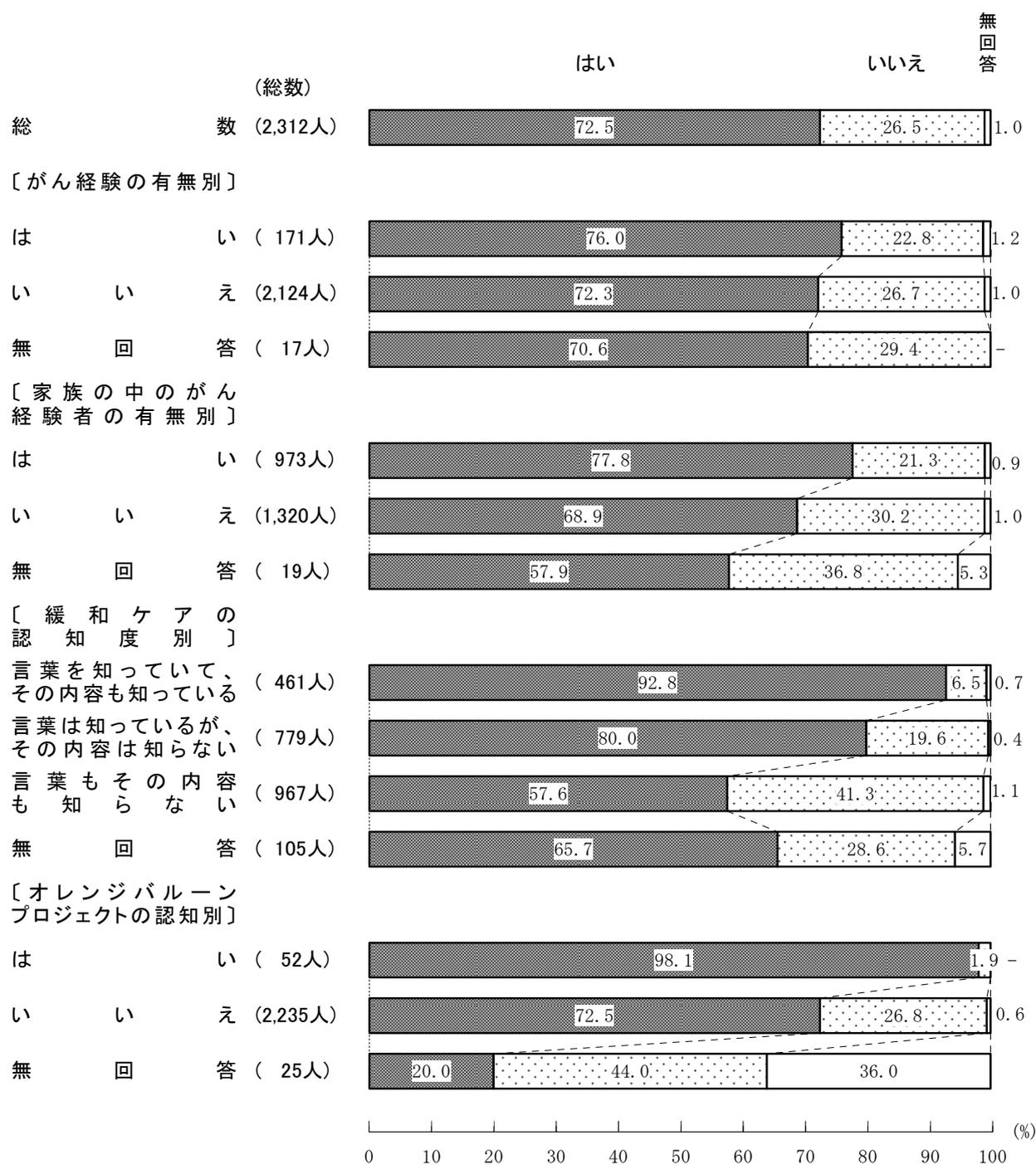
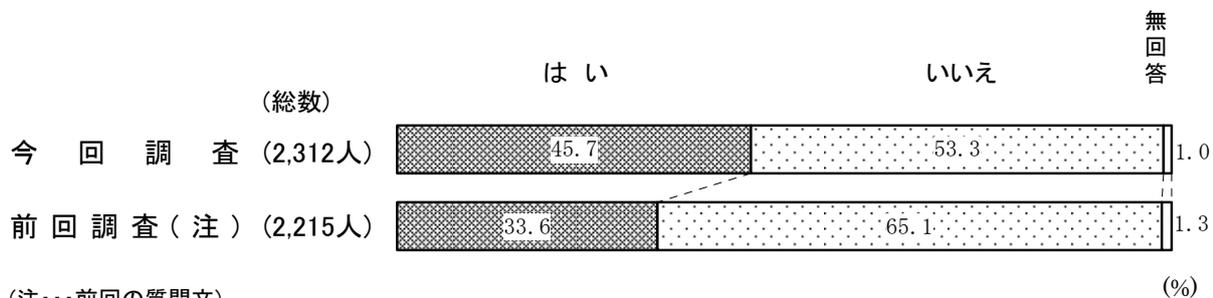


図5-1(2) がんの痛みを和らげるための医療用麻薬の認知



(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

問5-2 あなたは、がんの痛みの大部分は医療用麻薬とその補助薬によって取ることができると言われていていることをご存じですか。(○は1つ)



(注・・・前回の質問文)
あなたは、がんの痛みの90%は医療用麻薬によって取ることができると言われていていることをご存じですか。

※ 前回調査と質問文が違うため、前回調査との比較記述はなし。

がんの痛みの大部分は医療用麻薬とその補助薬によって取ることができると言われていていることを知っているかをきいたところ、「はい」が45.7%となっている。

年代別にみると、「はい」が60代(52.0%)で高くなっている。

性別にみると、「はい」の割合は女性(49.5%)が男性(41.1%)を8ポイント上回っている。

地域別では差はみられない。

がん経験者に限定してみると、「はい」が50.3%となっている。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「はい」が51.7%となっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「はい」は“その内容も知っている”人の76.1%に達している。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」が61.7%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「はい」が84.6%を占めている。

<図5-2(1)、図5-2(2)>

図5-2 (1) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知

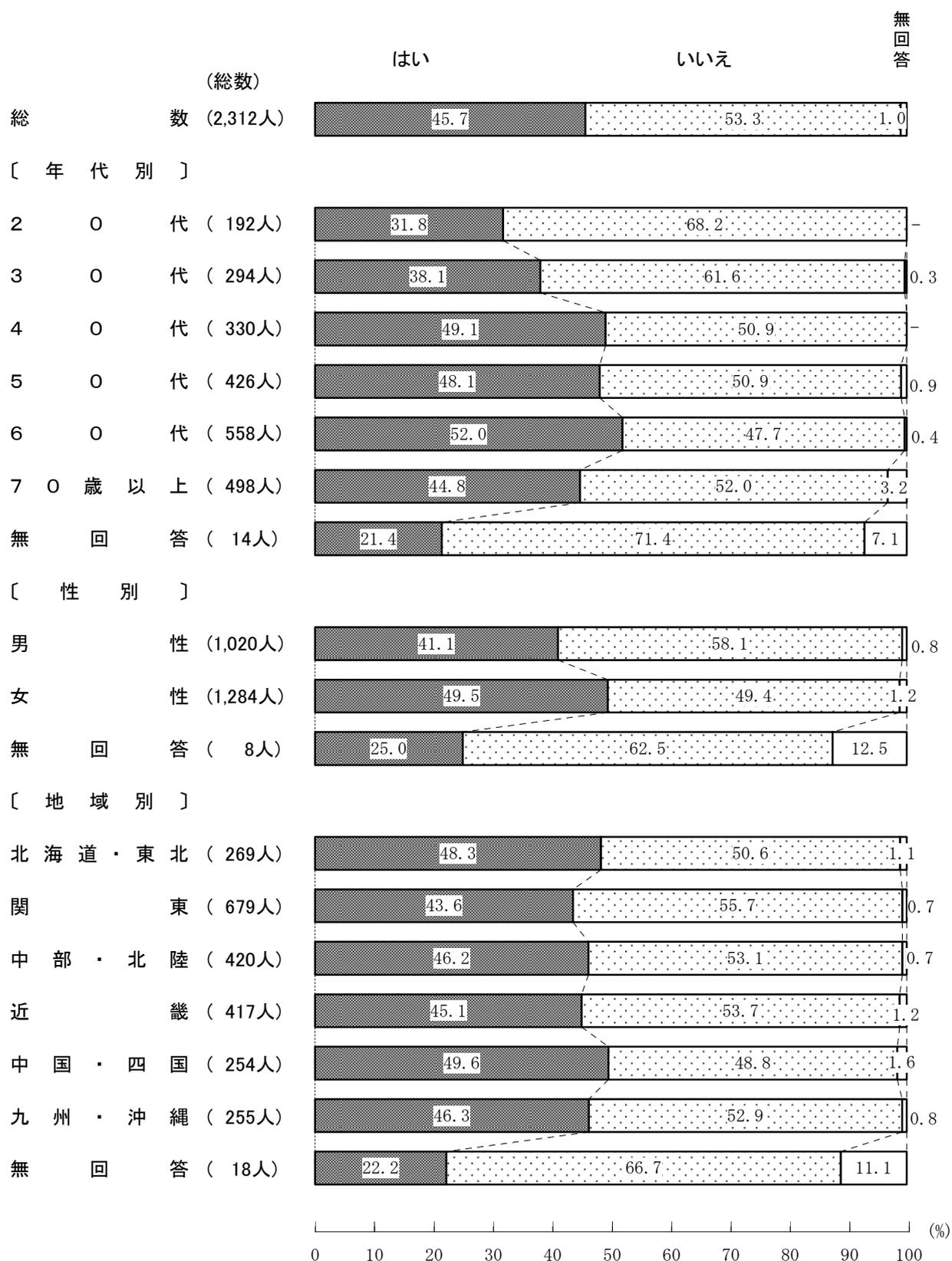
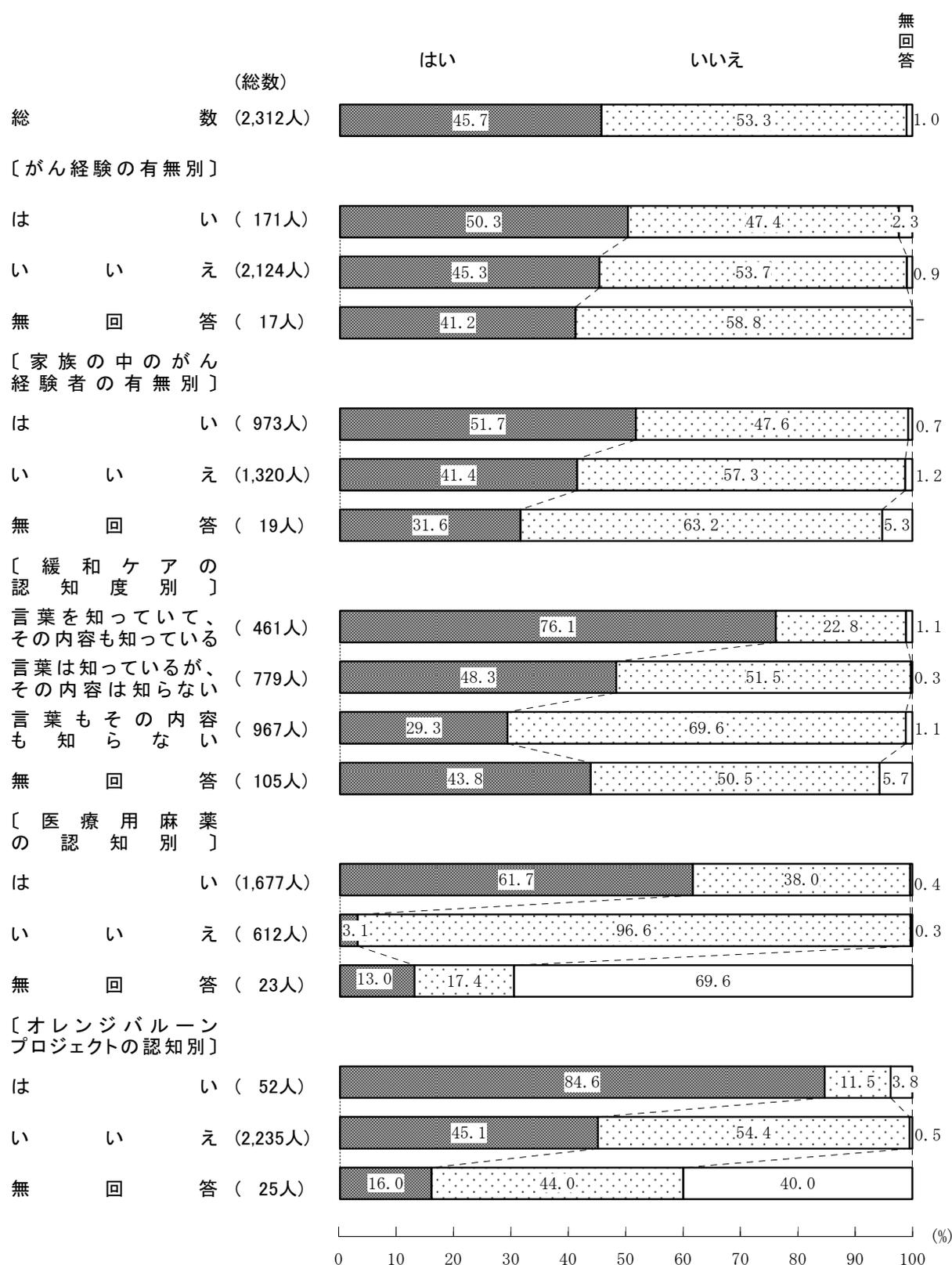
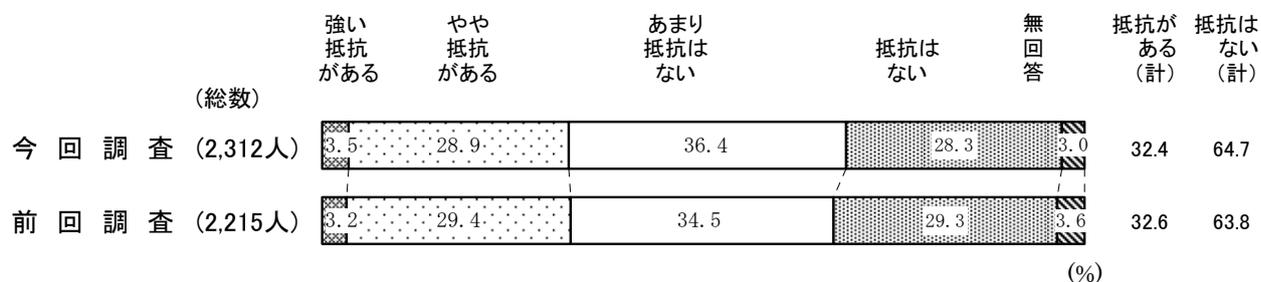


図5-2(2) 医療用麻薬によるがんの痛みの除去の認知



(3) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

問5-3 あなたは、がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗がありますか。
(○は1つ)



	総数	強い抵抗がある	やや抵抗がある	あまり抵抗はない	抵抗はない	無回答
今回調査	2312	3.5	28.9	36.4	28.3	3.0
前回調査	2215	3.2	29.4	34.5	29.3	3.6

がんの痛みを医療用麻薬などの薬を使って緩和することに抵抗があるかをきいたところ、『抵抗がある(計)』が32.4% (「強い抵抗がある」3.5%+「やや抵抗がある」28.9%)、『抵抗はない(計)』が64.7% (「あまり抵抗はない」36.4%+「抵抗はない」28.3%) となっている。

前回調査と比較すると、いずれの項目もほとんど差がなく、有意差はみられない。

年代別にみると、『抵抗がある(計)』の割合が最も高いのは20代で、44.8%となっている。

性別にみると、『抵抗がある(計)』は女性(34.2%)と男性(30.2%)にあまり差はみられない。

地域別では大きな差はみられない。

がん経験者の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人では『抵抗はない(計)』が74.2%と高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、『抵抗がある(計)』が31.9%で、知らない人の34.2%とあまり差はみられない。

「オレンジブループロジェクト」を知っている人に限定してみると、『抵抗がある(計)』が25.0%で、知らない人より8ポイント低くなっている。

<図5-3(1)、図5-3(2)>

図5-3 (1) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感

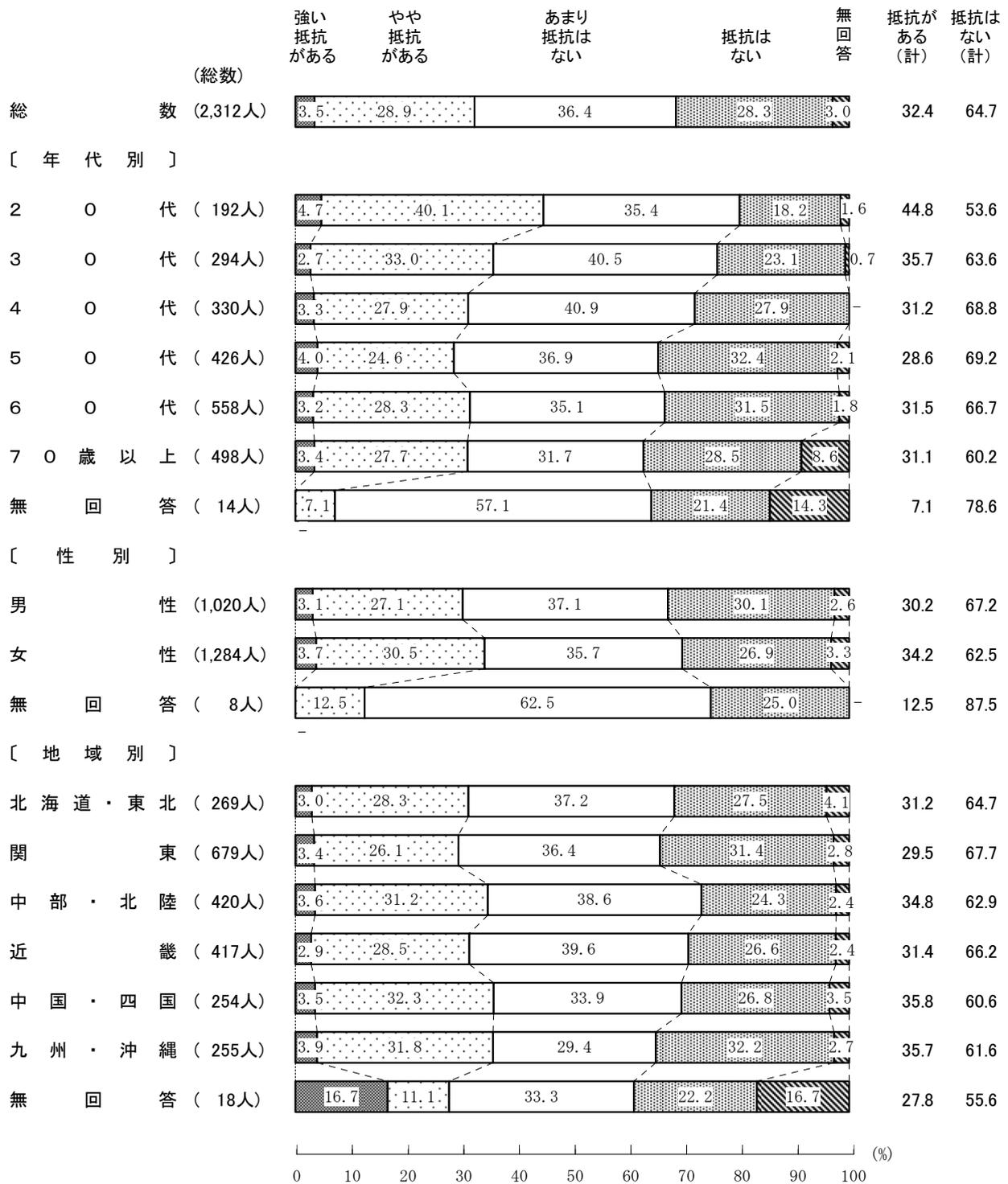
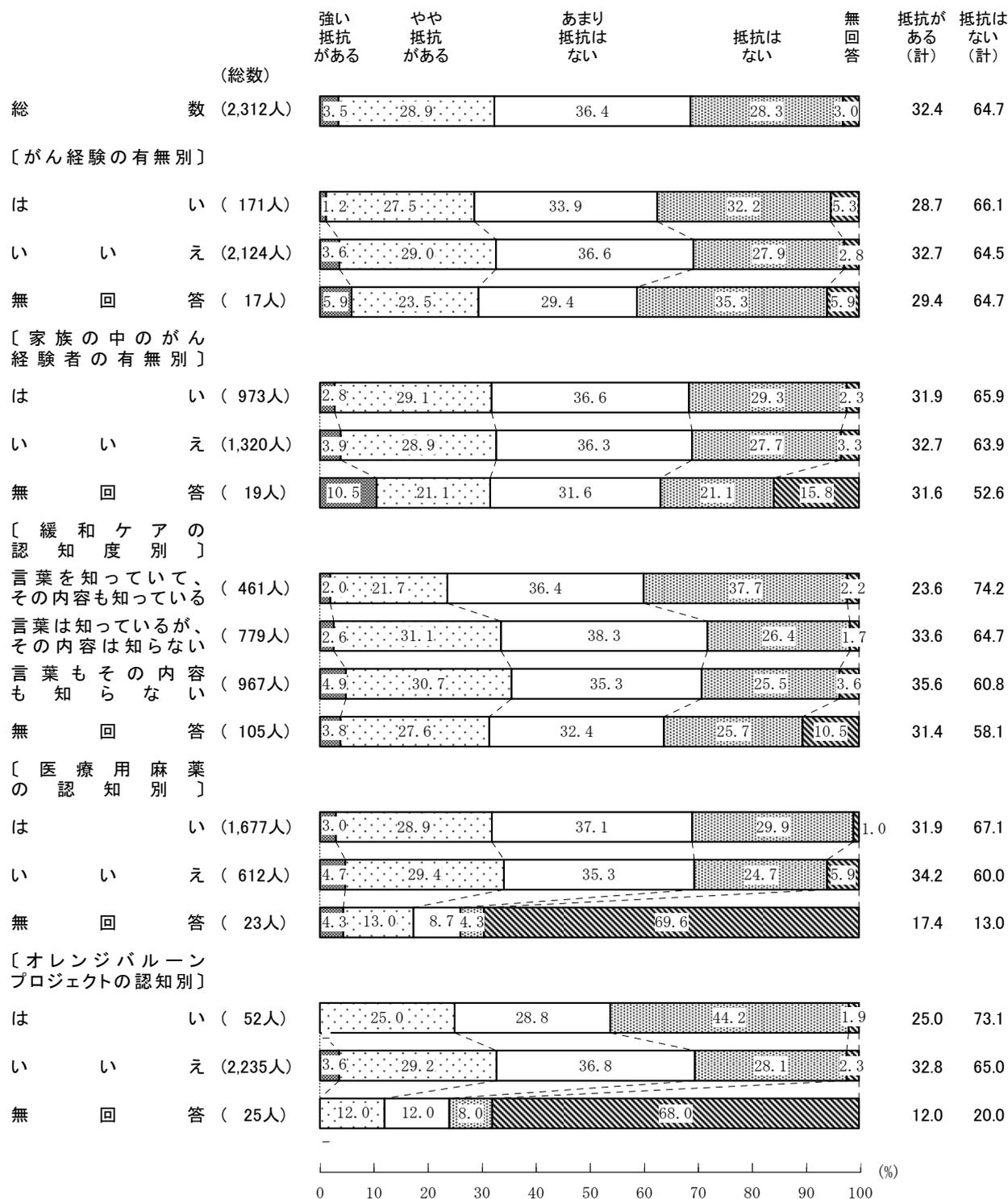


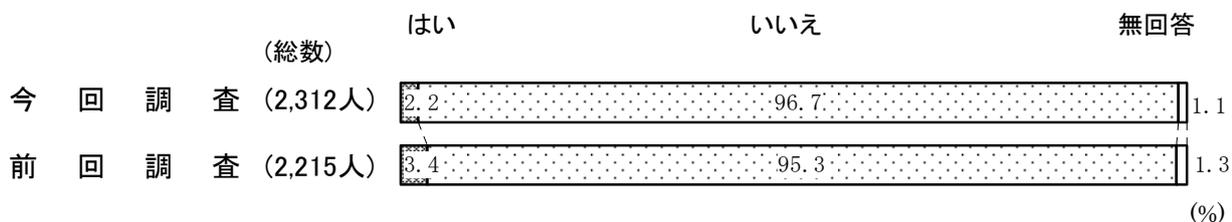
図5-3 (2) 医療用麻薬によるがんの痛み緩和への抵抗感



6 「オレンジバルーンプロジェクト（Orange Balloon Project）」

(1) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

問6-1 国のがん対策で「緩和ケア」について広く国民に知ってもらうために「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることをご存じですか。(○は1つ)



	総数	はい	いいえ	無回答
今回調査	2312	2.2-	96.7+	1.1
前回調査	2215	3.4	95.3	1.3

「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているかをきいたところ、「はい」が2.2%となっている。

前回調査と比較すると、「はい」は3.4%から2.2%に減少し、有意差がみられる。

年代別、性別、地域別のいずれも、「はい」は1～3%の割合となっている。

がん経験の有無別、家族の中のがん経験者の有無別ともに差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”人では「はい」が8.9%とやや高くなっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「はい」は3.0%である。

<図6-1 (1)、図6-1 (2)>

図6-1 (1) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

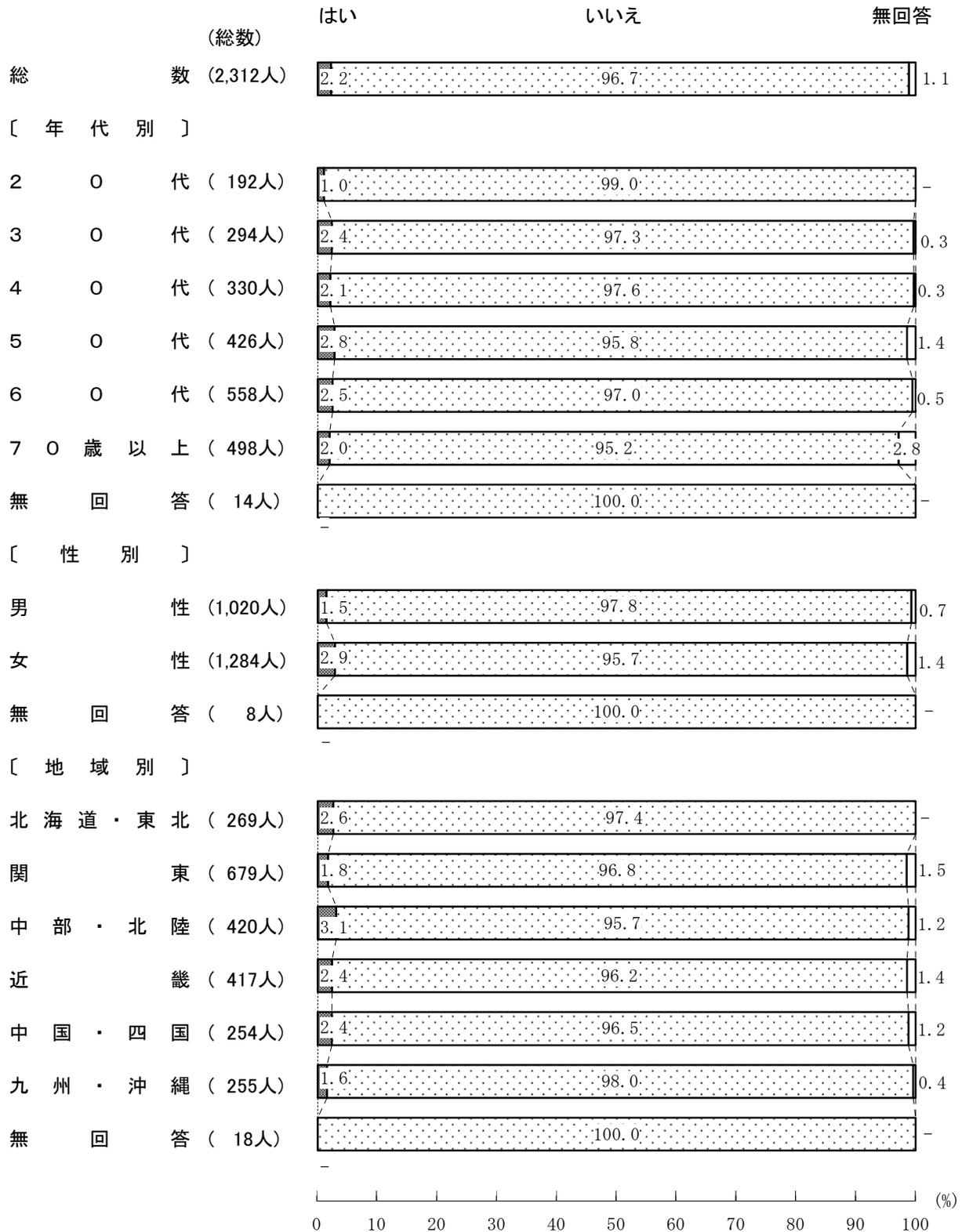
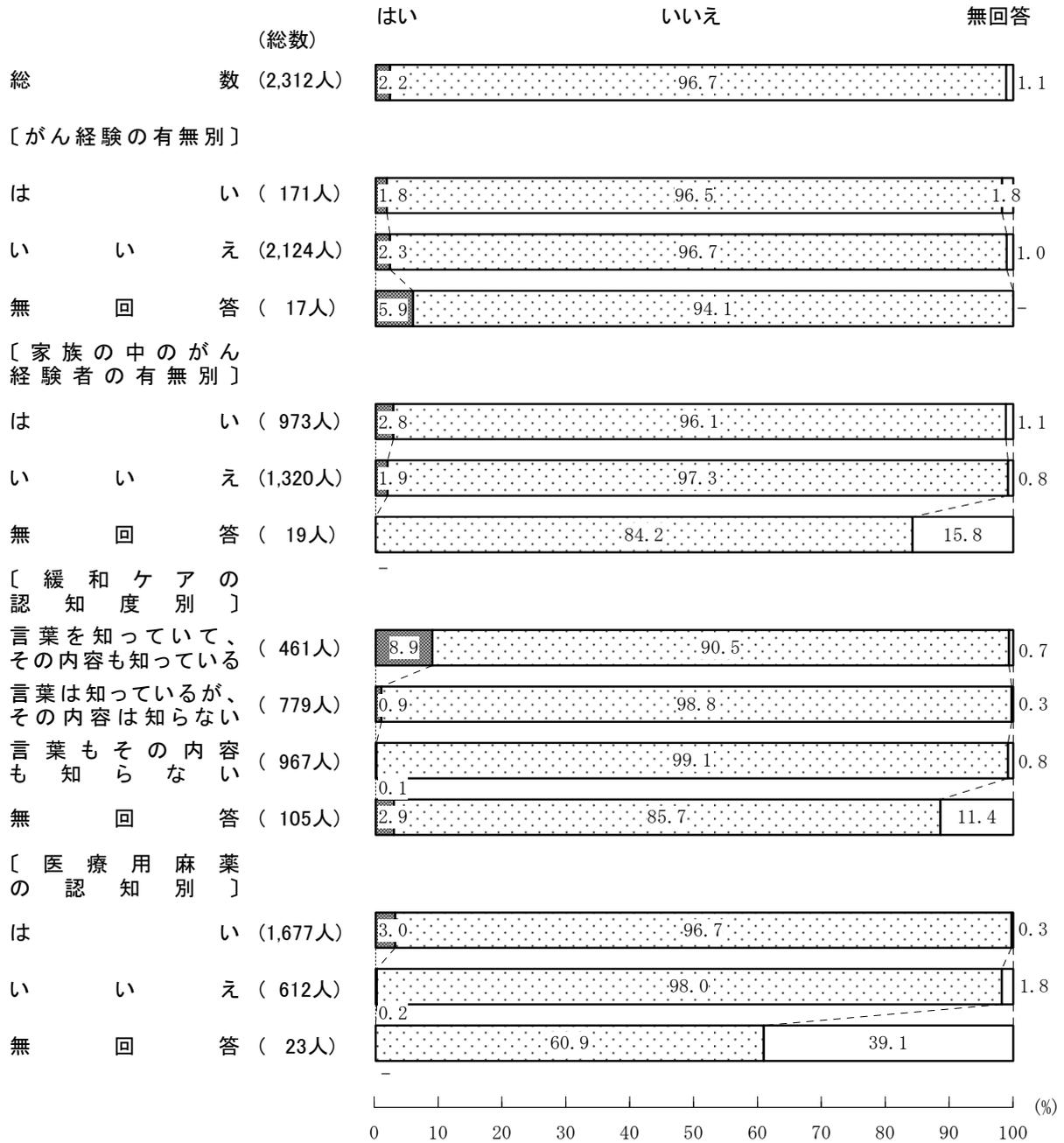


図6-1(2) 「オレンジバルーンプロジェクト」の認知

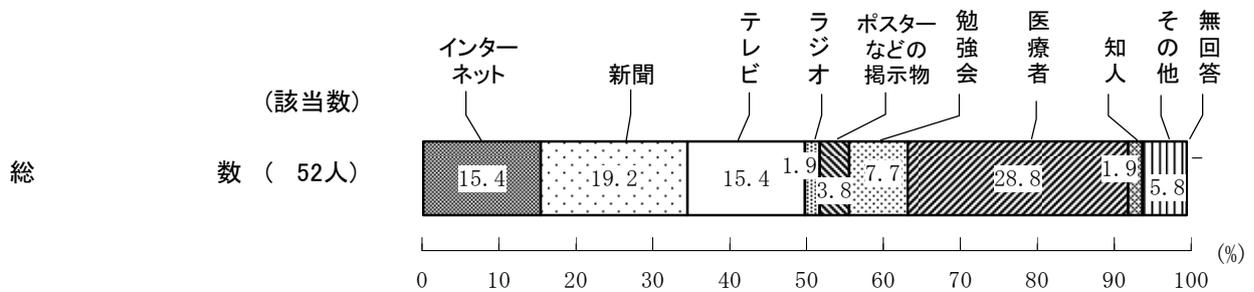


(1) - 1 「オレンジバルーンプロジェクト」の最初の認知経路

問6-1 補問1 (問6-1で1「はい」をお選びの方に)

「オレンジバルーンプロジェクト」については、最初に何でお知りになりましたか。

(○は1つ)



実数 (人)	該当総数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
回答者数	52	8	10	8	1	2	4	15	1	3	-

「オレンジバルーンプロジェクト」という活動があることを知っているとした者(52人)に、最初に何で知ったかをきいたところ、「インターネット」が15.4%、「新聞」が19.2%、「テレビ」が15.4%、「ポスターなどの掲示物」が3.8%、「勉強会(シンポジウム、セミナーなど)」が7.7%、「医療者(医師、看護師、薬剤師、放射線技師、検査技師など)」が28.8%、「ラジオ」と「知人」はともに1.9%となっている。

※ サンプル数が少ないため、総数グラフのみ掲載。クロス用グラフやクロス集計表は掲載せず。また、前回調査との比較記述はなし。

※※ 前回調査の回答者実数は下記の通り。

<参考>

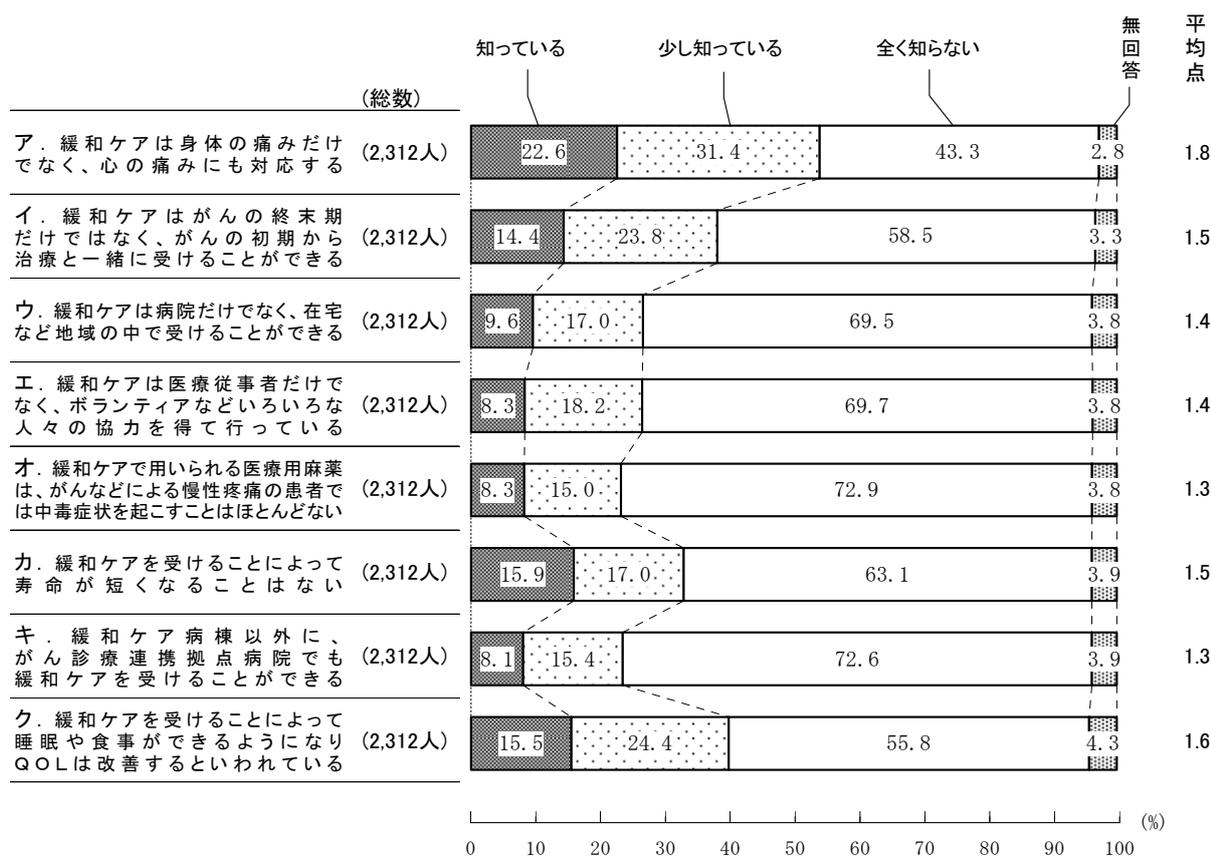
実数 (人)	該当総数	インターネット	新聞	テレビ	ラジオ	ポスターなどの掲示物	勉強会	医療者	知人	その他	無回答
回答者数	75	11	18	15	-	5	5	15	-	6	-

7 緩和ケアの各項目についての認知

問7 「緩和ケア」は以下にあげることを目指して行っています。(ア)～(ク)の各文章を読んで、あてはまるものに○をお付けください。(ア～クまで、それぞれ○は1つずつ)

<グラフ右横の平均点について>

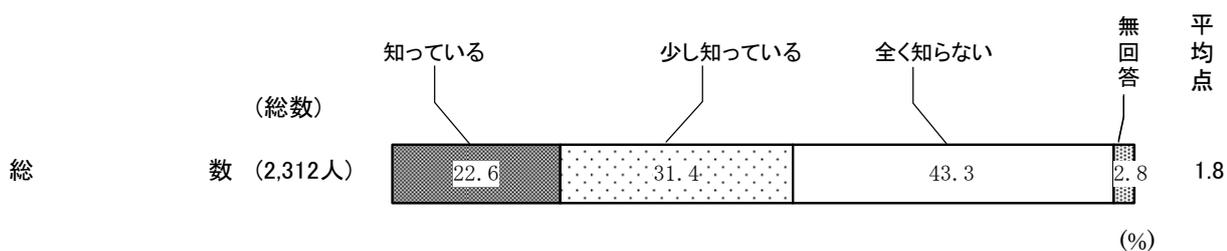
「知っている」＝3点、「少し知っている」＝2点、「全く知らない」＝1点として数値を積算し、その積算数値を無回答を除く回答者数で割ったもの(小数点1位で表示)。



(ア)～(ク)の中で、「知っている」の割合が最も高いのは(ア)(22.6%)で、以下、(カ)(15.9%)、(ク)(15.5%)、(イ)(14.4%)の順となっている。平均点は、(ア)の1.8が最も高くなっている。一方、「全く知らない」の割合が高いのは(オ)(72.9%)と(キ)(72.6%)で、平均点はともに1.3で最も低くなっている。

※※ 前回調査の問7は、質問文、選択肢ともに異なっているため前回調査の結果は掲載していない。

(1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



上記(1)についてきいたところ、「知っている」が22.6%、「少し知っている」が31.4%、「全く知らない」が43.3%となっている。平均点は1.8である。

年代別にみると、「知っている」は30代(27.2%)や40代(28.5%)で高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(27.4%)と男性(16.8%)に11ポイントの差があり、平均点は、女性の1.9が男性の1.7を上回っている。

地域別にみると、「知っている」は中国・四国(29.9%)で高い。

がん経験の有無別では差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、平均点が1.9とやや高い。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が62.0%と高く、平均点も2.6となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が28.5%と高くなっている。

「オレンジバリュープロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が76.9%、平均点が2.8と高くなっている。

<図7-1(1)、図7-1(2)>

図7-1 (1) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する

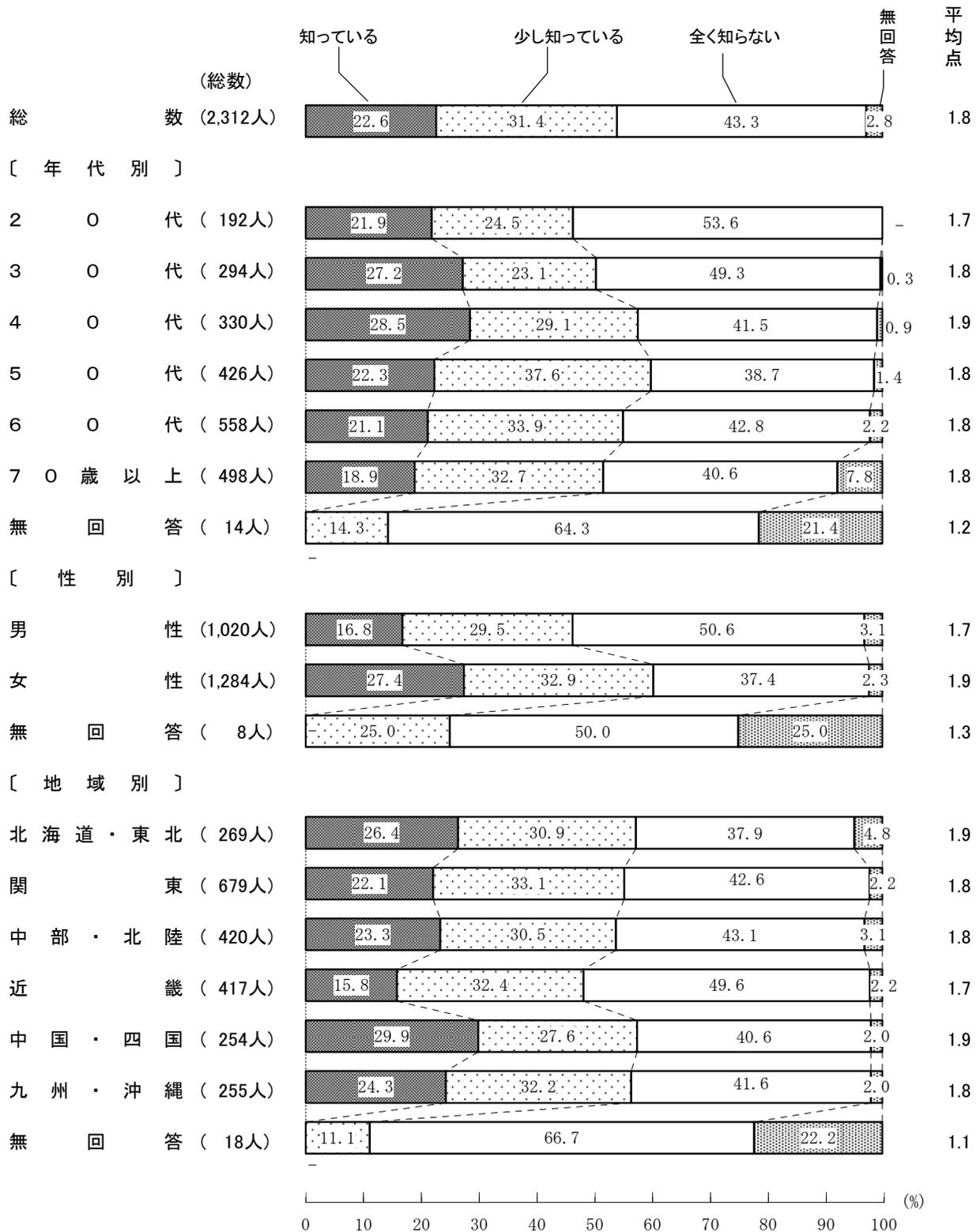
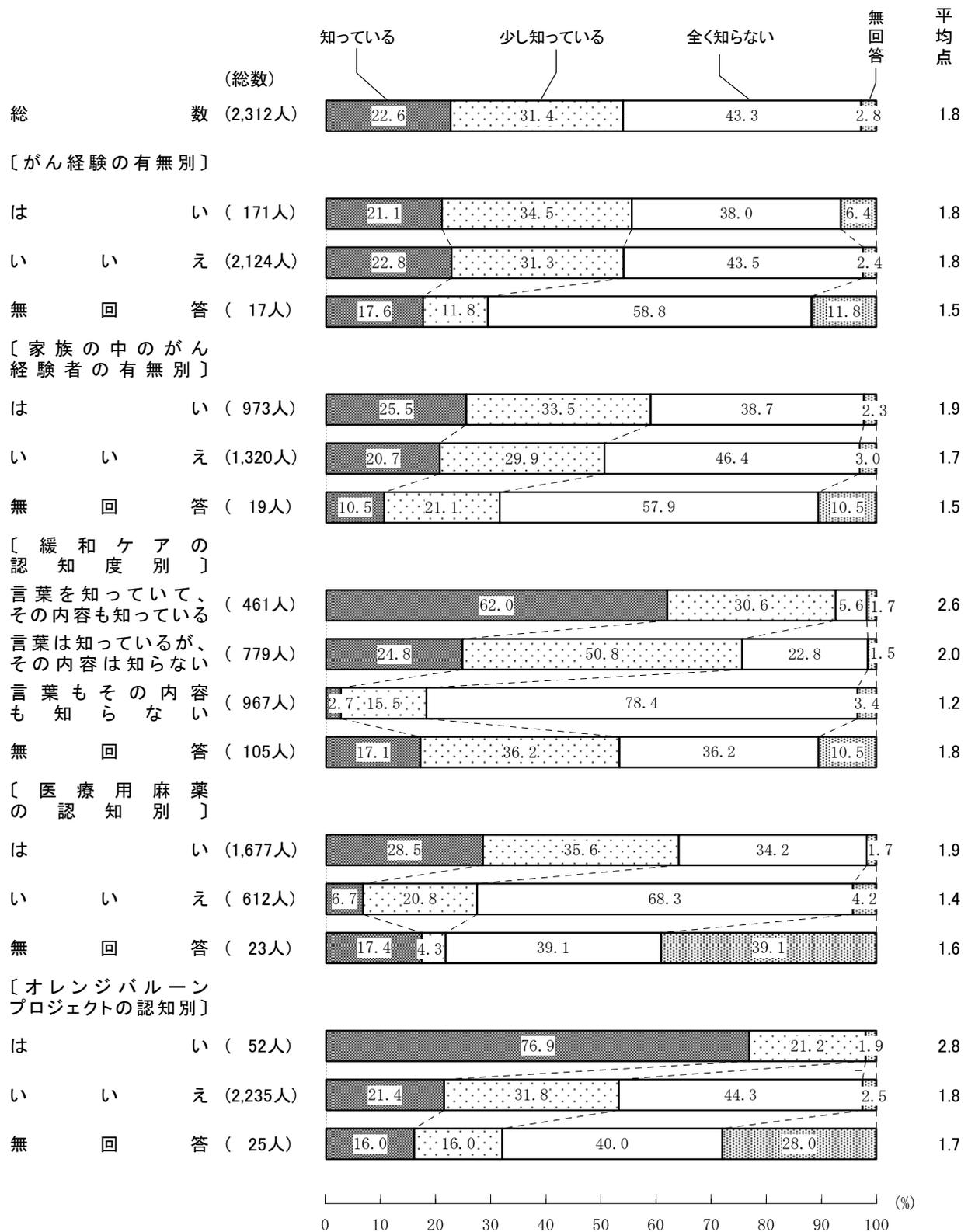
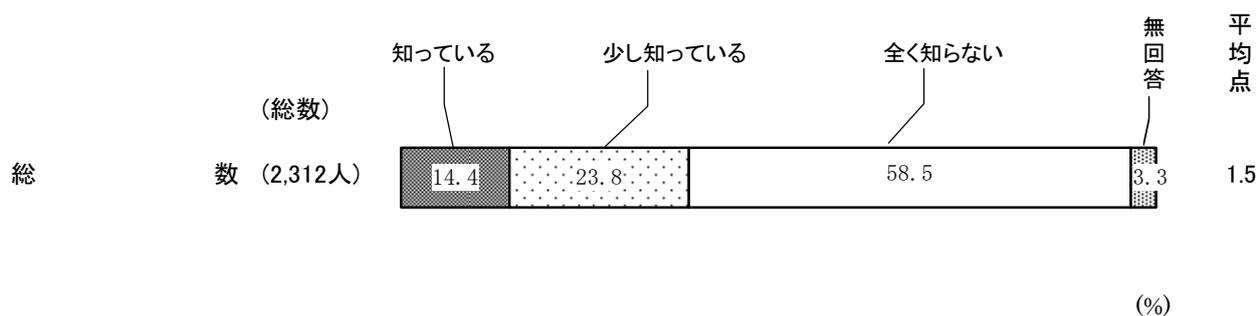


図7-1(2) ア 緩和ケアは身体の痛みだけでなく、心の痛みにも対応する



(2) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる



上記(2)についてきいたところ、「知っている」が14.4%、「少し知っている」が23.8%、「全く知らない」が58.5%となっている。平均点は1.5である。

年代別にみると、「知っている」は30代(19.0%)や40代(17.9%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(16.4%)が男性(12.0%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「知っている」が16.4%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」では「知っている」が43.8%と高く、平均点も2.3となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が18.4%とやや高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が65.4%、平均点は2.6と高くなっている。

<図7-2(1)、図7-2(2)>

図7-2(1) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる

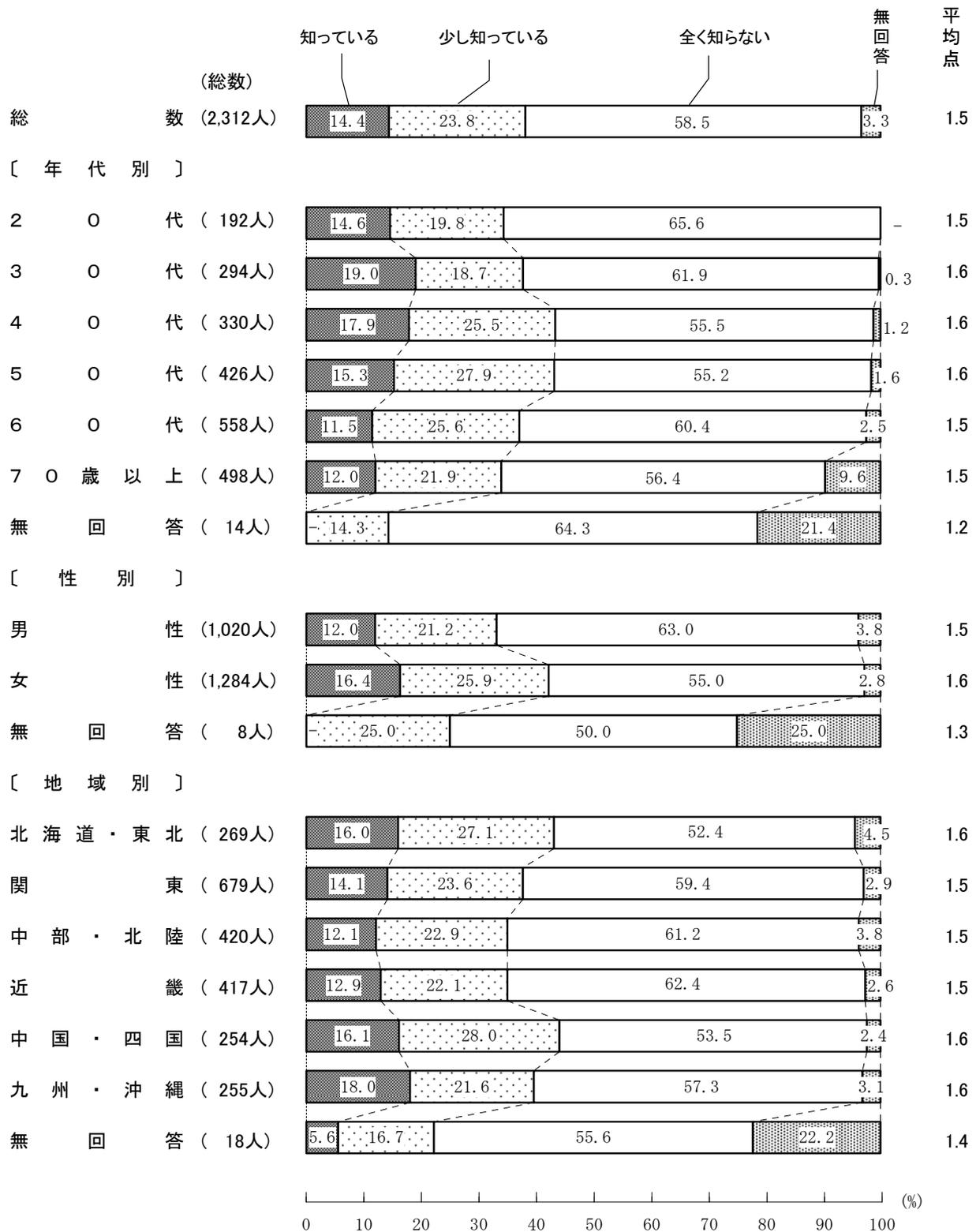
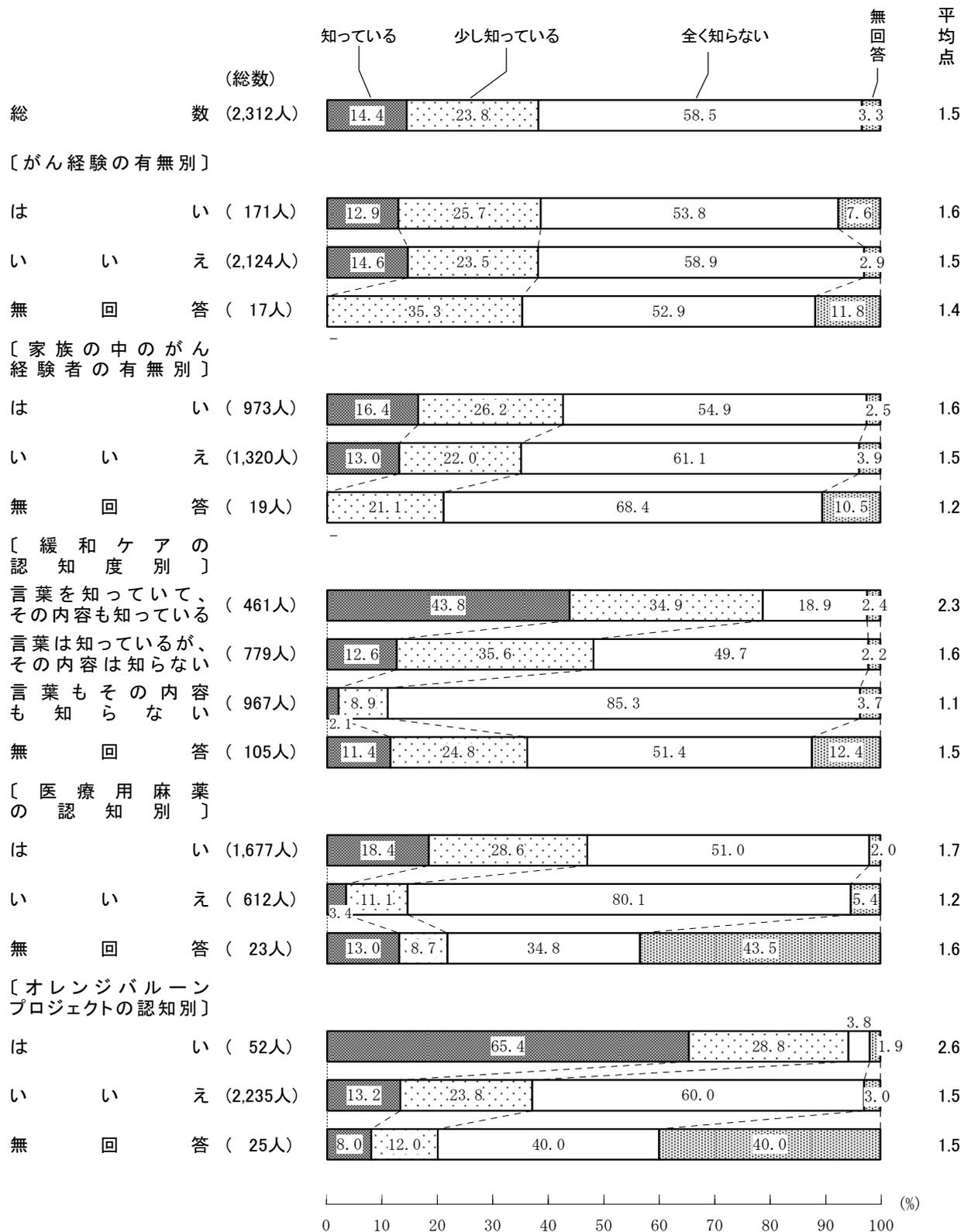
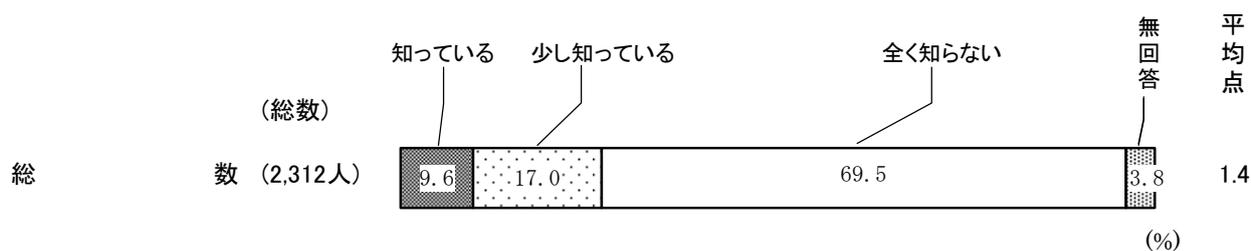


図7-2 (2) イ 緩和ケアは、がんの終末期だけではなく、がんの初期から治療と一緒に受けることができる



(3) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



上記(3)についてきいたところ、「知っている」が9.6%、「少し知っている」が17.0%、「全く知らない」が69.5%となっている。平均点は1.4である。

年代別にみると、「知っている」は30代(14.3%)や40代(13.9%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(11.4%)が男性(7.4%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると、「知っている」が11.4%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が34.5%と高く、平均点も2.0となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が12.0%とやや高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が46.2%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-3(1)、図7-3(2)>

図7-3(1) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる

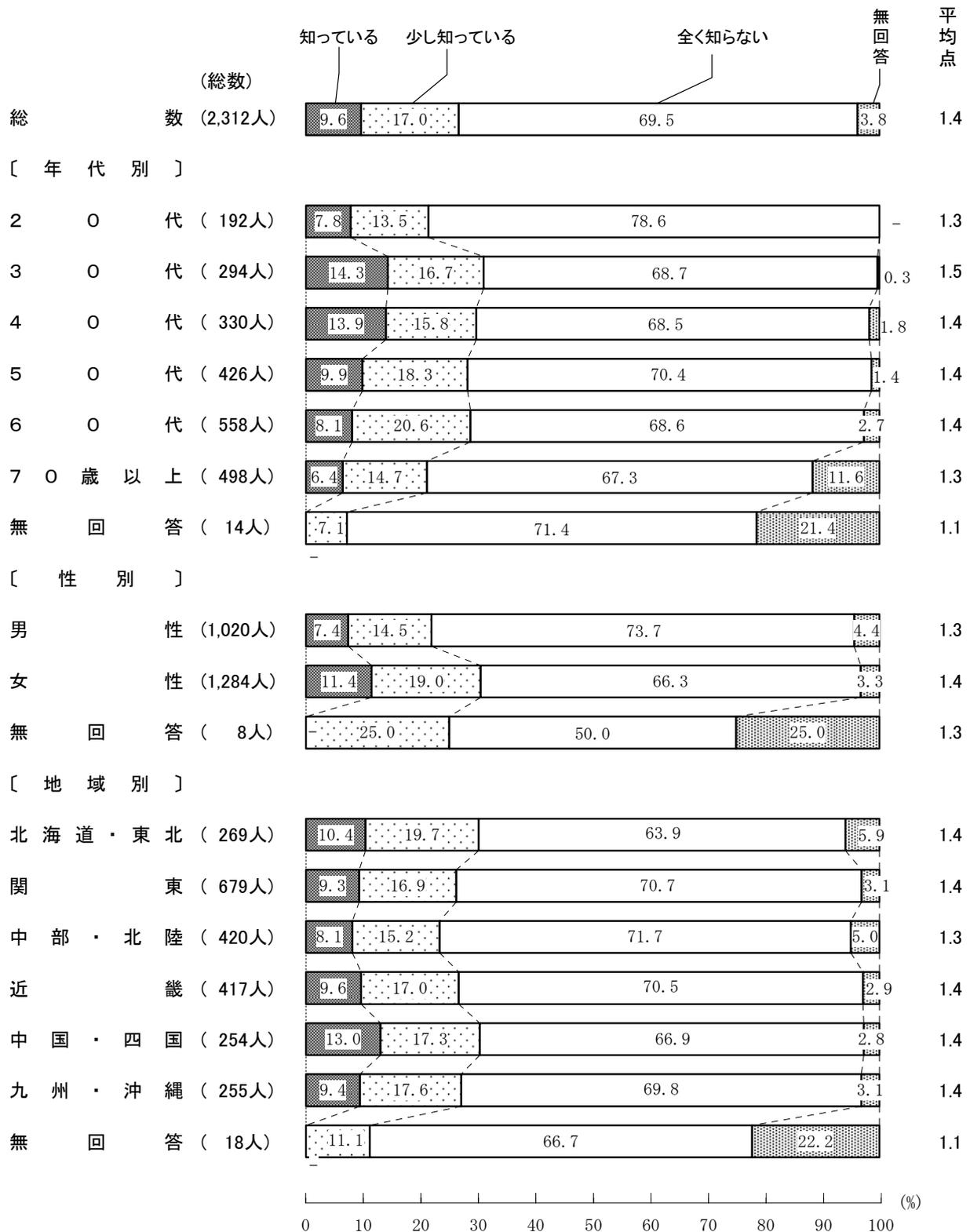
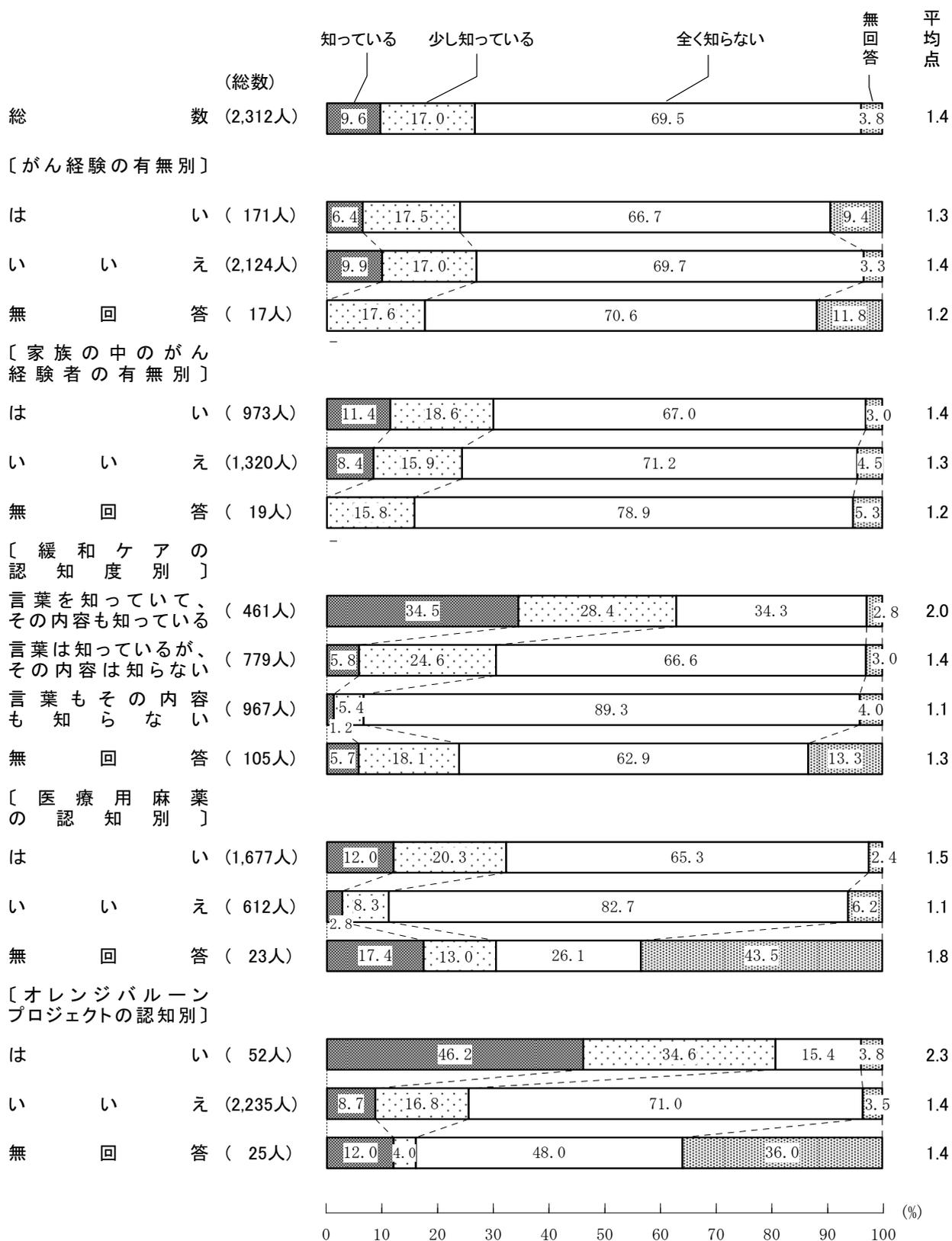
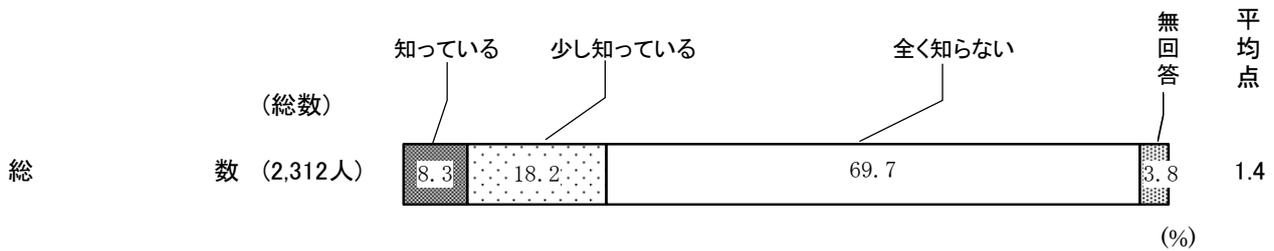


図7-3(2) ウ 緩和ケアは病院だけでなく、在宅など地域の中で受けることができる



(4) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を得て行っている



上記(4)についてきいたところ、「知っている」が8.3%、「少し知っている」が18.2%、「全く知らない」が69.7%となっている。平均点は1.4である。

年代別にみると、「知っている」は30代(12.2%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(9.6%)が男性(6.8%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者の有無別では大きな差はみられない。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が28.6%と高く、平均点も1.9となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が10.4%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が46.2%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-4(1)、図7-4(2)>

図7-4 (1) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を
得て行っている

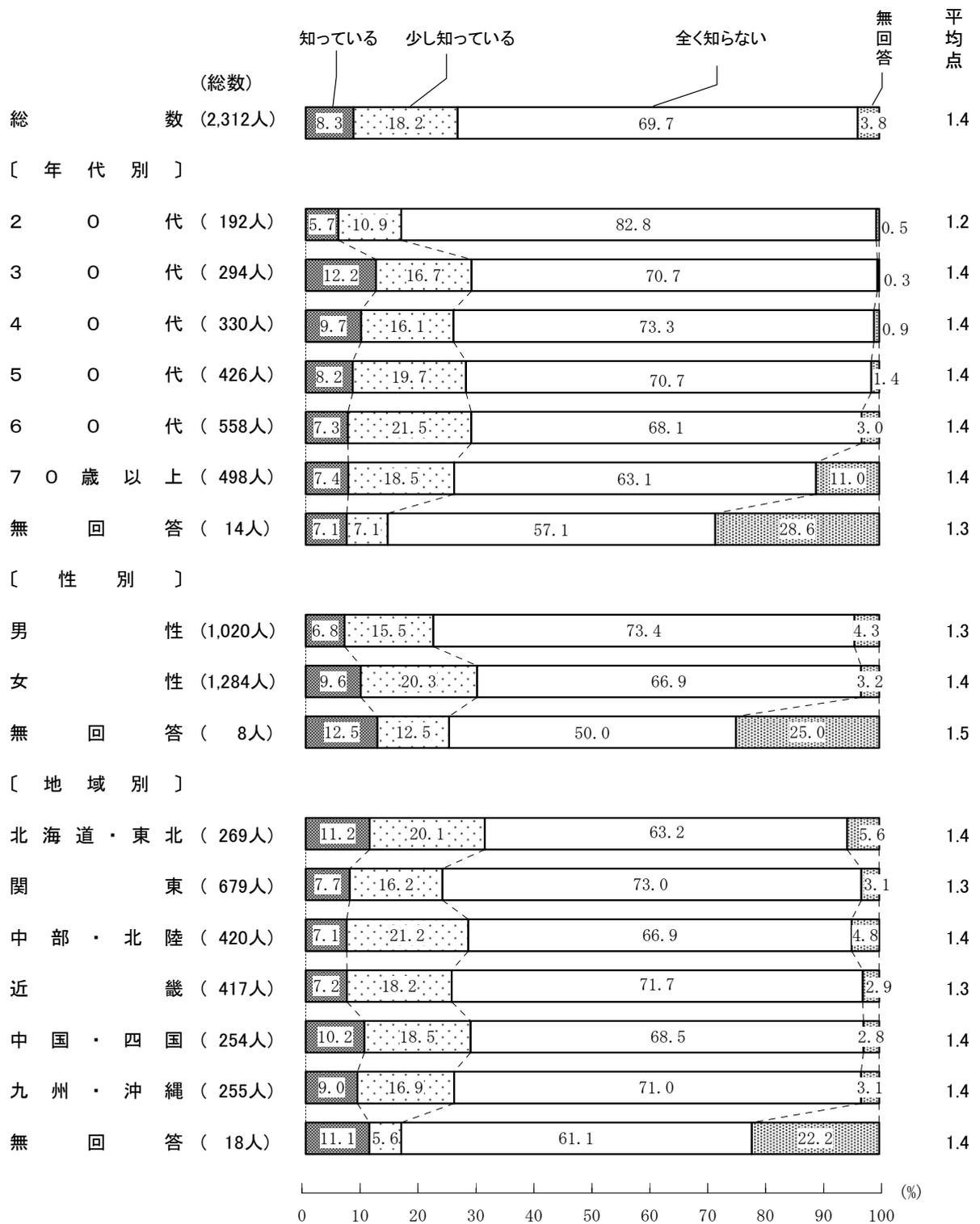
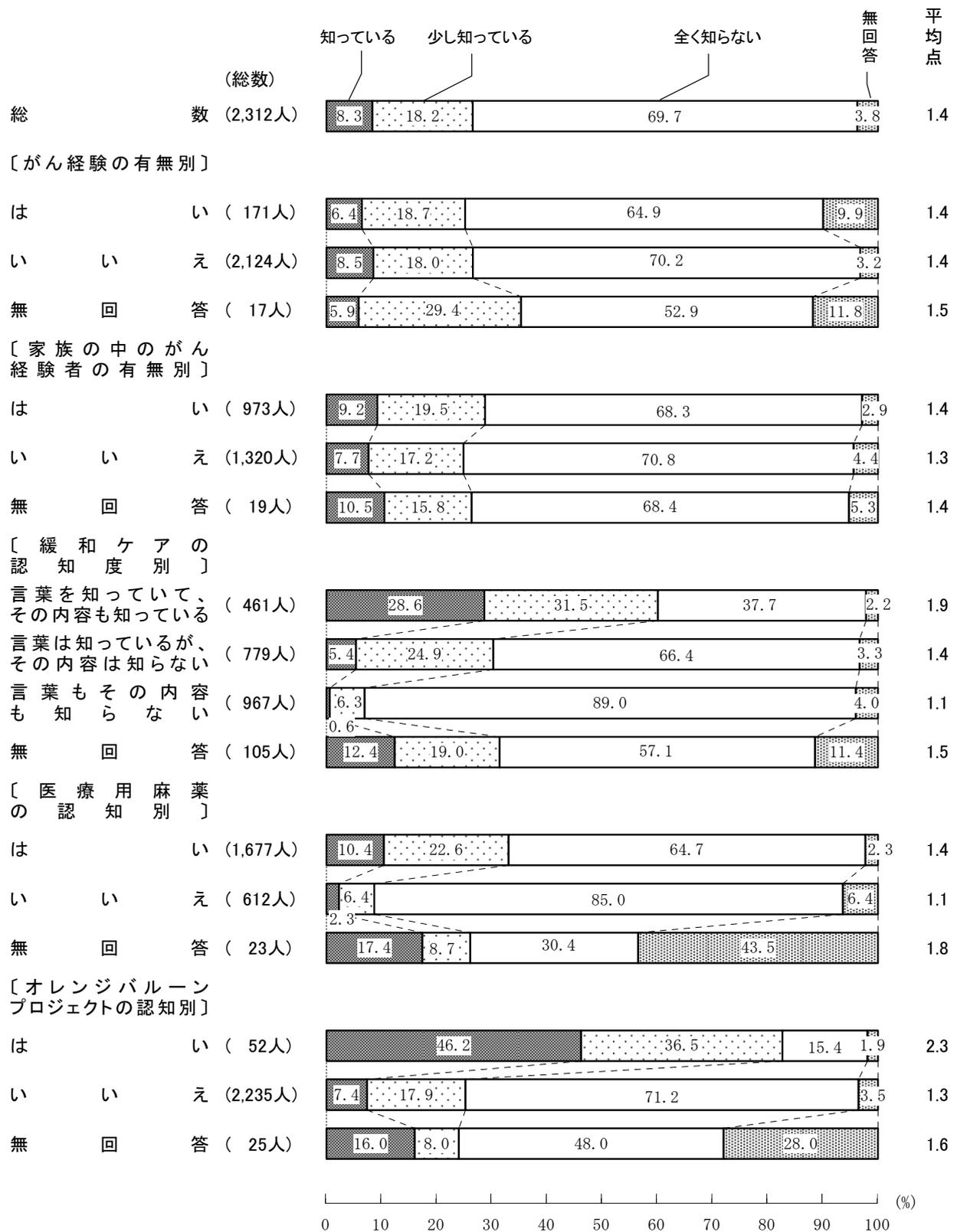
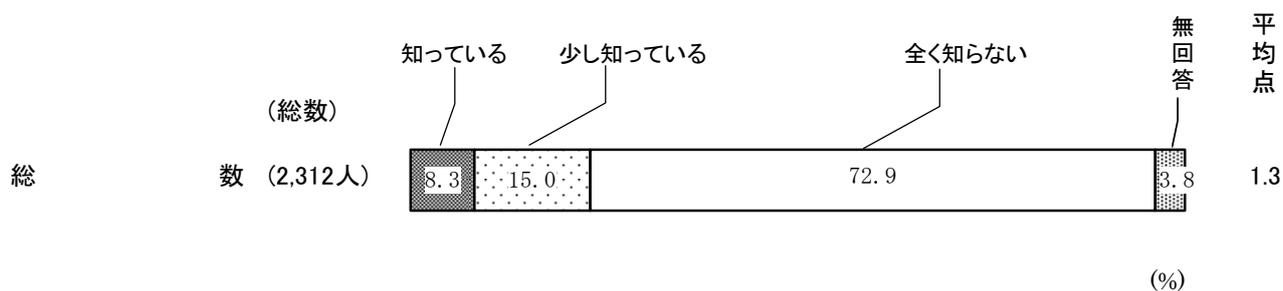


図7-4 (2) エ 緩和ケアは医療従事者だけでなく、ボランティアなどいろいろな人々の協力を
得て行っている



(5) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない



上記(5)についてきいたところ、「知っている」が8.3%、「少し知っている」が15.0%、「全く知らない」が72.9%となっている。平均点は1.3である。

年代別にみると、「知っている」は40代(13.3%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(10.2%)が男性(5.9%)を上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が10.9%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」では「知っている」が27.8%と高く、平均点も1.9となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が11.0%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が44.2%、平均点は2.2と高くなっている。

<図7-5(1)、図7-5(2)>

図7-5 (1) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない

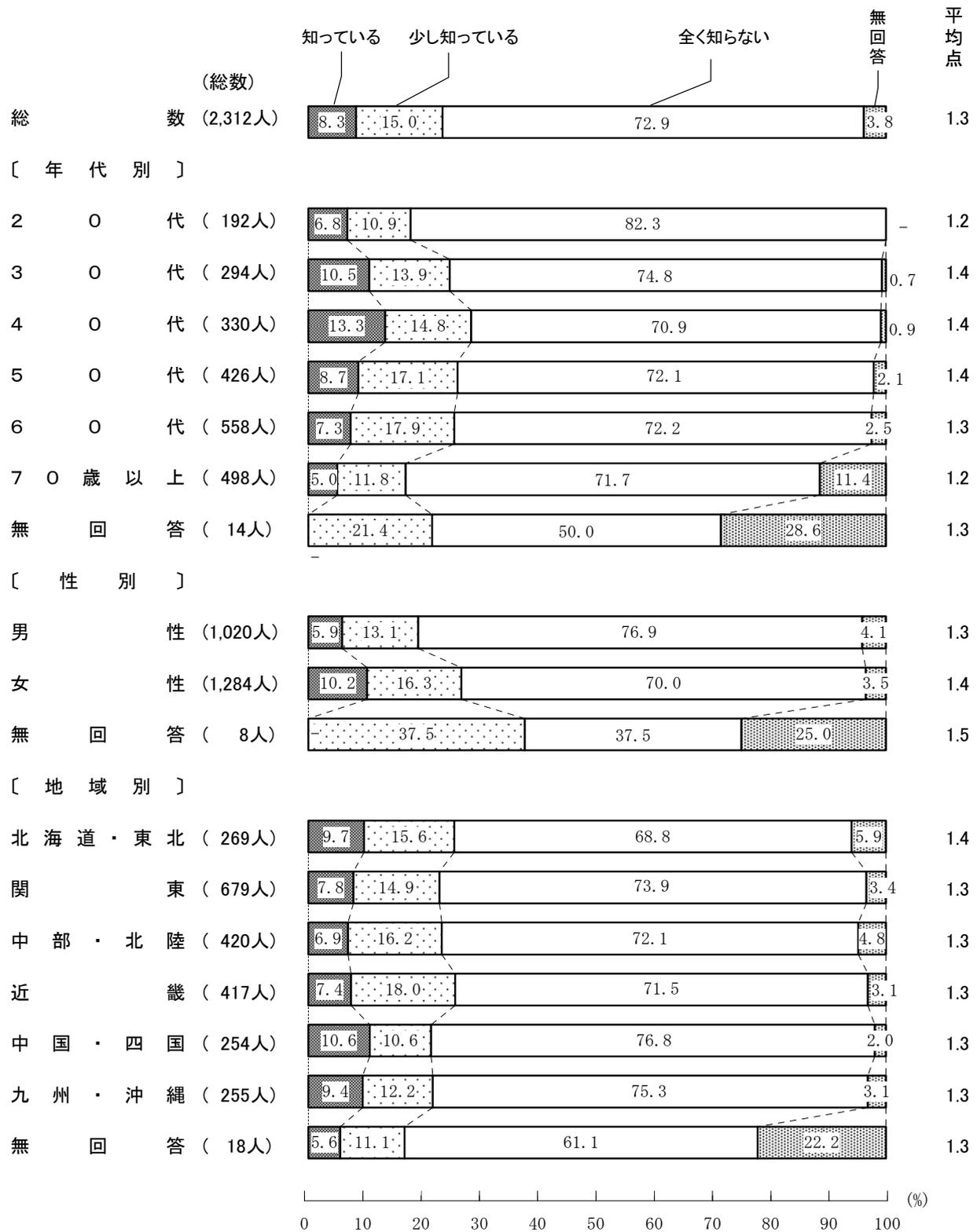
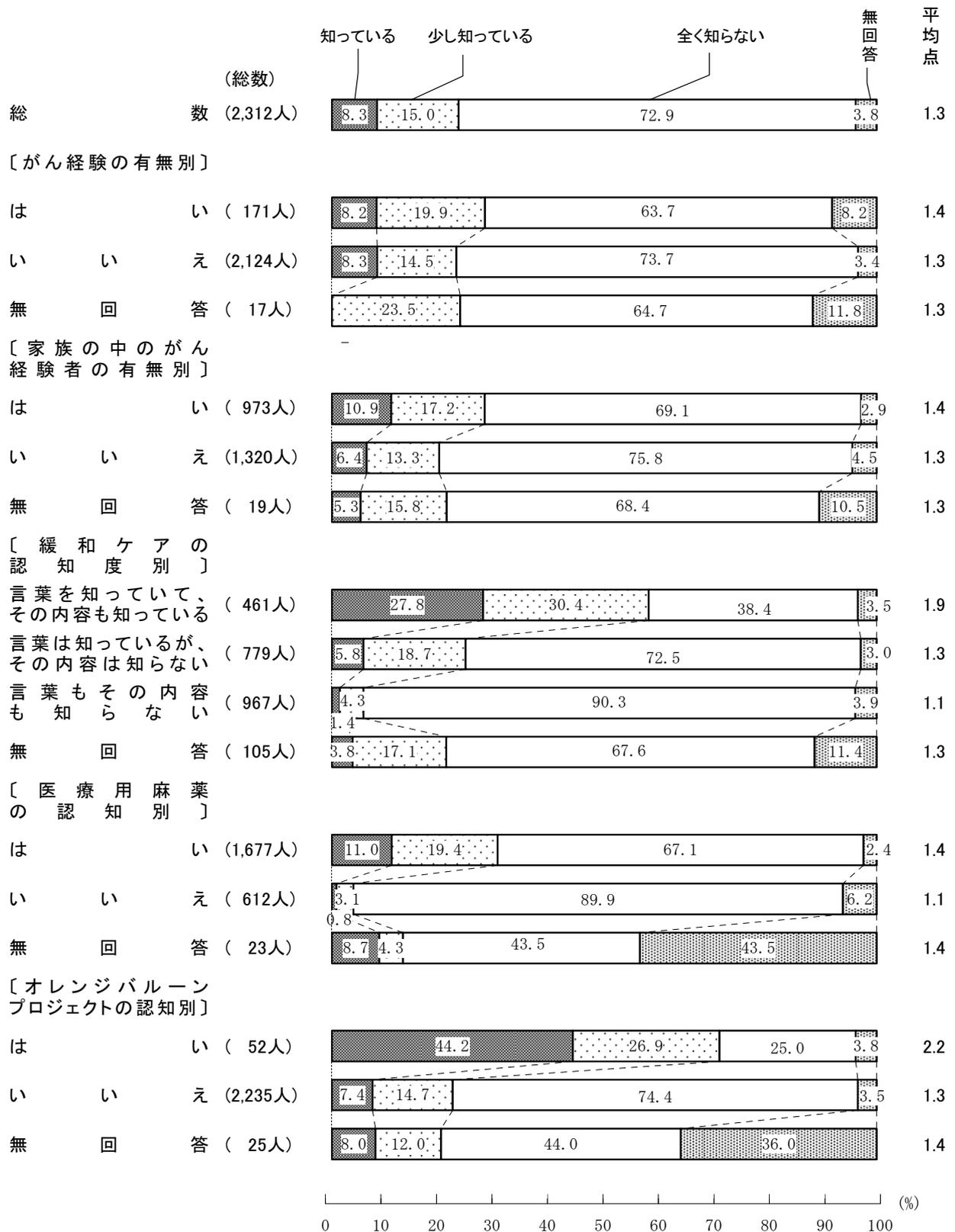
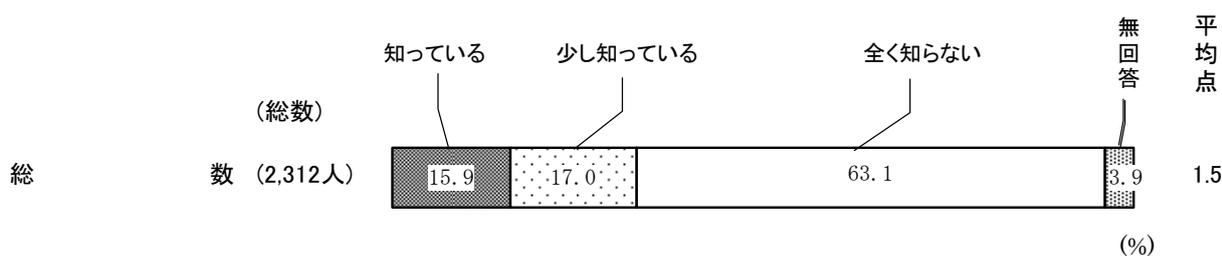


図7-5 (2) オ 緩和ケアで用いられる医療用麻薬は、がんなどによる慢性疼痛の患者では中毒症状を起こすことはほとんどない



(6) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



上記(6)についてきいたところ、「知っている」が15.9%、「少し知っている」が17.0%、「全く知らない」が63.1%となっている。平均点は1.5である。

年代別にみると、「知っている」は40代(19.7%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(19.8%)と男性(11.1%)に9ポイントの差があり、平均点は、女性の1.6が男性の1.4を上回っている。

地域別では大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が19.2%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が45.3%と高く、平均点も2.2となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が20.5%とやや高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が46.2%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-6(1)、図7-6(2)>

図7-6 (1) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない

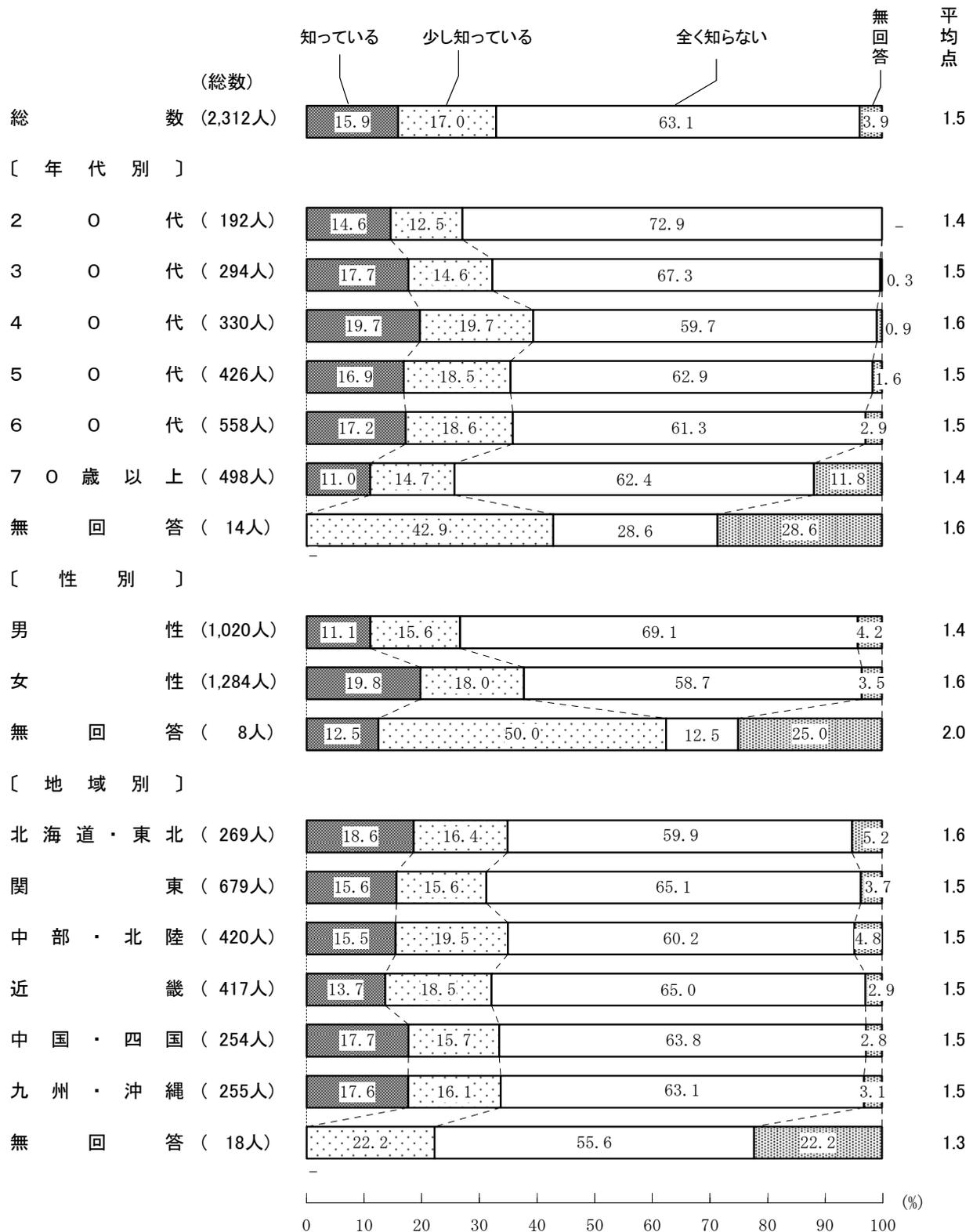
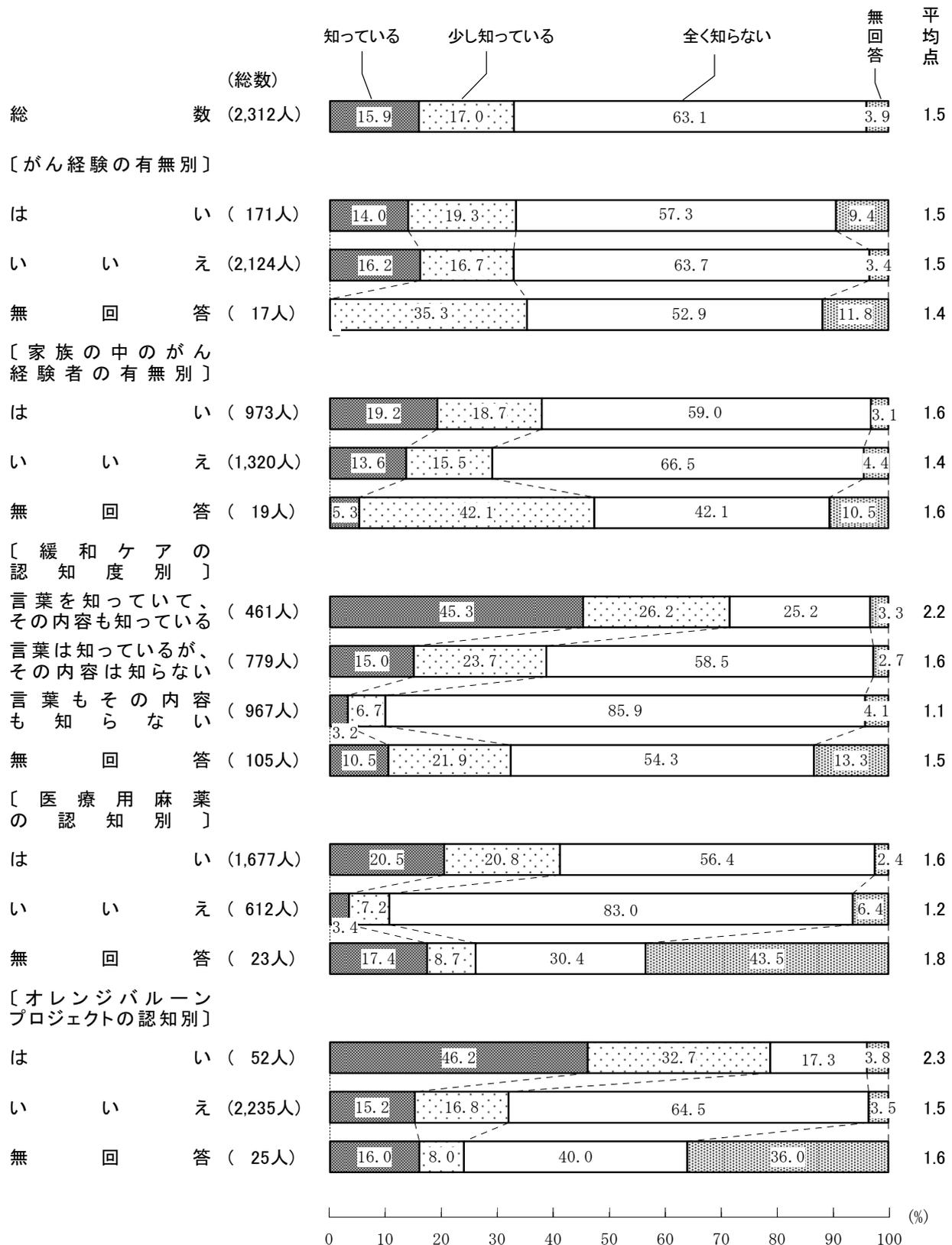
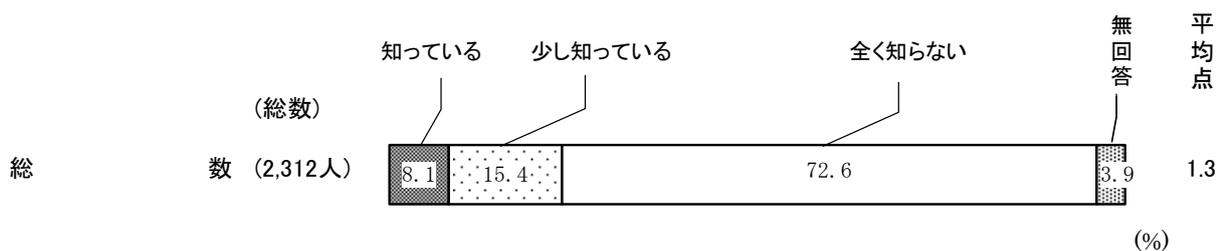


図7-6 (2) カ 緩和ケアを受けることによって寿命が短くなることはない



(7) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる



上記(7)についてきいたところ、「知っている」が8.1%、「少し知っている」が15.4%、「全く知らない」が72.6%となっている。平均点は1.3である。

年代別にみると、「知っている」は40代(12.7%)でやや高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(9.5%)が男性(6.4%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が10.1%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、“その内容も知っている”では「知っている」が29.1%と高く、平均点も1.9となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が10.3%とやや高くなっている。

「オレンジバルーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が53.8%、平均点は2.3と高くなっている。

<図7-7(1)、図7-7(2)>

図7-7(1) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる

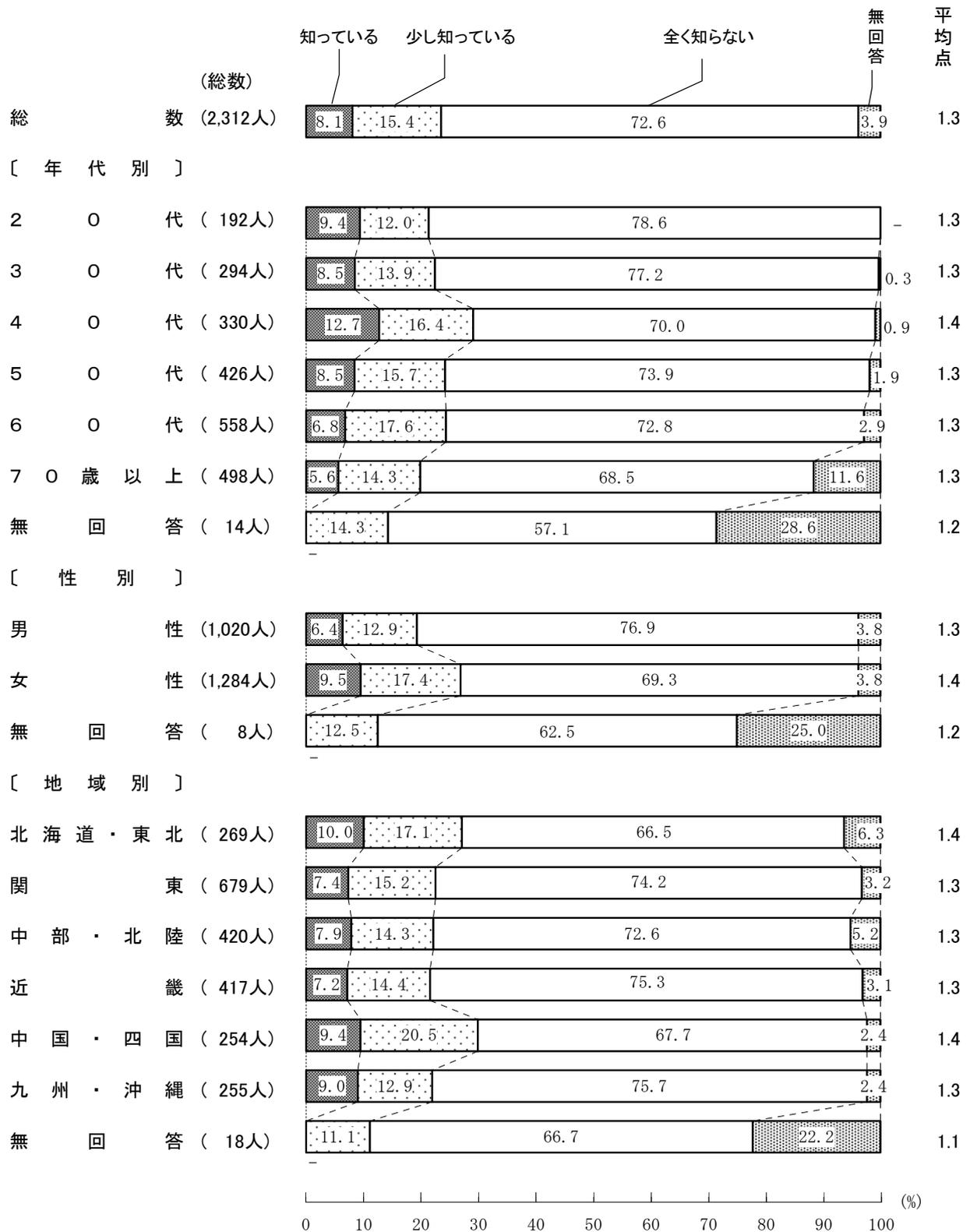
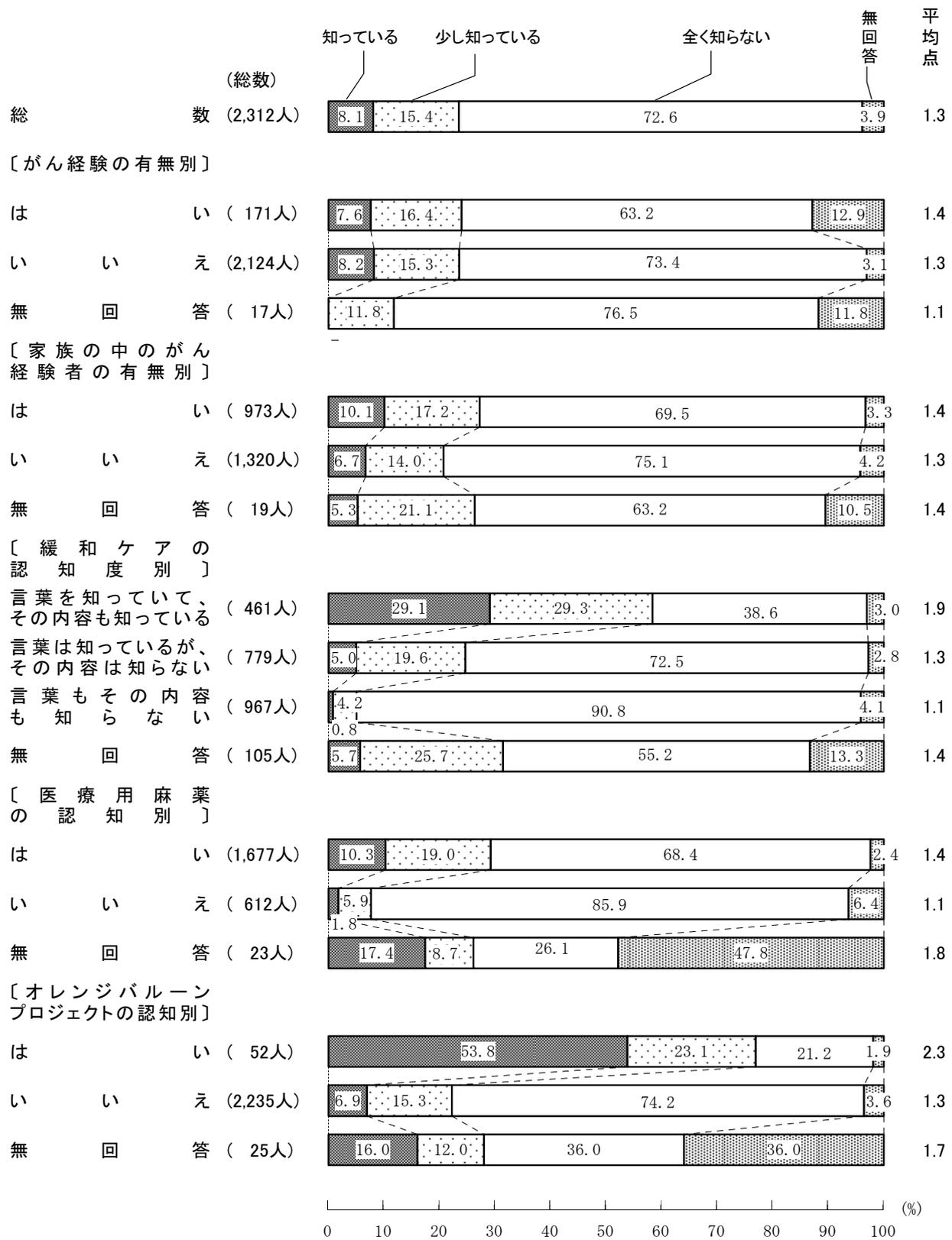
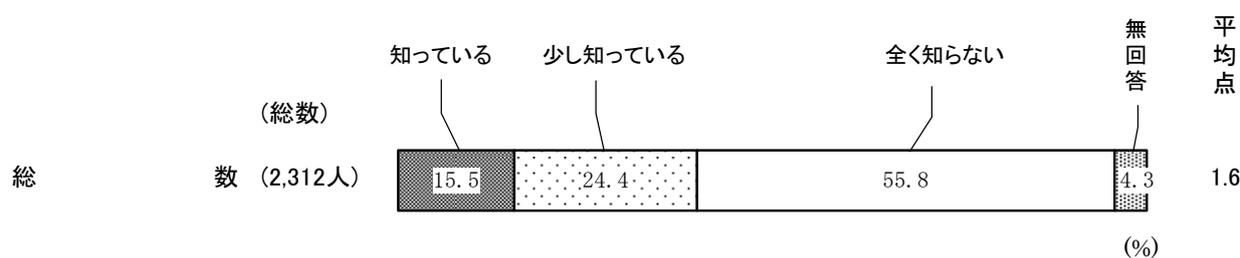


図7-7 (2) キ 緩和ケア病棟以外に、がん診療連携拠点病院でも緩和ケアを受けることができる



(8) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善すると
いわれている



上記(8)についてきいたところ、「知っている」が15.5%、「少し知っている」が24.4%、「全く知らない」が55.8%となっている。平均点は1.6である。

年代別にみると、「知っている」は30代(20.7%)、40代(26.7%)で高くなっている。

性別にみると、「知っている」は女性(18.5%)が男性(12.0%)をやや上回っている。

地域別では、「知っている」の割合に大きな差はみられない。

がん経験の有無別では大きな差はみられない。

家族の中のがん経験者に限定してみると「知っている」が19.5%とやや高くなっている。

緩和ケアの認知度別にみると、「その内容も知っている」では「知っている」が48.8%と高く、平均点も2.4となっている。

医療用麻薬を知っている人に限定してみると、「知っている」が20.3%と高くなっている。

「オレンジバレーンプロジェクト」を知っている人に限定してみると、「知っている」が50.0%、平均点は2.4と高くなっている。

<図7-8(1)、図7-8(2)>

図7-8(1) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善するといわれている

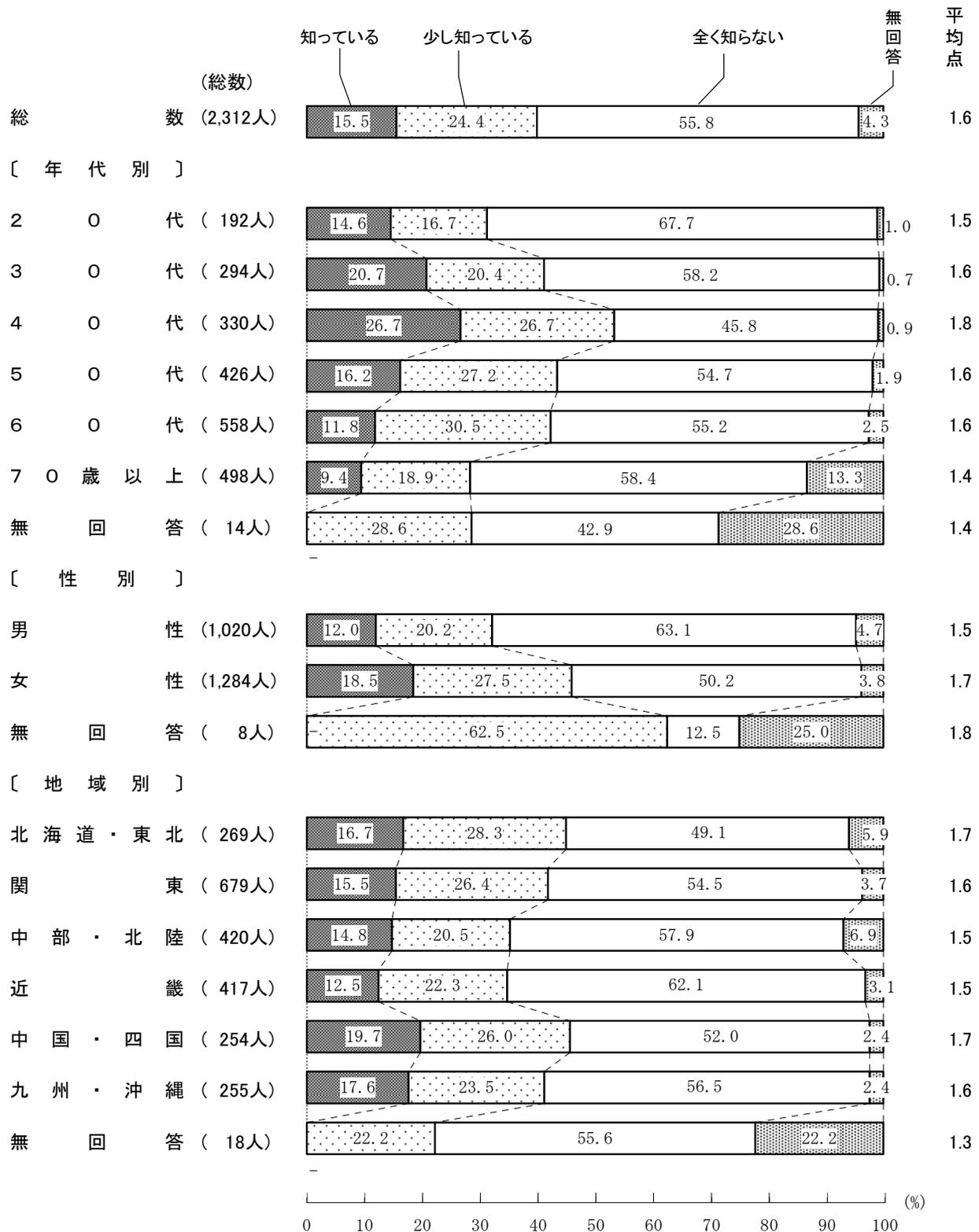
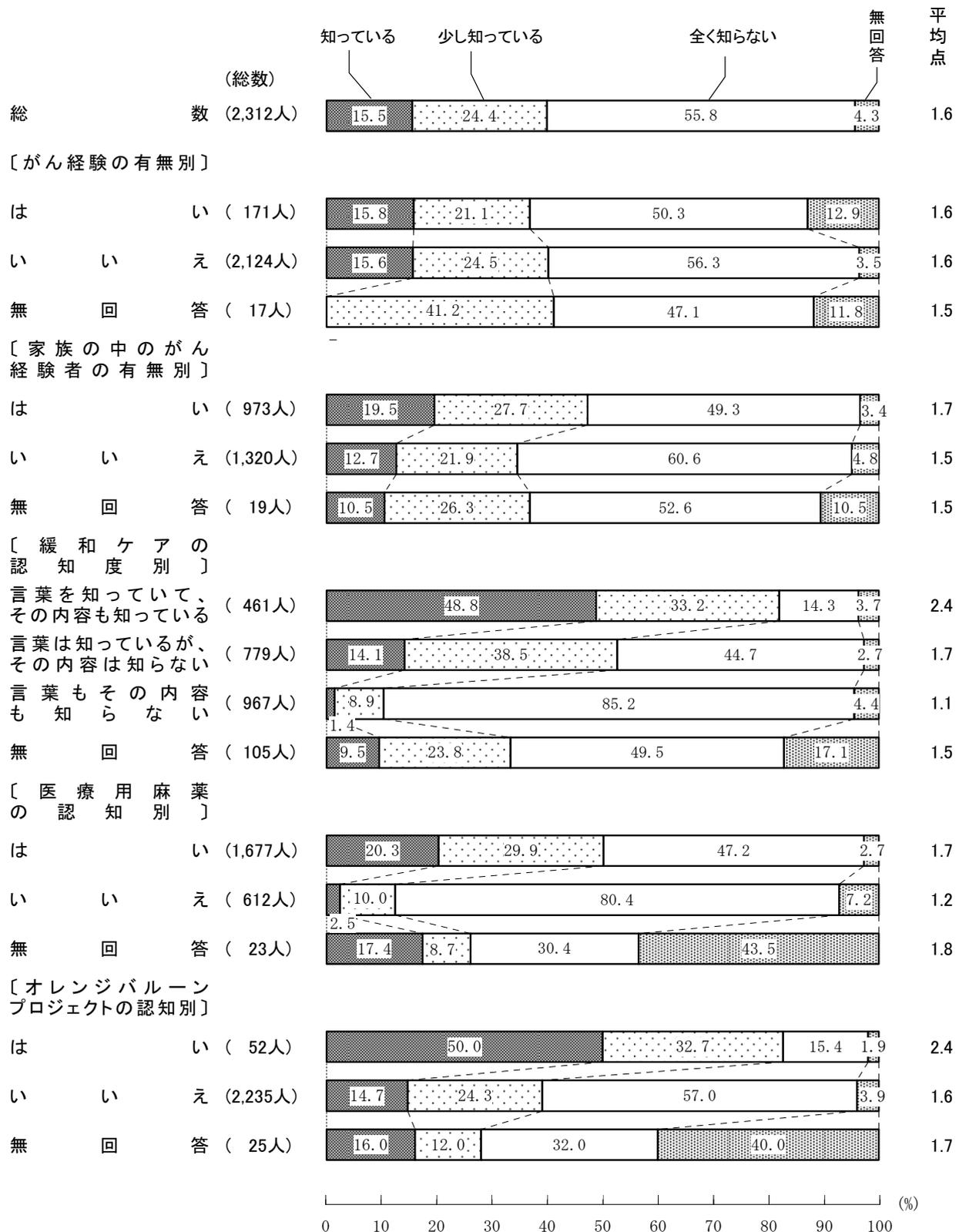


図7-8 (2) ク 緩和ケアを受けることによって、睡眠や食事ができるようになり、QOLは改善するといわれている



8 「オレンジバールンプロジェクト」に期待すること

問8 緩和ケアを普及するための事業「オレンジバールンプロジェクト」に期待されることがあればご記入ください。

問8(自由回答)の分類結果

回答有り 683人／集計数 2,312人中

複数回答

分類軸	内容	回答数
OBP	・OBPのPR(周知)をもっとしてほしい！ ・OBPの周知、公報を徹底してほしい！ ・OBPのことを知りたい(これから勉強したい)！	132
OBP	・OBPを地方(田舎)にも普及してほしい。 ・OBPを高齢者にも普及してほしい。	4
OBP	・OBPは初めて聞いた(聞いたことがなかった)。 ・OBPを知らなかった。	91
OBP	よくわからない(OBPについて)	8
OBP	・がんばってください。 ・期待しています。事業の発展を期待している。 ・よい活動だ。 ・活動を進めてほしい。幅広く活動してほしい。 ・ご苦労様(お疲れ様)です。	55
OBP	・テレビ(CMなど)やラジオで放送してほしい。 ・新聞でPRしてほしい。 ・マスメディアでPRしてほしい。 ・公的施設、病院などでパンフレット、チラシを置いてほしい(配布、掲示してほしい)。 ・広報誌などでPRしてほしい。	74
OBP	OBPの名前についての注文(長い、英語がよくない、変な名前だ等)	6
OBP	地域、公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く(学習する)機会がほしい	4
OBP	ピンクリボンについてのコメント	10
OBP	(その他) OBP への要望、提案、質問	22
OBP	(その他) OBP への批判、苦情、文句	5

つづき

分類軸	内容	回答数
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」の正しい知識の普及を！ ・「緩和ケア」の周知、広報を！ 	94
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」について知りたい。 ・「緩和ケア」についての情報を知りたい。 ・「緩和ケア」に関する情報をキャッチしたい。 ・どこで受けられるか、費用はいくらかかるのか、相談できる所はどこなのかなどを事前に知ることができるようにしてほしい。 	43
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」は初めて知った。 ・「緩和ケア」を(よく)知らなかった。関心がなかった。 	73
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」を受けたい、受けさせたい(現在、もしくはがんになったら)。 ・「緩和ケア」は必要である。 ・もっと身近に「緩和ケア」を利用できるようにしてほしい。 ・「緩和ケア」を普及、推進、充実させてほしい。 ・誰もが「緩和ケア」を受けられるとよい。 	67
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」について、 ・テレビ(CMなど)やラジオで放送してほしい。 ・新聞でPRしてほしい。 ・マスメディアでPRしてほしい。 ・公的施設、病院などでパンフレット、チラシを置いてほしい(配布してほしい)。 ・広報誌などでPRしてほしい。 	34
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」について、地域、公的施設、病院、職場、学校などで話を聞く(学習する)機会がほしい 	9
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・医師(医療関係者)は患者に「緩和ケア」の説明をしてほしい。 ・医師の説明だけでは不安。 ・医師も「緩和ケア」を理解してほしい。 ・医師への教育も必要である。 	17
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・がんの痛み(苦しみ)を解消するために尽力を！ ・痛み(苦しみ)を軽くすることが一番。 ・がん＝痛みというイメージを無くして！ 	37
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・心の緩和ケアが大切である。 ・心の痛みや不安をケアする普及をしてほしい。 ・治療には精神科医も必要である。 	20
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の家族に対するケアやサポートが大切。 	10
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・がん告知時には、きちんとした説明をしてほしい。 ・がん告知時(後)の心のケアを。 ・がんを申告されると、本人も家族も不安。 	3
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の(緩和)ケアは家族でしたい。家族にしてほしい。 ・患者の(緩和)ケアは家でしたい。家でされたい。 	4
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・地域差に関係なく(平等に)受けられるようにしてほしい。 ・「緩和ケア」の病棟や医療設備を充実してほしい、増やしてほしい。 ・近くに「緩和ケア」が受けられる施設があればよい。 ・どの医療機関でも「緩和ケア」が行えるようにしてほしい。 	26
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・QOL(生活の質)の考え方は大切。 ・QOL(生活の質)の向上を！普及を！ ・終末期には安らかに過ごせるようにしてほしい。 ・その人らしい生活をさせてほしい。 ・延命だけの治療はしないでほしい。 ・がん(痛み)で苦しんでいる患者が少しでも充実した日々を過ごすことができるような配慮を望む。 	37

つづき

分類軸	内容	回答数
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・お金のない人でも治療が受けられるようにしてほしい。 ・(家計の)経済的負担の軽減を! ・健康保険が使えるようにしてほしい。 ・財政的な援助を。援助が足りていない。 	27
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・がん(病気)になったら考える。 ・がん(病気)なってみないとわからない。 	14
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でもがんになる可能性がある。 ・がんは増えている、がんになる人は多い。 ・自分もがんになるのかと思うことがある。 	34
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」を以前に知っていたらよかった。 ・「緩和ケア」を事前に知っておきたい。 	16
緩和ケア	<ul style="list-style-type: none"> ・「緩和ケア」は初期からしてほしい。 ・「緩和ケア」は終末期のみというイメージがある。 ・初期ではどういうケアがあるのか。 	7
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) への要望、提案、質問	24
緩和ケア	(その他) 緩和ケア(に関すること) その他	1
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・がんにならないための情報を! ・がんを未然に防いでほしい。 ・がんになる前の検診をしてほしい(検診への要望など)。 ・早期発見をしてほしい。 	3
がん	医療用麻薬についての要望やコメント (正しく使用できる医師を養成してほしい 等)	14
がん	(医療用麻薬以外の)薬についての要望やコメント	3
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・がんは告知すべき(されるべき)。 ・がんの告知について。 	4
がん	・(自身の)がんなどの病気の経験談、辛さ、不安。	14
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・(家族の)がんなどの病気の経験談、辛さ、不安。 ・(友人、知人の)がんなどの病気の経験談、辛さ、不安。 	53
がん	<ul style="list-style-type: none"> ・がんは怖い。 ・がん=不安である。 ・がん=死、がん=不治の病というイメージがある。 	19
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関する要望、提案、質問	6
がん	(その他) がん(治療、施設、医療者、政策)に関する批判、苦情、文句	1
医療全般	安楽死、尊厳死について(安楽死を認めてほしい 等)	4
医療全般	(その他)医療全般 に関する要望、提案、質問	9

つづき

分類軸	内容	回答数
調査 (アンケート)	アンケートの中身が難しい、記入がしにくい(緩和ケア、OBP、QOLなどがよくわからないから)	5
調査 (アンケート)	アンケートは意味がない	1
調査 (アンケート)	・アンケートの質問についてのコメント(疑問)。 ・アンケートの記入についてのコメント。	6
調査 (アンケート)	・「緩和ケア調査」は役に立つ。 ・このアンケートが役に立つことを希望。	1
調査 (アンケート)	・何で私が選ばれたのか。 ・まともなアンケートなのか(不安)。	1
調査 (アンケート)	返送(提出)が遅くなった	2
調査 (アンケート)	調査についてのお礼(OBPや緩和ケアを知るよいきっかけになった)	8
調査 (アンケート)	その他 (調査・アンケート)	4
その他	その他	9

1175